

II 調査結果

II 調査結果

1 政策の満足度、県政への要望調査

県の政策や県政運営に係る項目について、県民の満足度と要望を尋ねた。

調査項目は、県の総合計画である「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー」（平成30年6月）の政策を中心に、計73項目を設定した。また、その73項目を「経済対策・産業振興」、「少子化対策・地域づくり」、「医療福祉、環境保全、防災対策」、「人材の育成」、「県政運営」の5区分に大別し、さらに「産業」、「交流・物流」、「まちづくり・観光」、「子育て・教育」、「県民活動」、「地域づくり」、「健康・福祉」、「環境」、「安全・安心」、「人づくり」、「県政」の11領域に整理した。

なお、分析では、満足度の評価は「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた数値を、反対に不満度の評価は「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた数値をそれぞれの評価の尺度（指標）としている。

(1) 政策の満足度

問1 あなたは県の政策に対してどの程度満足していますか。以下の項目それぞれについて、右の欄の1～5の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。

ア 満足度の高い政策

- ・満足度の上位を見ると、「14 北陸新幹線の整備促進」が45.5%と最も高く、次いで「54 水資源の保全と活用」29.1%、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」27.5%の順となっている。
- ・前回調査と比べると、「47 健康づくりと疾病対策の推進」が2.2ポイント上昇し、21位から9位に順位を上げている。

図表1 政策の満足度（上位10項目）全体

単位：%

順位	区分	領域	項目	満足度	前回(R3年度)
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.5	46.1 (1位)
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	54 水資源の保全と活用	29.1	31.5 (2位)
3	経済対策・産業振興など	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.5	25.2 (8位)
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.8	30.7 (3位)
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	25.7	26.0 (6位)
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.3	28.1 (4位)
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	24.7	26.3 (5位)
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	24.5	25.9 (7位)
9	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.1	20.9 (21位)
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	22.9	23.3 (12位)

〈時系列比較〉

図表2 政策の満足度（上位5項目の時系列比較）

単位：％

順位	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
1	北陸新幹線の整備促進 46.0	北陸新幹線の整備促進 45.8	北陸新幹線の整備促進 50.5	北陸新幹線の整備促進 46.1	北陸新幹線の整備促進 45.5
2	水資源の保全と活用 30.2	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 29.7	水資源の保全と活用 33.4	水資源の保全と活用 31.5	水資源の保全と活用 29.1
3	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 28.1	水資源の保全と活用 27.6	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 29.9	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 30.7	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 27.5
4	子育て支援 24.6	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 25.3	利便性の高い道路 ネットワークの整備 28.7	利便性の高い道路 ネットワークの整備 28.1	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 25.8
5	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 24.5	スポーツの振興 24.7	雪に強いまちづくり 28.3	子育て支援 26.3	医療提供体制の充実 25.7

イ 不満度の高い政策

- ・不満度の上位を見ると、「59 雪に強いまちづくり」が47.0%と最も高く、次いで「21 中心市街地の賑わいの創出」46.5%、「1 景気対策(物価高騰対策などを含む)」42.4%の順となっている。
- ・「1 景気対策(物価高騰対策などを含む)」は42.4%と前回調査よりも12.1ポイント上昇し、13位から3位となっている。

図表3 政策の不満度（上位10項目）

単位：％

順位	区分	領域	項目	不満度	前回(R3年度)
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	47.0	55.3 (1位)
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	46.5	48.5 (2位)
3	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	42.4	30.3 (13位)
4	経済対策・産業振興など	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.7	40.5 (3位)
5	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.9	39.1 (4位)
6	経済対策・産業振興など	産業	10 雇用の確保と人材の育成	36.7	33.7 (8位)
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23 富山のブランド力アップ	36.7	36.0 (7位)
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	36.3 (6位)
9	県政運営	県政	71 スピード重視の県政	34.8	38.9 (5位)
10	県政運営	県政	69 オープンでわかりやすい県政	32.8	33.7 (8位)

〈時系列比較〉

図表4 政策の不満度（上位5項目の時系列比較）

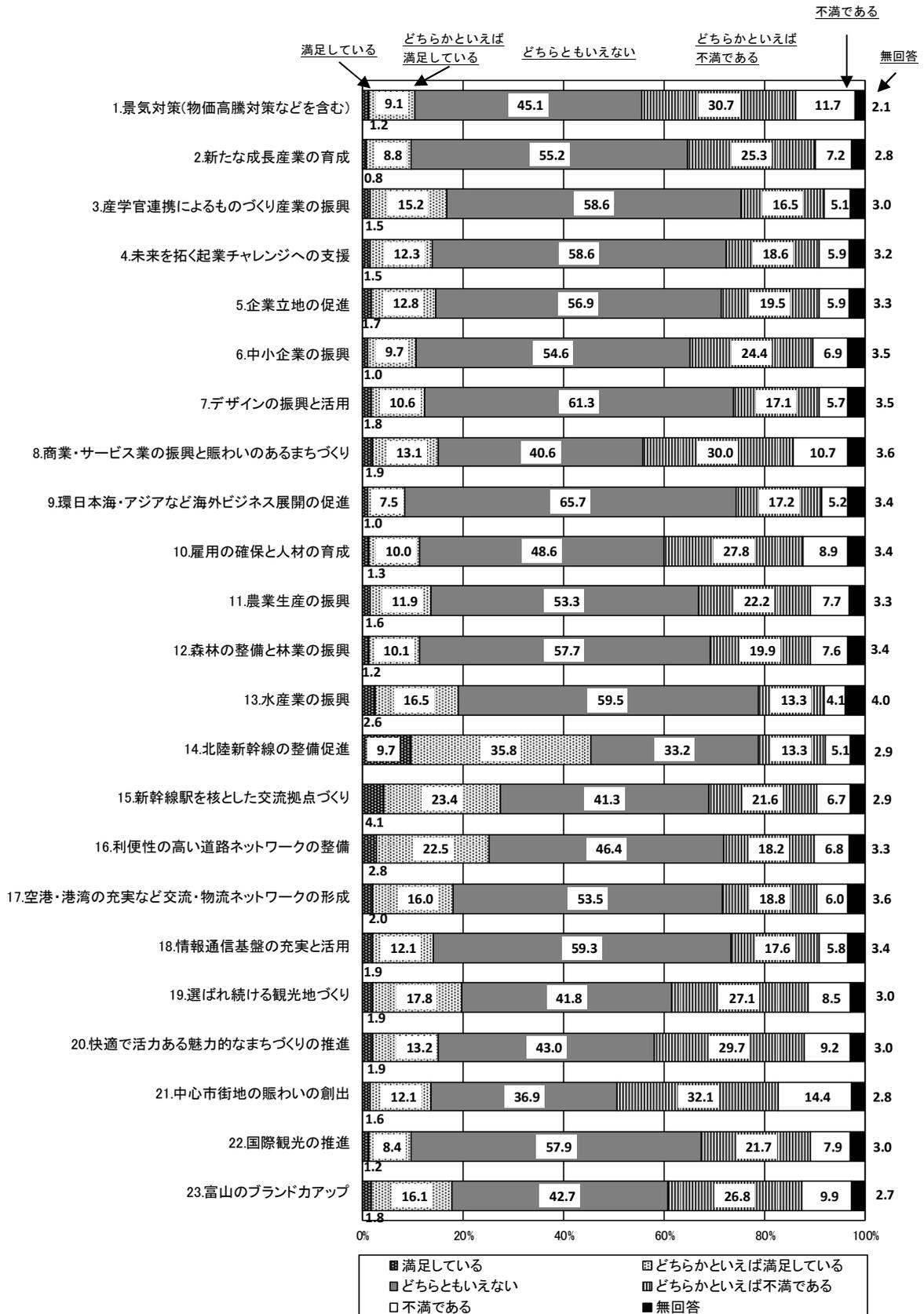
単位：％

順位	H30	R1	R2	R3	R4
1	中心市街地の賑わいの創出 44.4	中心市街地の賑わいの創出 48.1	中心市街地の賑わいの創出 46.0	雪に強いまちづくり 55.3	雪に強いまちづくり 47.0
2	雪に強いまちづくり 41.4	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 38.0	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 39.0	中心市街地の賑わいの創出 48.5	中心市街地の賑わいの創出 46.5
3	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 36.3	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 37.8	スピード重視の県政 38.6	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 40.5	景気対策(物価高騰対策な どを含む) 42.4
4	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 35.0	選ばれ続ける観光地 づくり 34.5	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 37.4	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 39.1	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 40.7
5	選ばれ続ける観光地 づくり 33.8	雇用の確保と人材の育成 32.2	「とやまから日本を変える」 改革と創造 34.7	スピード重視の県政 38.9	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 38.9

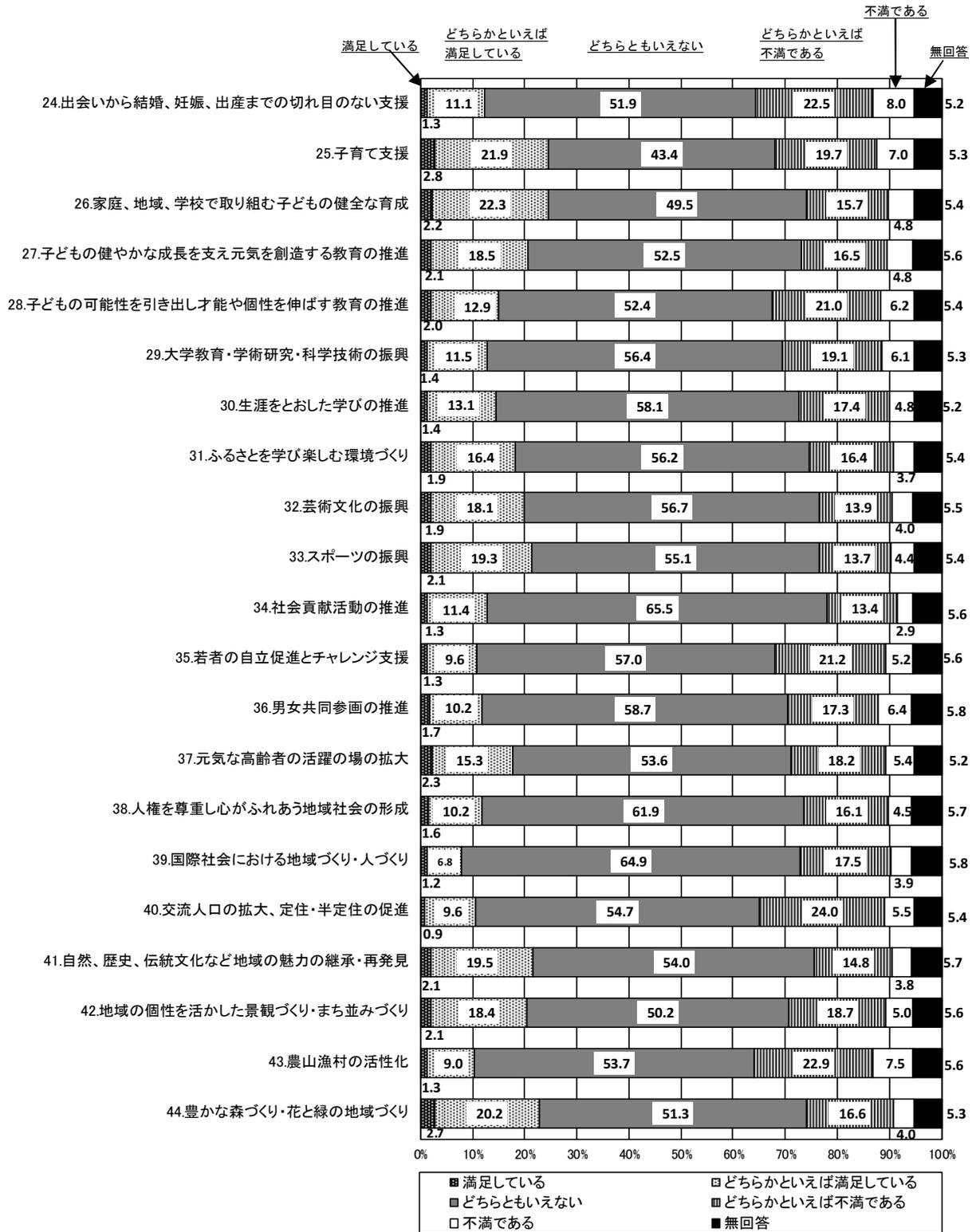
図表5 政策の満足度（分野別）

単位：%

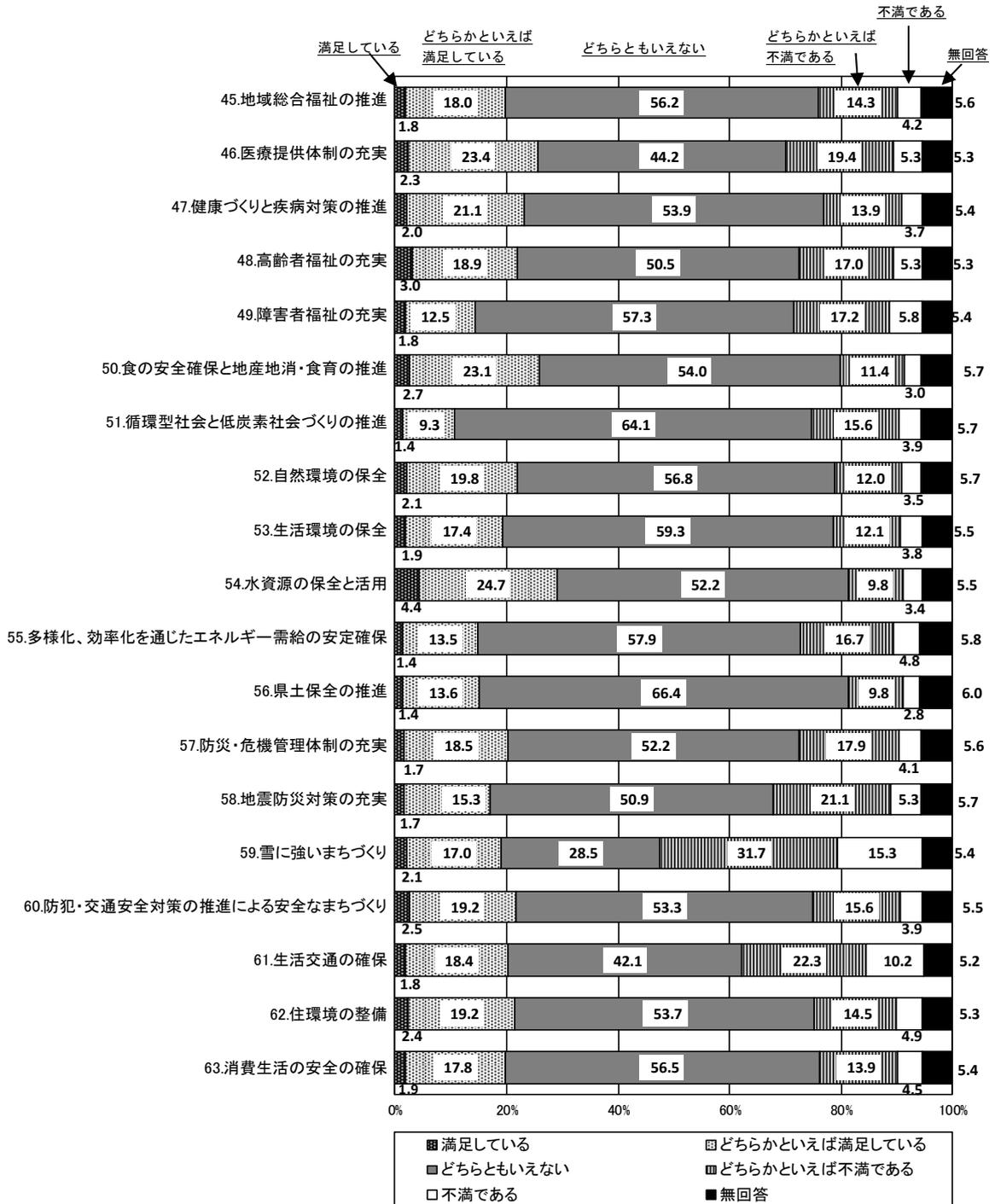
【経済対策・産業振興など】



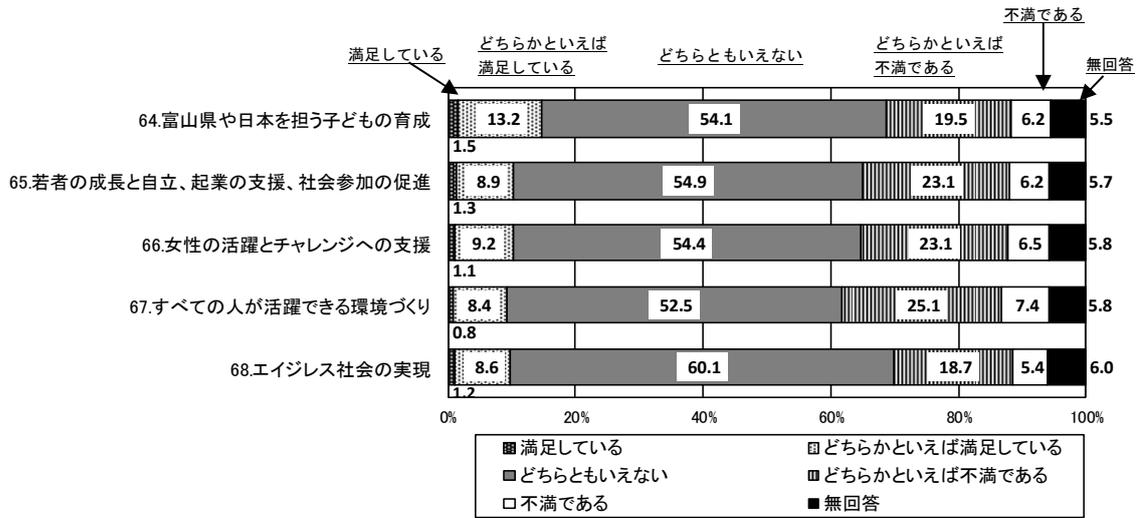
【少子化対策・地域づくりなど】



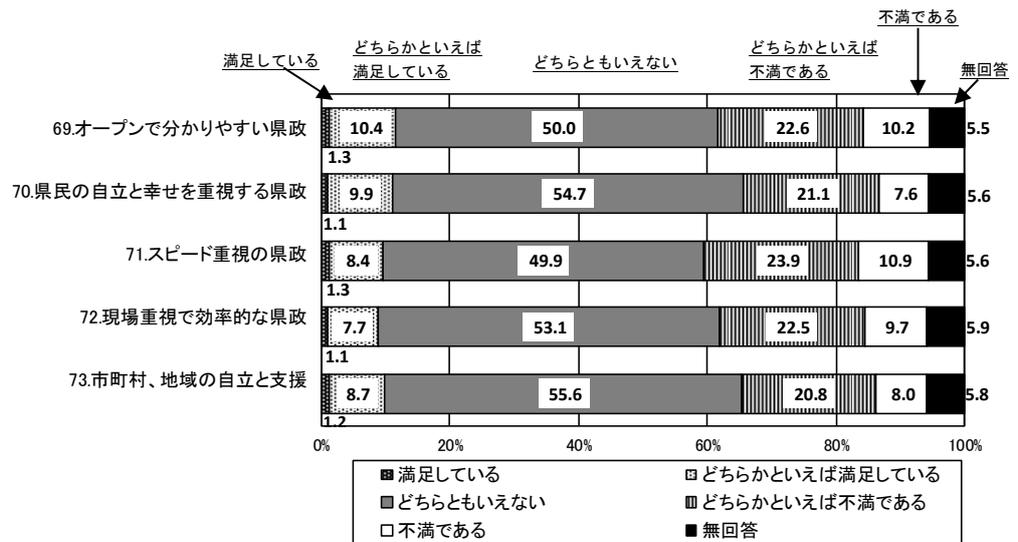
【医療福祉、環境保全、防災対策など】



【人材の育成】



【県政運営】



(2) 属性別に見る政策の満足度

ア 政策の満足度

(ア) 性別

- ・「男性」「女性」とともに、「14 北陸新幹線の整備促進」が最も高くなっている。
- ・「14 北陸新幹線の整備促進」は、「男性」が48.4%に対して「女性」が43.3%と、「男性」が5.1ポイント高く、「46 医療提供体制の充実」は「男性」が28.5%に対して「女性」が23.4%と、「男性」が5.1ポイント高くなっている。
- ・「25 子育て支援」は「男性」が20.8%に対して「女性」は28.4%と、「女性」が7.6ポイント高くなっている。

図表6 満足度（上位10項目）の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.5	48.4	43.3	▲ 5.1
2	医療福祉、環境保全、 防災対策など	環境	54 水資源の保全と活用	29.1	31.8	26.9	▲ 4.9
3	経済対策・産業振興など	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.5	29.6	25.7	▲ 3.9
4	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.8	23.4	27.9	4.5
5	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	25.7	28.5	23.4	▲ 5.1
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.3	26.7	24.4	▲ 2.3
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	24.7	20.8	28.4	7.6
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	24.5	23.2	26.0	2.8
9	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.1	23.7	22.7	▲ 1.0
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	22.9	19.8	25.2	5.4

図表7 男女別の政策の満足度（上位10項目）

単位：%

男性			女性		
順位	項目	満足度	順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	48.4	1	14 北陸新幹線の整備促進	43.3
2	54 水資源の保全と活用	31.8	2	25 子育て支援	28.4
3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.6	3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	27.9
4	46 医療提供体制の充実	28.5	4	54 水資源の保全と活用	26.9
5	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.7	5	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	26.0
6	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.7	6	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.7
7	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	23.4	7	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	25.2
8	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.2	8	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.4
9	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	22.9	9	46 医療提供体制の充実	23.4
10	52 自然環境の保全	21.5	10	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	23.1

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(イ) 年齢別

- すべての年代で「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が最も高くなっている。「18、19歳」では72.4%、「20～29歳」では56.7%と特に高くなっている。
- 「18、19歳」は、県平均(全体)では28位(18.3%)の「31 ふるさとを学び楽しむ環境づくり」が3位(58.6%)、県平均(全体)では31位(17.6%)の「37 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が10位(55.2%)に入っているなど、県平均(全体)では10位以内に入っていない項目が8項目入っている。
- 「20～29歳」は、県平均(全体)では14位(21.6%)の「41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見」が5位(37.1%)、県平均(全体)では25位(19.3%)の「53 生活環境の保全」が6位(36.1%)になっているなど、県平均(全体)では10位以内に入っていない項目が5項目入っている。
- 「40～49歳」では、県平均(全体)で7位(24.7%)の「25 子育て支援」が3位(28.0%)と上位となっている。
- 県平均(全体)では10位以内に入っていない項目では、「60～69歳」で「62 住環境の整備」が9位(22.4%)に、「70歳以上」では「48 高齢者福祉の充実」が6位(23.0%)、「45 地域総合福祉の推進」が7位(21.4%)となっている。

図表8 満足度(上位10項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.5	72.4	56.7	46.0	43.6	48.6	45.0	41.2
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	54 水資源の保全と活用	29.1	55.2	42.2	24.4	29.8	30.0	26.8	27.4
3	経済対策・産業振興など	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.5	51.7	35.0	30.7	22.3	30.3	27.3	24.3
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.8	51.7	49.5	28.7	25.6	26.9	22.7	20.1
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	25.7	51.7	28.9	23.9	26.6	25.1	22.6	26.2
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.3	41.4	35.0	33.5	22.3	27.7	24.7	19.7
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	24.7	37.9	22.7	30.2	28.0	25.7	22.7	21.0
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	24.5	48.2	24.8	27.8	26.7	28.3	21.6	20.3
9	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.1	58.6	26.8	18.2	22.0	18.6	23.4	25.6
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	22.9	55.1	36.1	27.2	24.4	23.4	17.7	18.9

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表9 年齢別の政策の満足度（上位10項目）

単位：%

18、19歳

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	72.4
2	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	62.1
3	31 ふるさとを学び楽しむ環境づくり	58.6
	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	58.6
	42 地域の個性を活かした景観づくり・まち並みづくり	58.6
	47 健康づくりと疾病対策の推進	58.6
	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	58.6
	61 生活交通の確保	58.6
	63 消費生活の安全の確保	58.6
10	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	55.2

20～29歳

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	56.7
2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	49.5
3	54 水資源の保全と活用	42.2
4	52 自然環境の保全	41.3
5	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	37.1
6	42 地域の個性を活かした景観づくり・まち並みづくり	36.1
	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	36.1
	53 生活環境の保全	36.1
9	63 消費生活の安全の確保	35.1
10	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	35.0

30～39歳

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	46.0
2	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	33.5
3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.7
4	25 子育て支援	30.2
5	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.7
6	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	27.8
7	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	27.2
8	42 地域の個性を活かした景観づくり・まち並みづくり	26.3
9	33 スポーツの振興	25.3
10	62 住環境の整備	24.9

40～49歳

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	43.6
2	54 水資源の保全と活用	29.8
3	25 子育て支援	28.0
4	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	26.7
5	46 医療提供体制の充実	26.6
6	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.6
7	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	24.4
8	62 住環境の整備	23.4
9	52 自然環境の保全	22.3
	53 生活環境の保全	22.3

50～59歳

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	48.6
2	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.3
3	54 水資源の保全と活用	30.0
4	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	28.3
5	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	27.7
6	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.9
7	25 子育て支援	25.7
8	46 医療提供体制の充実	25.1
9	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	24.9
10	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	23.4

60～69歳

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	45.0
2	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.3
3	54 水資源の保全と活用	26.8
4	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.7
5	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.4
6	25 子育て支援	22.7
6	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	22.7
8	46 医療提供体制の充実	22.6
9	62 住環境の整備	22.4
10	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	21.6

70歳以上

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	41.2
2	54 水資源の保全と活用	27.4
3	46 医療提供体制の充実	26.2
4	47 健康づくりと疾病対策の推進	25.6
5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.3
6	48 高齢者福祉の充実	23.0
7	45 地域総合福祉の推進	21.4
8	25 子育て支援	21.0
9	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	20.3
10	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	20.1

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(ウ) 地域別

- すべての地域で「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が最も高く、特に「富山地域」では53.7%と県平均(全体)よりも8.2ポイント高くなっている。
- 「富山地域」は、県平均(全体)では3位(27.5%)の「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が2位(35.3%)と、県平均(全体)よりも7.8ポイント高くなっている。また県平均(全体)では14位(21.6%)の「62 住環境の整備」が9位(22.9%)となっている。
- 「高岡地域」では「14 北陸新幹線の整備促進」が36.4%と県平均(全体)よりも9.1ポイント低くなっている。県平均(全体)では10位以内に入っていない「41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見」が8位(24.1%)に、「48 高齢者福祉の充実」が9位(23.9%)に入っている。
- 「魚津地域」では県平均(全体)では10位以内に入っていない「60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」が6位(24.5%)に、「57 防災・危機管理体制の充実」が8位(22.9%)に入っている。
- 「砺波地域」では県平均(全体)では10位以内に入っていない「60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」などの2項目が入っている。

図表10 満足度（上位10項目）の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.5	53.7	36.4	44.6	40.4
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	54 水資源の保全と活用	29.1	30.1	28.8	27.5	28.0
3	経済対策・産業振興など	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.5	35.3	19.0	25.4	23.7
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.8	25.8	26.3	22.6	29.3
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	25.7	26.4	26.1	20.9	29.9
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.3	26.7	24.9	23.4	25.0
7	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	24.7	22.6	25.2	25.9	28.5
8	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	24.5	22.3	25.5	25.9	28.1
9	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.1	21.7	23.1	22.0	29.0
10	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	22.9	24.2	20.8	18.8	28.5

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表11 地域別の政策の満足度（上位10項目）

単位：％

富山地域

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	53.7
2	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	35.3
3	54 水資源の保全と活用	30.1
4	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.7
5	46 医療提供体制の充実	26.4
6	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.8
7	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	24.2
8	52 自然環境の保全	23.3
9	62 住環境の整備	22.9
10	25 子育て支援	22.6

高岡地域

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	36.4
2	54 水資源の保全と活用	28.8
3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.3
4	46 医療提供体制の充実	26.1
5	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.5
6	25 子育て支援	25.2
7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.9
8	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	24.1
9	48 高齢者福祉の充実	23.9
10	47 健康づくりと疾病対策の推進	23.1

魚津地域

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	44.6
2	54 水資源の保全と活用	27.5
3	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.9
	25 子育て支援	25.9
5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.4
6	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	24.5
7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.4
8	57 防災・危機管理体制の充実	22.9
9	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	22.6
10	47 健康づくりと疾病対策の推進	22.0

砺波地域

順位	項目	満足度
1	14 北陸新幹線の整備促進	40.4
2	46 医療提供体制の充実	29.9
3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.3
4	47 健康づくりと疾病対策の推進	29.0
5	25 子育て支援	28.5
	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	28.5
7	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	28.1
8	54 水資源の保全と活用	28.0
9	59 雪に強いまちづくり	26.8
10	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	25.9

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

イ 政策の不満度

(ア) 性別

- ・上位10項目のすべての項目で、「男性」が「女性」よりも高くなっている。
- ・「男性」は「21 中心市街地の賑わいの創出」、「女性」は「59 雪に強いまちづくり」が最も高くなっている。
- ・「23 富山のブランドカアップ」は、「男性」が41.1%に対して「女性」が32.7%と、「男性」が8.4ポイント高く、「21 中心市街地の賑わいの創出」は「男性」が50.7%に対して「女性」は43.2%と、「男性」が7.5ポイント高くなっている。
- ・「男性」は、県平均(全体)では11位(32.5%)の「2 新たな成長産業の育成」が8位(39.7%)、県平均(全体)では15位(31.3%)の「6 中小企業の振興」が10位(37.8%)に入っている。
- ・「女性」は、県平均(全体)では11位(32.5%)の「67 [働き盛り]すべての人が活躍できる環境づくり」が10位(31.9%)に入っている。

図表12 不満度（上位10項目）の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	医療福祉、環境保全、 防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	47.0	48.6	45.8	▲ 2.8
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・ 観光	21 中心市街地の賑わいの創出	46.5	50.7	43.2	▲ 7.5
3	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	42.4	44.4	40.7	▲ 3.7
4	経済対策・産業振興など	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.7	43.1	39.0	▲ 4.1
5	経済対策・産業振興など	まちづくり・ 観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.9	41.0	37.3	▲ 3.7
6	経済対策・産業振興など	産業	10 雇用の確保と人材の育成	36.7	40.4	33.9	▲ 6.5
	経済対策・産業振興など	まちづくり・ 観光	23 富山のブランドカアップ	36.7	41.1	32.7	▲ 8.4
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・ 観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	38.7	33.3	▲ 5.4
9	県政運営	県政	71 スピード重視の県政	34.8	37.2	32.5	▲ 4.7
10	県政運営	県政	69 オープンでわかりやすい県政	32.8	36.1	30.0	▲ 6.1

図表13 男女別の政策の不満度（上位10項目）

単位：%

男性			女性		
順位	項目	不満度	順位	項目	不満度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	50.7	1	59 雪に強いまちづくり	45.8
2	59 雪に強いまちづくり	48.6	2	21 中心市街地の賑わいの創出	43.2
3	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	44.4	3	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	40.7
4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	43.1	4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	39.0
5	23 富山のブランドカアップ	41.1	5	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.3
6	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	41.0	6	10 雇用の確保と人材の育成	33.9
7	10 雇用の確保と人材の育成	40.4	7	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.3
8	2 新たな成長産業の育成	39.7	8	23 富山のブランドカアップ	32.7
9	19 選ばれ続ける観光地づくり	38.7	9	71 スピード重視の県政	32.5
10	6 中小企業の振興	37.8	10	67 [働き盛り]すべての人が活躍できる環境づくり	31.9

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(イ) 年齢別

- ・「18、19歳」は、他の年代に比べて不満度の値が低くなっている。6位の「59 雪に強いまちづくり」は24.1%と県平均(全体)の47.0%に対して22.9ポイント、「1 景気対策(物価高騰対策などを含む)」は24.1%と県平均(全体)の42.4%に対して18.3ポイント、それぞれ低くなっている。
- ・「20～29歳」は、県平均(全体)では16位(30.5%)の「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が6位(36.1%)、県平均(全体)では34位(25.0%)の「16 利便性の高い道路ネットワークの整備」が10位(34.0%)など、県平均(全体)では10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- ・「30～39歳」では、「71 スピード重視の県政」が3位(45.5%)、「69 オープンでわかりやすい県政」が4位(43.6%)で、それぞれ県平均(全体)より約10ポイント高くなっている。
- ・「40～49歳」で県平均(全体)では10位以内に入っていない項目は「67 すべての人が活躍できる環境づくり」が9位(37.7%)に、「50～59歳」では「61 生活交通の確保」では10位(39.1%)に入っている。
- ・「60～69歳」では、県平均(全体)では17位(30.4%)の「43 農山漁村の活性化」が5位(43.4%)に、県平均(全体)では18位(29.9%)の「11 農業生産の振興」が9位(38.1%)となっている。
- ・「70歳以上」では、県平均(全体)では10位以内に入っていない「11 農業生産の振興」や「12 森林の整備と林業の振興」など5項目が入っている。

図表14 不満度(上位10項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	47.0	24.1	47.4	54.0	51.1	52.2	48.1	38.9
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	46.5	20.6	40.2	40.2	51.1	53.1	50.8	41.7
3	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	42.4	24.1	40.2	47.4	48.5	45.7	41.3	37.7
4	経済対策・産業振興など	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.7	27.6	36.0	36.3	41.0	46.8	45.0	37.0
5	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.9	27.6	34.0	37.3	37.1	42.0	45.8	34.8
6	経済対策・産業振興など	産業	10 雇用の確保と人材の育成	36.7	27.5	31.9	41.6	42.5	42.9	38.7	28.1
	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	36.7	27.5	27.9	40.6	40.7	41.7	38.9	30.3
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	31.0	40.2	39.2	36.0	41.5	35.6	29.7
9	県政運営	県政	71 スピード重視の県政	34.8	17.2	36.0	45.5	42.0	40.0	36.8	22.2
10	県政運営	県政	69 オープンでわかりやすい県政	32.8	17.2	42.3	43.6	38.4	36.0	32.7	22.4

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表15 年齢別の政策の不満度（上位10項目）

単位：％

18、19歳

順位	項目	不満度
1	19 選ばれ続ける観光地づくり	31.0
2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	27.6
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	27.6
4	10 雇用の確保と人材の育成	27.5
	23 富山のブランドカアップ	27.5
6	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	24.1
	2 新たな成長産業の育成	24.1
	59 雪に強いまちづくり	24.1
	22 国際観光の推進	24.1
10	11 農業生産の振興	20.7

20～29歳

順位	項目	不満度
1	59 雪に強いまちづくり	47.4
2	69 オープンでわかりやすい県政	42.3
3	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	40.2
	19 選ばれ続ける観光地づくり	40.2
	21 中心市街地の賑わいの創出	40.2
6	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	36.1
7	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	36.0
	71 スピード重視の県政	36.0
9	65 [若者]若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	35.0
10	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	34.0

30～39歳

順位	項目	不満度
1	59 雪に強いまちづくり	54.0
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	47.4
3	71 スピード重視の県政	45.5
4	69 オープンでわかりやすい県政	43.6
5	10 雇用の確保と人材の育成	41.6
6	23 富山のブランドカアップ	40.6
7	21 中心市街地の賑わいの創出	40.2
	72 現場重視で効率的な県政	40.2
9	19 選ばれ続ける観光地づくり	39.2
10	2 新たな成長産業の育成	38.8

40～49歳

順位	項目	不満度
1	59 雪に強いまちづくり	51.1
	21 中心市街地の賑わいの創出	51.1
3	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	48.5
4	10 雇用の確保と人材の育成	42.5
5	71 スピード重視の県政	42.0
6	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	41.0
7	23 富山のブランドカアップ	40.7
8	69 オープンでわかりやすい県政	38.4
9	67 [働き盛り]すべての人が活躍できる環境づくり	37.7
10	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.1

50～59歳

順位	項目	不満度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	53.1
2	59 雪に強いまちづくり	52.2
3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	46.8
4	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	45.7
5	10 雇用の確保と人材の育成	42.9
6	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	42.0
7	23 富山のブランドカアップ	41.7
8	19 選ばれ続ける観光地づくり	41.5
9	71 スピード重視の県政	40.0
10	61 生活交通の確保	39.1

60～69歳

順位	項目	不満度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	50.8
2	59 雪に強いまちづくり	48.1
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	45.8
4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	45.0
5	43 農山漁村の活性化	43.4
6	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	41.3
7	23 富山のブランドカアップ	38.9
8	10 雇用の確保と人材の育成	38.7
9	11 農業生産の振興	38.1
10	71 スピード重視の県政	36.8

70歳以上

順位	項目	不満度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	41.7
2	59 雪に強いまちづくり	38.9
3	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	37.7
4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.0
5	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	34.8
6	11 農業生産の振興	32.6
7	12 森林の整備と林業の振興	32.3
8	61 生活交通の確保	30.9
9	43 農山漁村の活性化	30.6
10	6 中小企業の振興	30.3

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(ウ) 地域別

- ・「富山地域」以外では、「21 中心市街地の賑わいの創出」が1位となっている。
- ・「富山地域」では「59 雪に強いまちづくり」が1位(51.1%)と最も高く、「高岡地域」では3位(46.0%)、「魚津地域」では2位(44.7%)、「砺波地域」では4位(39.5%)となっている。
- ・「高岡地域」では県平均(全体)では10位以内に入っていない、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が6位(43.1%)に、「61 生活交通の確保」が8位(36.7%)に入っている。
- ・「魚津地域」や「砺波地域」では10位以内に「11 農業生産の振興」が入っている。

図表16 不満度(上位10項目)の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	47.0	51.1	46.0	44.7	39.5
2	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	46.5	43.5	52.2	46.0	46.1
3	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	42.4	41.1	44.7	44.7	38.6
4	経済対策・産業振興など	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.7	36.2	48.7	40.5	39.9
5	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.9	36.2	43.9	37.2	40.4
6	経済対策・産業振興など	産業	10 雇用の確保と人材の育成	36.7	36.2	40.0	33.9	37.2
	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	36.7	39.7	35.0	37.2	30.3
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	37.9	35.2	34.7	31.2
9	県政運営	県政	71 スピード重視の県政	34.8	40.4	31.1	30.9	30.3
10	県政運営	県政	69 オープンでわかりやすい県政	32.8	36.0	29.9	33.8	26.4

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表17 地域別の政策の不満足度（上位10項目）

単位：％

富山地域

順位	項目	不満足度
1	59 雪に強いまちづくり	51.1
2	21 中心市街地の賑わいの創出	43.5
3	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	41.1
4	71 スピード重視の県政	40.4
5	23 富山のブランドカアップ	39.7
6	19 選ばれ続ける観光地づくり	37.9
7	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	36.2
	10 雇用の確保と人材の育成	36.2
	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.2
10	69 オープンでわかりやすい県政	36.0

高岡地域

順位	項目	不満足度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	52.2
2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	48.7
3	59 雪に強いまちづくり	46.0
4	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	44.7
5	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	43.9
6	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	43.1
7	10 雇用の確保と人材の育成	40.0
8	61 生活交通の確保	36.7
9	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.2
10	23 富山のブランドカアップ	35.0

魚津地域

順位	項目	不満足度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	46.0
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	44.7
	59 雪に強いまちづくり	44.7
4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.5
5	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.2
	23 富山のブランドカアップ	37.2
7	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.7
8	11 農業生産の振興	34.4
9	10 雇用の確保と人材の育成	33.9
10	69 オープンでわかりやすい県政	33.8

砺波地域

順位	項目	不満足度
1	21 中心市街地の賑わいの創出	46.1
2	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	40.4
3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	39.9
4	59 雪に強いまちづくり	39.5
5	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	38.6
6	10 雇用の確保と人材の育成	37.2
7	11 農業生産の振興	34.7
8	2 新たな成長産業の育成	32.5
9	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	31.6
10	19 選ばれ続ける観光地づくり	31.2

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(3) 県政への要望

問2 問1の項目の1番～68番のうち（※69番～74番の〈県政運営〉は除きます）、いま、あなたがもっと力をいれてほしいと思っている県の政策はどれですか。5つ以内で選んでください。

- ・県政への要望の上位を見ると、「59 雪に強いまちづくり」が29.3%と最も高く、次いで「1 景気対策(物価高騰対策などを含む)」27.0%、「25 子育て支援」19.1%の順となっている。
- ・前回調査では10位以内に入っていなかった「61 生活交通の確保」が7位(11.1%)、「23 富山のブランドカアップ」が10位(8.6%)となっている。

図表18 県政への要望（上位10項目）

単位：%

順位	区分	領域	項目	比率	前回調査(順位)
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.3	29.0 (1位)
2	経済対策・産業振興 など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	27.0	16.1 (2位)
3	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	19.1	12.8 (5位)
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	15.4	13.7 (3位)
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.9	13.4 (4位)
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.1	9.6 (8位)
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61 生活交通の確保	11.1	9.0 (11位)
8	人材の育成	人づくり	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.3	11.2 (6位)
9	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	9.1	9.2 (9位)
10	経済対策・産業振興 など	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	8.6	8.6 (13位)
	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	8.6	9.2 (9位)

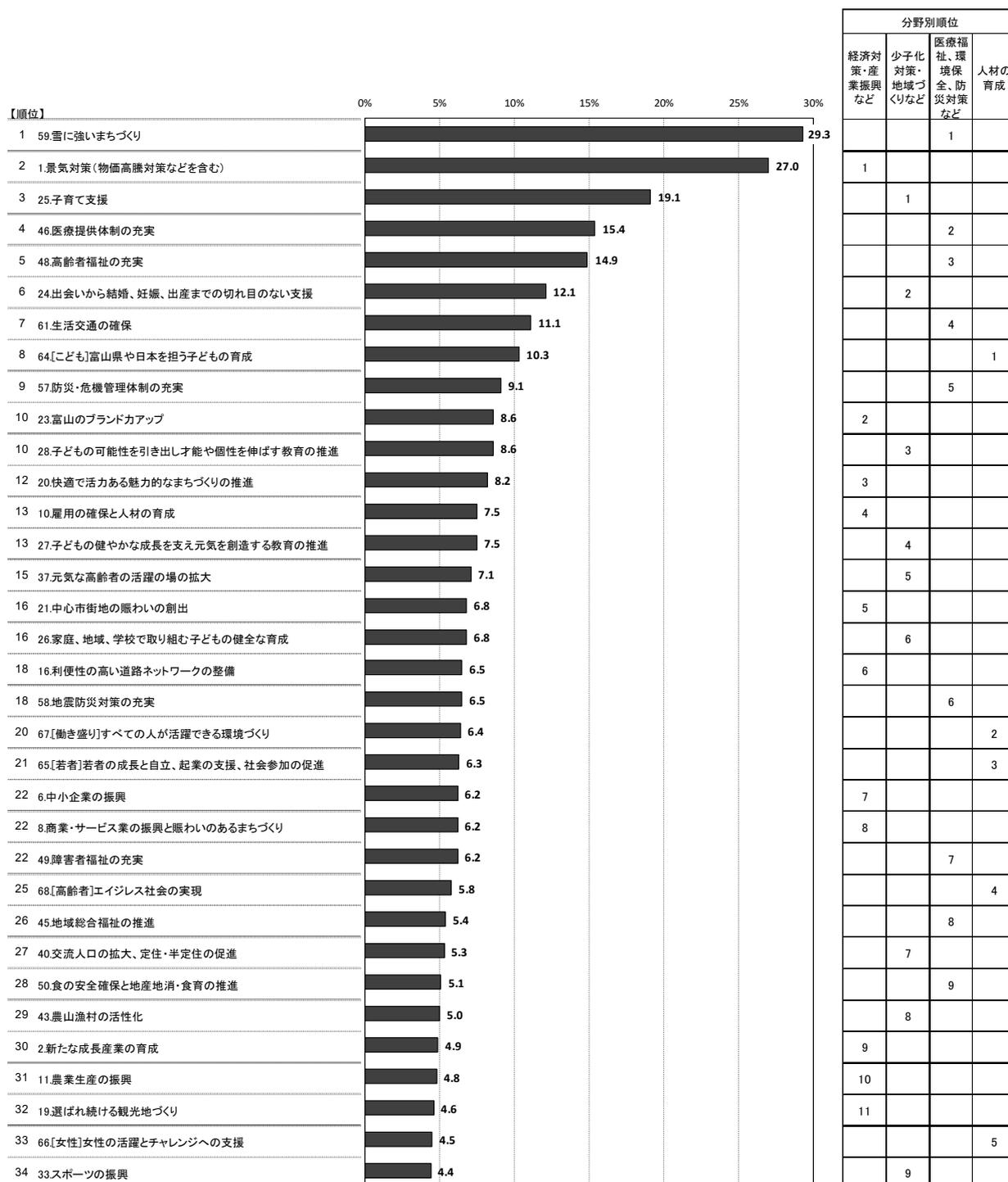
〈時系列比較〉

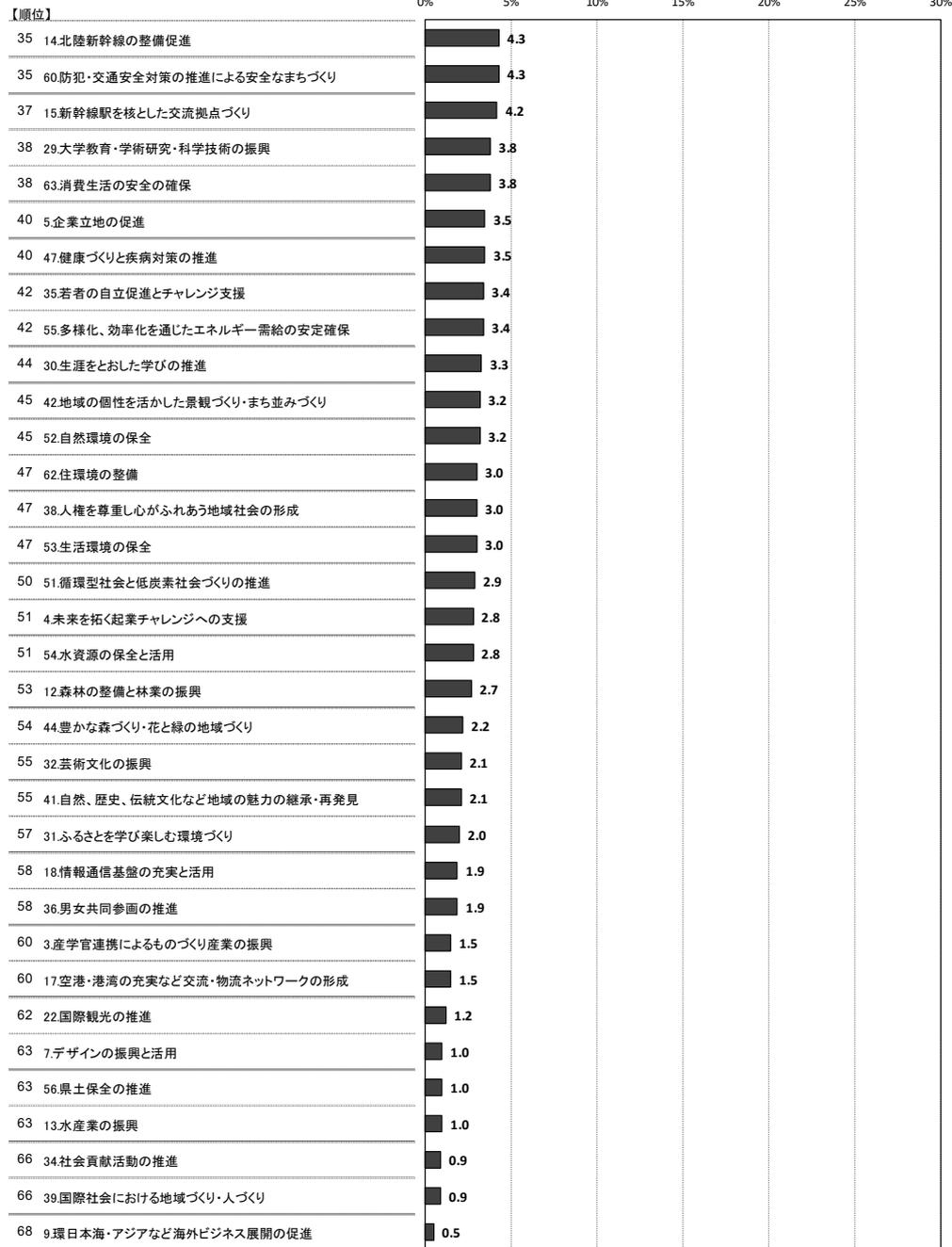
図表19 県政への要望（上位5項目の時系列比較）

単位：%

順位	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
1	雪に強いまちづくり 29.6	雪に強いまちづくり 22.7	景気対策 20.5	雪に強いまちづくり 29.0	雪に強いまちづくり 29.3
2	景気対策 17.2	景気対策 20.1	高齢者福祉の充実 17.1	景気対策 16.1	景気対策(物価高騰対策などを含む) 27.0
3	高齢者福祉の充実 14.5	高齢者福祉の充実 16.5	子育て支援 16.1	医療提供体制の充実 13.7	子育て支援 19.1
4	子育て支援 14.0	子育て支援 15.4	医療提供体制の充実 15.1	高齢者福祉の充実 13.4	医療提供体制の充実 15.4
5	防災・危機管理体制の充実 12.4	医療体制の充実 14.4	雪に強いまちづくり 13.4	子育て支援 12.8	高齢者福祉の充実 14.9

図表20 県政への要望 (N=1,873、M.T.=401.4%、NA=12.1%、単位%)





分野別順位			
経済対策・産業振興など	少子化対策・地域づくりなど	医療福祉、環境保全、防災対策など	人材の育成
12			
		10	
13			
	10		
		11	
14			
		12	
	11		
		13	
	12		
	13		
		14	
		15	
	14		
		16	
		17	
15			
		18	
16			
	15		
	16		
	17		
	18		
17			
	19		
18			
19			
20			
21			
		19	
22			
	20		
	21		
23			

(4) 属性別に見る県政への要望

ア 性別

- ・男女ともに「59 雪に強いまちづくり」が最も高く、次いで「1 景気対策(物価高騰対策などを含む)」、「25 子育て支援」の順となっている。
- ・「男性」は、県平均(全体)では10位以内に入っていない「10 雇用の確保と人材の育成」が10位(8.1%)となっている。

図表21 県政への要望（上位10項目）の男女比較

単位：％

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.3	28.7	30.2	1.5
2	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	27.0	28.0	26.8	▲ 1.2
3	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	19.1	18.2	19.4	1.2
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	15.4	14.0	16.4	2.4
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.9	12.1	17.4	5.3
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.1	13.9	10.4	▲ 3.5
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61 生活交通の確保	11.1	11.0	10.8	▲ 0.2
8	人材の育成	人づくり	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.3	9.2	11.0	1.8
9	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	9.1	8.2	9.7	1.5
10	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	8.6	7.8	9.1	1.3
	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	8.6	6.5	10.6	4.1

図表22 男女別の県政への要望（上位10項目）

単位：％

男性			女性		
順位	項目	比率	順位	項目	比率
1	59 雪に強いまちづくり	28.7	1	59 雪に強いまちづくり	30.2
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	28.0	2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	26.8
3	25 子育て支援	18.2	3	25 子育て支援	19.4
4	46 医療提供体制の充実	14.0	4	48 高齢者福祉の充実	17.4
5	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	13.9	5	46 医療提供体制の充実	16.4
6	48 高齢者福祉の充実	12.1	6	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	11.0
7	61 生活交通の確保	11.0	7	61 生活交通の確保	10.8
8	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	9.2	8	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.6
9	57 防災・危機管理体制の充実	8.2	9	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.4
10	10 雇用の確保と人材の育成	8.1	10	57 防災・危機管理体制の充実	9.7

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

イ 年齢別

- ・「28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進」は県平均(全体)において10位以内に入っていないが、「18、19歳」では1位(20.7%)、「30～39歳」では4位(21.1%)、「40～49歳」では5位(12.2%)となっている。
- ・「30～39歳」では県平均(全体)で3位(19.1%)の「子育て支援」が1位(44.0%)となっている。
- ・「48 高齢者福祉の充実」は40歳代以下では10位以内に入っていないが、「50～59歳」では4位(17.4%)、「60～69歳」では3位(17.9%)、「70歳以上」でも3位(20.7%)となっている。

図表23 県政への要望（上位10項目）の年齢比較

単位：％

順位	政策番号	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	59	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.3	13.8	30.9	23.9	29.9	34.3	32.4	26.2
2	1	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	27.0	17.2	30.9	32.1	36.0	27.4	23.9	22.2
3	25	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	19.1	20.7	24.7	44.0	29.1	12.3	15.3	9.8
4	46	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	15.4	6.9	16.5	8.6	15.8	18.6	17.1	14.4
5	48	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.9	10.3	3.1	5.7	8.6	17.4	17.9	20.7
6	24	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.1	3.4	25.8	17.2	7.2	10.3	13.2	10.9
7	61	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61 生活交通の確保	11.1	6.9	8.2	4.8	7.6	13.7	9.5	15.3
8	64	人材の育成	人づくり	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.3	6.9	9.3	14.4	10.4	8.9	10.8	9.4
9	57	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	9.1	6.9	8.2	10.5	5.8	10.0	11.6	8.0
10	23	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	8.6	20.7	11.3	8.1	10.8	11.1	7.4	5.6
	28	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	8.6	20.7	6.2	21.1	12.2	7.7	6.3	4.0

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表24 年齢別の県政への要望（上位10項目）

単位：％

18,19歳			20～29歳		
順位	項目	比率	順位	項目	比率
1	23 富山のブランドカアップ	20.7	1	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	30.9
	25 子育て支援	20.7		59 雪に強いまちづくり	30.9
	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	20.7	3	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	25.8
4	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	17.2	4	25 子育て支援	24.7
	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	17.2	5	46 医療提供体制の充実	16.5
	29 大学教育・学術研究・科学技術の振興	17.2	6	23 富山のブランドカアップ	11.3
	66 [女性]女性の活躍とチャレンジへの支援	17.2	7	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	10.3
19 選ばれ続ける観光地づくり	13.8	10 雇用の確保と人材の育成		10.3	
8	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	13.8	20	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.3
	59 雪に強いまちづくり	13.8		10	58 地震防災対策の充実

30～39歳

順位	項目	比率
1	25 子育て支援	44.0
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	32.1
3	59 雪に強いまちづくり	23.9
4	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	21.1
5	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	20.6
6	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	17.7
7	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	17.2
8	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	14.4
9	57 防災・危機管理体制の充実	10.5
10	46 医療提供体制の充実	8.6

40～49歳

順位	項目	比率
1	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	36.0
2	59 雪に強いまちづくり	29.9
3	25 子育て支援	29.1
4	46 医療提供体制の充実	15.8
5	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	12.2
6	6 中小企業の振興	11.9
7	23 富山のブランドカアップ	10.8
8	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	10.4
8	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.4
10	10 雇用の確保と人材の育成	9.4

50～59歳

順位	項目	比率
1	59 雪に強いまちづくり	34.3
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	27.4
3	46 医療提供体制の充実	18.6
4	48 高齢者福祉の充実	17.4
5	61 生活交通の確保	13.7
6	25 子育て支援	12.3
7	23 富山のブランドカアップ	11.1
8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.3
9	57 防災・危機管理体制の充実	10.0
10	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	8.9

60～69歳

順位	項目	比率
1	59 雪に強いまちづくり	32.4
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	23.9
3	48 高齢者福祉の充実	17.9
4	46 医療提供体制の充実	17.1
5	25 子育て支援	15.3
6	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	13.2
7	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	11.8
8	57 防災・危機管理体制の充実	11.6
9	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.8
10	61 生活交通の確保	9.5

70歳以上

順位	項目	比率
1	59 雪に強いまちづくり	26.2
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	22.2
3	48 高齢者福祉の充実	20.7
4	61 生活交通の確保	15.3
5	46 医療提供体制の充実	14.4
6	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	12.8
7	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.9
8	25 子育て支援	9.8
9	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	9.4
10	68 [高齢者]エイジレス社会の実現	9.0

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

ウ 地域別

- ・「魚津地域」以外では「59 雪に強いまちづくり」が最も高くなっている。
- ・「高岡地域」では、県平均(全体)において10位以内に入っていない「67 すべての人が活躍できる職場づくり」が9位(8.3%)に入っている。
- ・「砺波地域」では、県平均(全体)において10位以内に入っていない「6 中小企業の振興」が9位(9.2%)に入っている。

図表25 県政への要望（上位10項目）の地域比較

単位：％

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.3	31.1	29.1	27.3	27.6
2	経済対策・産業振興など	産業	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	27.0	27.0	25.5	30.0	26.3
3	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25 子育て支援	19.1	20.7	14.6	18.7	23.7
4	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	15.4	14.8	13.6	17.1	18.4
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.9	13.4	16.8	17.9	11.4
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.1	10.7	10.9	14.0	15.8
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61 生活交通の確保	11.1	9.5	13.4	11.8	9.6
8	人材の育成	人づくり	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.3	10.7	9.5	11.3	9.2
9	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	9.1	10.0	8.1	9.1	7.9
10	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	8.6	10.0	6.9	7.4	9.2
	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	8.6	10.4	5.7	7.2	11.8

※県平均(全体)よりも高い項目は網掛け

図表26 地域別の県政への要望（上位10項目）

単位：％

富山地域			高岡地域		
順位	項目	比率	順位	項目	比率
1	59 雪に強いまちづくり	31.1	1	59 雪に強いまちづくり	29.1
2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	27.0	2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	25.5
3	25 子育て支援	20.7	3	48 高齢者福祉の充実	16.8
4	46 医療提供体制の充実	14.8	4	25 子育て支援	14.6
5	48 高齢者福祉の充実	13.4	5	46 医療提供体制の充実	13.6
6	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.7	6	61 生活交通の確保	13.4
	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	10.7	7	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.9
8	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.4	8	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	9.5
9	23 富山のブランドカアップ	10.0	9	67 [働き盛り]すべての人が活躍できる環境づくり	8.3
	57 防災・危機管理体制の充実	10.0	10	57 防災・危機管理体制の充実	8.1

魚津地域			砺波地域		
順位	項目	比率	順位	項目	比率
1	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	30.0	1	59 雪に強いまちづくり	27.6
2	59 雪に強いまちづくり	27.3	2	1 景気対策(物価高騰対策などを含む)	26.3
3	25 子育て支援	18.7	3	25 子育て支援	23.7
4	48 高齢者福祉の充実	17.9	4	46 医療提供体制の充実	18.4
5	46 医療提供体制の充実	17.1	5	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	15.8
6	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	14.0	6	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	11.8
7	61 生活交通の確保	11.8	7	48 高齢者福祉の充実	11.4
8	64 [こども]富山県や日本を担う子どもの育成	11.3	8	61 生活交通の確保	9.6
9	57 防災・危機管理体制の充実	9.1	9	6 中小企業の振興	9.2
10	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	8.8	10	23 富山のブランドカアップ	9.2

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

2 個別施策に係る調査

(1) ウェルビーイングについて

<いま>

ウェルビーイング (Well-being) は、心も身体も社会的にも”満たされた状態”、実感としての幸せ、心の豊かさなどを表す言葉として、国内外で注目が高まっている。

国では、「経済財政運営と改革の基本方針2022」（骨太方針2022）（R4.6.7）の中で、「個人と社会全体のWell-beingの向上」等に言及するなど、重要な観点となってきた。

県では、令和4年2月に新たに策定した「富山県成長戦略」において、ウェルビーイングを”中心”に位置付け、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」のビジョンを掲げている。一人ひとりが、様々な人や社会との”つながり”の中で、日々、”自分らしく”生きていることに満足でき、心豊かに、幸せをずっと実感できる富山県を目指し、ウェルビーイング向上のための施策を展開している。

なお、令和4年9月にウェルビーイングに関する県民意識調査を実施し、その結果を踏まえ同年12月には、富山県独自のウェルビーイング指標を策定した。

【調査結果】

①「ウェルビーイング」の認知度

問3 ウェルビーイングについてご存知か教えてください。

(ア) 全体

- ・「言葉も意味も知っている」は11.9%、「言葉は知っているが、意味は知らない」は17.7%で『言葉を知っている（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合算したもの）』は29.6%となっている。
- ・「言葉も意味も知らない」は68.5%となっている。

(イ) 性別

- ・『言葉を知っている』は、「男性」が30.5%に対して「女性」が28.6%と、「男性」が1.9ポイント高くなっている。

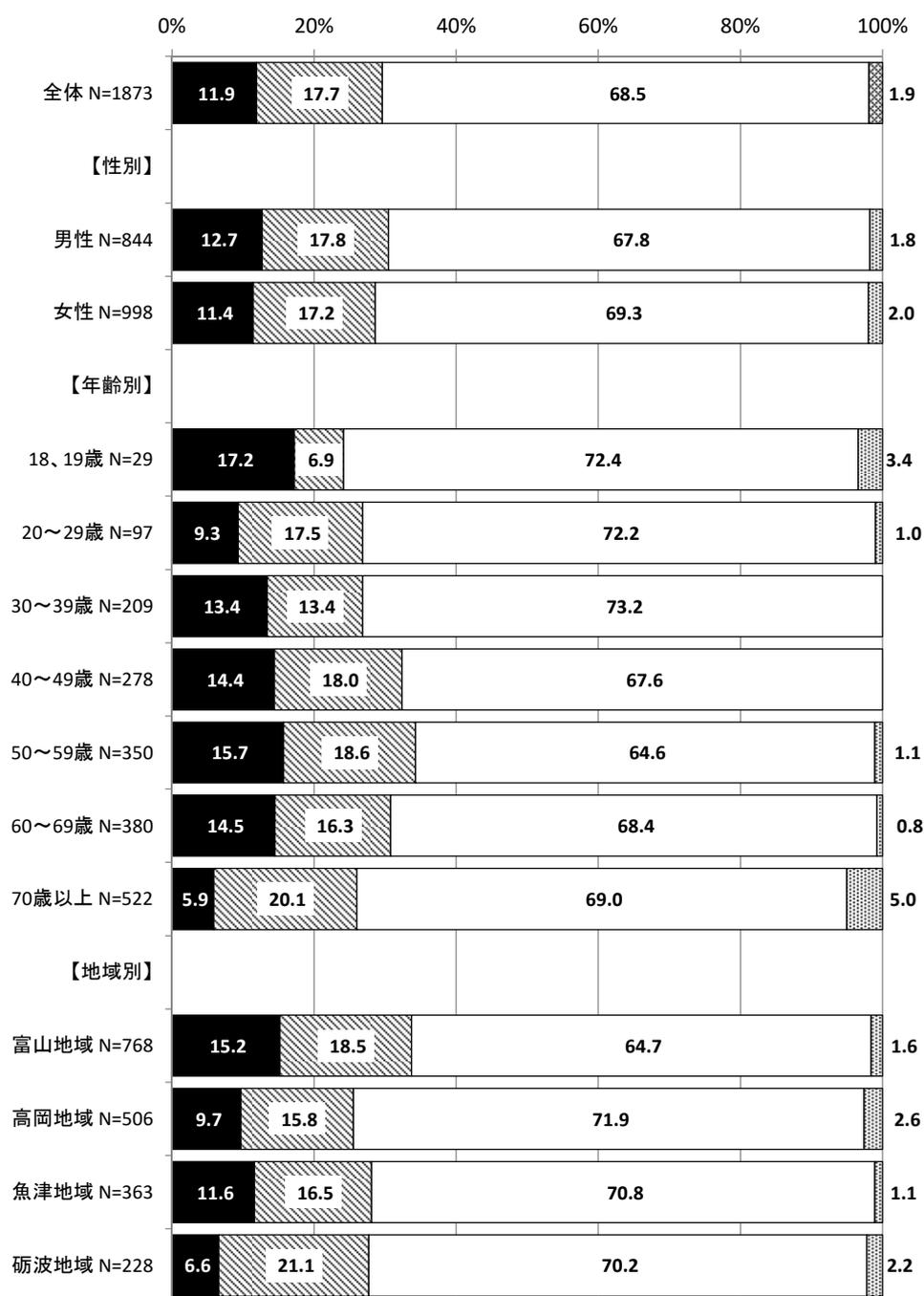
(ウ) 年齢別

- ・『言葉を知っている』は、「50～59歳」が34.3%で最も高く、次いで「40～49歳」が32.4%となっている。
- ・「18、19歳」は24.1%で最も低く、次いで「70歳以上」が26.0%で低くなっている。

(エ) 地域別

- ・『言葉を知っている』は「富山地域」で33.7%と最も高くなっている。

図表27 「ウェルビーイング」の認知度



■ 言葉も意味も知っている
 ▨ 言葉は知っているが、意味は知らない
 □ 言葉も意味も知らない
 ▩ 無回答

②「ウェルビーイング」を知ったきっかけ

問3-1 問3で、「1. 言葉も意味も知っている」と回答した方にお尋ねします。ウェルビーイングを知った主なきっかけを3つ以内で選んでください。

(ア) 全体

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」が64.6%で最も高くなっている。次いで「職場・仕事での取組み」が21.5%、「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」が18.4%と続いている。

(イ) 性別

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」は、男女の差はほとんど見られない。
- ・「職場・仕事での取組み」は「男性」が25.2%に対して「女性」が17.5%と、「男性」が7.7ポイント高くなっている。
- ・「学校（授業）での取組み」は「男性」が6.5%に対して「女性」が11.4%と、「女性」が4.9ポイント高くなっている。

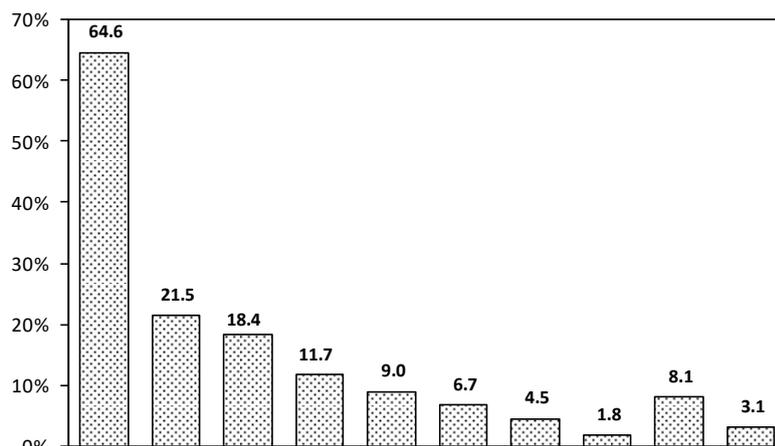
(ウ) 年齢別

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」は、「20～29歳」が22.2%で最も低く、年齢が上がるにつれて高くなり、「70歳以上」では80.6%と最も高くなっている。
- ・「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」は「40～49歳」で27.5%、次いで「70歳以上」で22.6%となっている。
- ・「民間企業や各種団体での取組み（シンポジウム等）」は、「40～49歳」で12.5%と、他の年代に比べて高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」は「高岡地域」で73.5%、「職場・仕事での取組み」は「高岡地域」で28.6%と、他の地域に比べて高くなっている。
- ・「民間企業や各種団体での取組み（シンポジウム等）」は「砺波地域」が20.0%と最も高くなっている。

図表28 「ウェルビーイング」を知ったきっかけ (N=223、M. T.=149.3%)



		有効回答数	メディア、新聞や雑誌、テレビなどの	職場・仕事での取り組み	ホームページ (ウェブサイ ト)・SNS	県のホームページ	学校の授業)での取り組み	民間企業や各種団体での取 組み (シンポジウム等)	国の報告書等	民間研究機関等の報告書等	その他	無回答
全体		223	64.6	21.5	18.4	11.7	9.0	6.7	4.5	1.8	8.1	3.1
性別	男性	107	65.4	25.2	21.5	14.0	6.5	8.4	2.8	0.9	7.5	5.6
	女性	114	64.0	17.5	15.8	9.6	11.4	4.4	5.3	2.6	7.9	0.9
年齢	18、19歳	5	40.0	-	20.0	-	80.0	-	-	-	20.0	-
	20～29歳	9	22.2	33.3	11.1	11.1	44.4	-	-	-	11.1	-
	30～39歳	28	39.3	39.3	14.3	7.1	17.9	3.6	-	-	3.6	3.6
	40～49歳	40	60.0	22.5	27.5	12.5	2.5	12.5	5.0	2.5	12.5	2.5
	50～59歳	55	70.9	25.5	18.2	9.1	7.3	3.6	3.6	3.6	5.5	1.8
	60～69歳	55	74.5	16.4	12.7	14.5	1.8	9.1	5.5	-	7.3	1.8
	70歳以上	31	80.6	6.5	22.6	16.1	3.2	6.5	9.7	3.2	9.7	9.7
地域	富山地域	117	62.4	19.7	18.8	12.8	10.3	4.3	6.8	2.6	6.0	2.6
	高岡地域	49	73.5	28.6	18.4	10.2	6.1	6.1	4.1	-	6.1	2.0
	魚津地域	42	59.5	19.0	16.7	9.5	9.5	9.5	-	2.4	14.3	4.8
	砺波地域	15	66.7	20.0	20.0	13.3	6.7	20.0	-	-	13.3	6.7

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「言葉も意味も知っている」は11.9%（前回5.4%）、「言葉は知っているが、意味は知らない」は17.7%（前回10.2%）であり、前回と比べて認知度の向上は見られるものの、更なる努力が必要である。

今後、ウェブサイトやSNS等での情報発信を強化していくほか、県民一人ひとりにウェルビーイングを「自分ごと」として捉えていただけるよう、新たに策定した指標も活用し、わかりやすく工夫しながら普及促進のための施策を展開していく。

(2) カーボンニュートラルの推進について

<いま>

我が国は、2020年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロ※にする、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言した。県でも、国に先駆け、2020年3月に「とやまゼロカーボン推進宣言」を行い、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ※にすることを目標に掲げている。

その実現に向けては、県民一人ひとりが近い未来の目標を認識し、省エネルギーに取り組むとともに、再生可能エネルギーを最大限導入していくことが重要である。

県では目標の実現に向けて、総合的・一体的にカーボンニュートラル施策を推進するため、温室効果ガス排出量の削減目標を定めた「新とやま温暖化ストップ計画」、再生可能エネルギーの導入促進を定めた「富山県再生可能エネルギービジョン」、県の率先行動を定めた「新県庁エコプラン」の3つを統合し、2022年度、新たに「富山県カーボンニュートラル戦略」を策定することとしている。

※ 「排出を全体としてゼロ」、「実質ゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて実質的な排出量をゼロにすることを意味しています。

【調査結果】

①カーボンニュートラルの関心度

問4 あなたは、カーボンニュートラルについて関心がありますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『関心がある（「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合算したもの）』は59.6%、『関心がない（「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合算したもの）』は14.6%となっている。
- ・「そもそも聞いたことがない」は6.0%となっている。

(イ) 性別

- ・『関心がある』は「男性」が60.4%に対して「女性」が58.4%と、「男性」が2.0ポイント高くなっている。

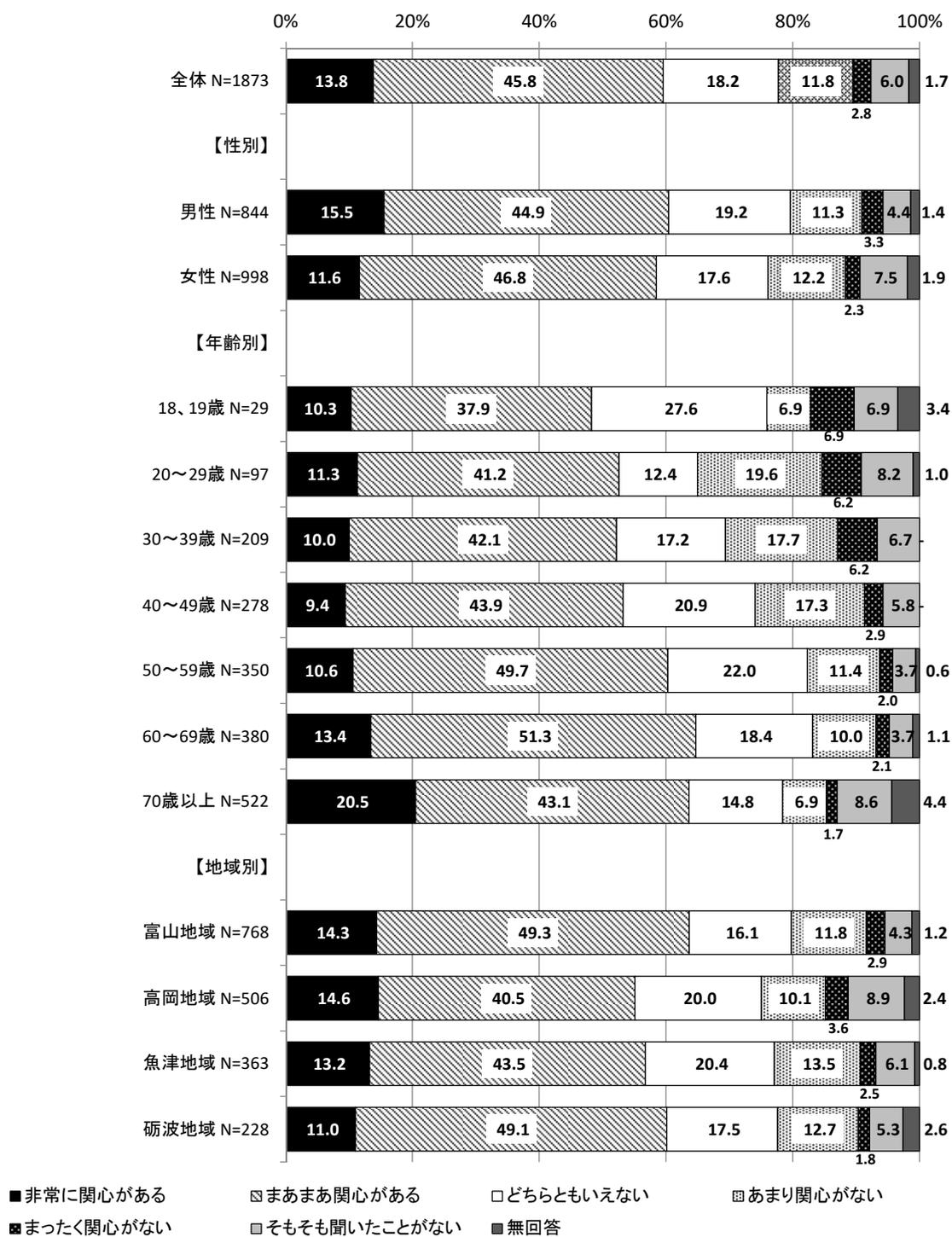
(ウ) 年齢別

- ・『関心がある』は「18、19歳」が48.2%で最も低く、概ね年代が高いほど、高くなっている。

(エ) 地域別

- ・『関心がある』は「富山地域」で63.6%と、他の地域に比べて高くなっている。

図表29 カーボンニュートラルの関心度



②カーボンニュートラルへの取組み意向

問5 あなたは、カーボンニュートラルの実現に向け、一人ひとりが二酸化炭素などの排出を減らす省エネ等の取組みについて、どのようにお考えですか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『取り組みたい(「積極的に取り組みたい」と「ある程度取り組みたい」を合算したもの)』は85.2%、『取り組みたくない(「あまり取り組みたくない」と「全く取り組みたくない」を合算したもの)』は12.6%となっている。
- ・『取り組みたい』は『取り組みたくない』に比べて、72.6ポイント高くなっている。

(イ) 性別

- ・『取り組みたい』は「男性」が81.7%に対して「女性」が88.1%と、「女性」が6.4ポイント高くなっている。

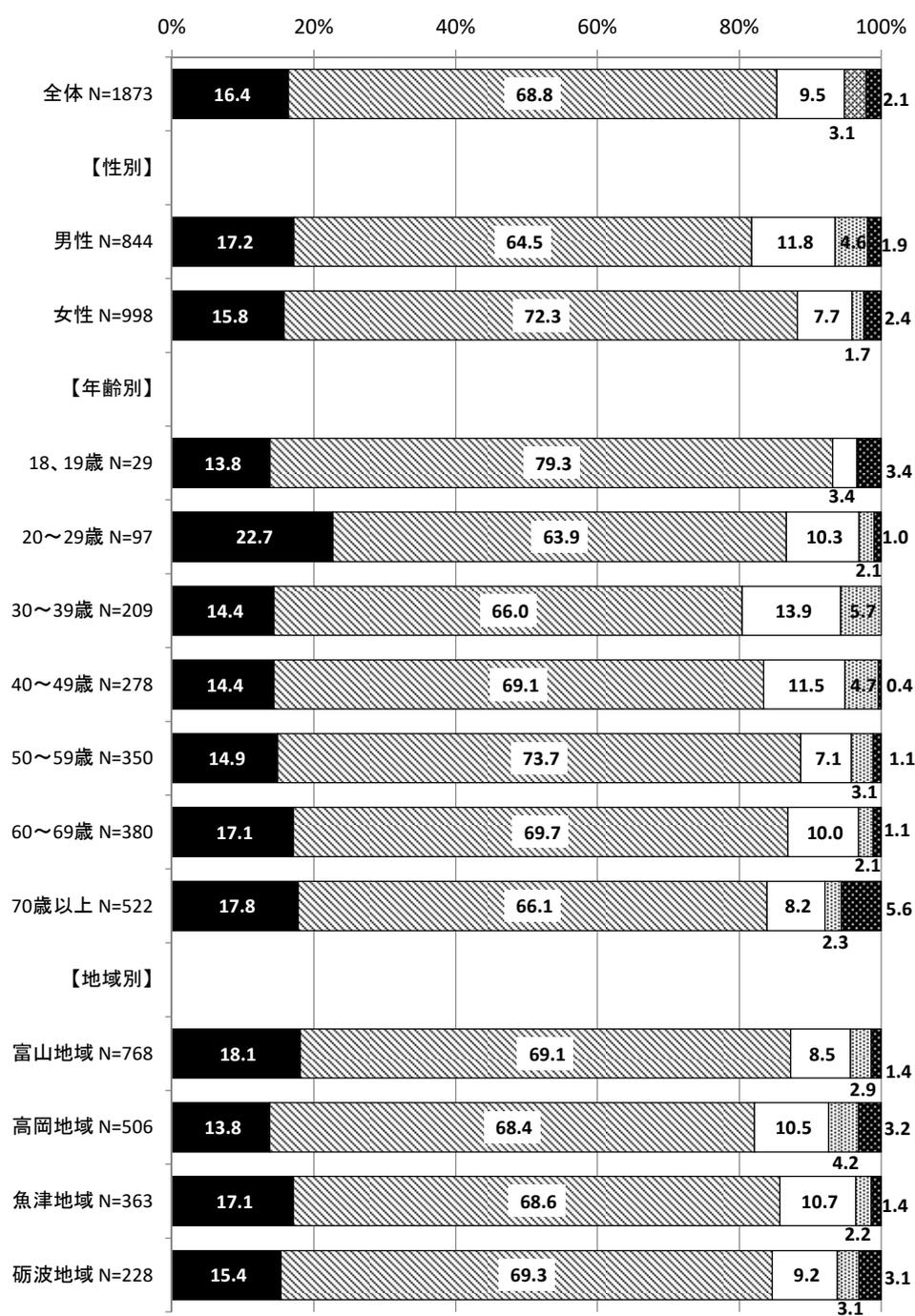
(ウ) 年齢別

- ・『取り組みたい』は「18、19歳」が93.1%と最も高く、「30～39歳」が80.4%と最も低くなっている。
- ・「積極的に取り組みたい」は「20～29歳」で22.7%と他の年代に比べて高くなっている。

(エ) 地域別

- ・『取り組みたい』は「富山地域」で87.2%と最も高く、「高岡地域」では82.2%と最も低くなっている。

図表30 カーボンニュートラルへの取り組み意向



■ 積極的に取り組みたい ▨ ある程度取り組みたい □ あまり取り組みたくない ▩ 全く取り組みたくない ■ 無回答

③省エネ等に関する取組み内容

問5-1 問5で「1. 積極的に取り組みたい」、「2. ある程度取り組みたい」と回答した方にお尋ねします。

あなたは、省エネ等に関する取組みについて、現在既に取り組んでいること、または今後、新たに取り組んでみたいと思うことはありますか。

次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」が65.1%で最も高く、次いで「軽装や重ね着などにより、冷暖房の設定温度を適切に管理」が60.6%、「冷蔵庫、エアコン、照明器具などの家電製品を購入する際に、省エネルギー効果の高い製品を購入」が58.3%で続いている。

(イ) 性別

- ・「宅配便の1回での受取り又は宅配ボックスでの受取りなどによる再配達の防止」は「男性」が20.6%に対して「女性」が31.7%と、「女性」が11.1ポイント高く、「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」は「男性」が60.1%に対して「女性」が69.5%と、「女性」が9.4ポイント高くなっている。「軽装や重ね着などにより、冷暖房の設定温度を適切に管理」についても、「男性」が55.6%に対して「女性」が64.5%と、「女性」が8.9ポイント高くなっている。
- ・「電気自動車などのエコカーの選択やゆっくり加速・減速などのエコドライブの実践」は「男性」33.7%に対して「女性」が24.5%と、「男性」が9.2ポイント高くなっている。

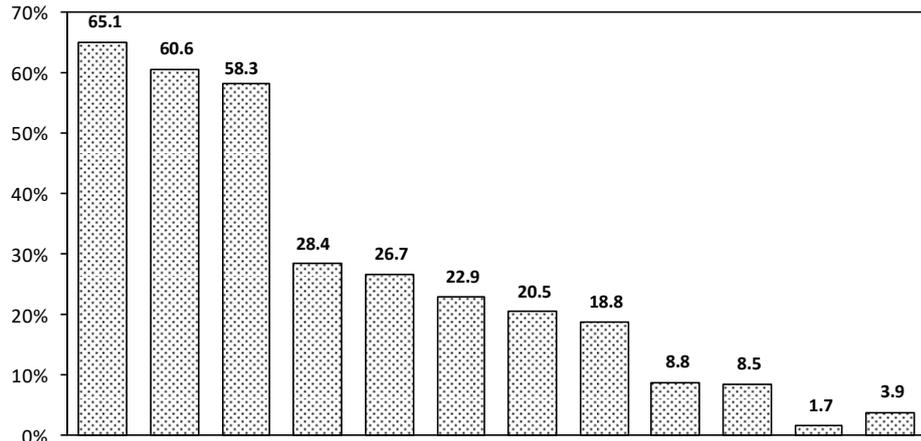
(ウ) 年齢別

- ・「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」は、20歳以上は60%台である一方、「18、19歳」では44.4%と低くなっている。
- ・「冷蔵庫、エアコン、照明器具などの家電製品を購入する際に、省エネルギー効果の高い製品を購入」は、「20～29歳」で22.6%と他の年代に比べて低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「軽装や重ね着などにより、冷暖房の設定温度を適切に管理」は「高岡地域」で64.4%と、他の地域に比べて高くなっている。
- ・「移動時に徒歩・自転車・公共交通機関の利用」は「富山地域」で27.0%と、他の地域に比べて高くなっている。

図表31 省エネ等に関する取組み内容 (N=1,597、M.T.=324.0%)



	有効回答数	こまめな消費量の削減	軽装や重ね着などにより、冷暖房の設定温度を適切に管理	冷蔵庫、エアコン、照明器具などの家電製品を購入する際に、省エネルギー効果の高い製品を購入	電気自動車などのエコドライブの実践	住宅配便の1回での受取り又は宅配ボックスでの受取りなどによる再配達防止	移動時に徒歩・自転車・公共交通機関の利用	部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅への居住、又はリフォームの施工	地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入やサービスの利用	太陽光発電パネルの設置による自家発電、又は自宅の電気を再生可能エネルギーに切替え	地球温暖化への対策に取り組む団体・個人への応援・支援	その他	無回答	
全体	1,597	65.1	60.6	58.3	28.4	26.7	22.9	20.5	18.8	8.8	8.5	1.7	3.9	
性別	男性	689	60.1	55.6	56.9	33.7	20.6	23.8	23.8	18.4	9.9	10.4	2.2	3.5
	女性	880	69.5	64.5	59.5	24.5	31.7	22.0	18.5	19.2	8.0	6.5	1.3	4.4
年齢	18、19歳	27	44.4	48.1	33.3	18.5	18.5	14.8	7.4	7.4	7.4	-	3.7	3.7
	20～29歳	84	69.0	53.6	22.6	15.5	26.2	23.8	7.1	15.5	6.0	4.8	1.2	3.6
	30～39歳	168	64.3	55.4	48.2	27.4	30.4	19.6	26.8	14.9	13.7	7.1	1.2	1.2
	40～49歳	232	68.5	53.9	55.6	30.6	29.3	18.5	22.4	20.3	10.8	5.2	0.9	2.2
	50～59歳	310	65.5	61.6	62.9	34.5	31.6	20.3	21.3	22.6	8.4	6.5	1.9	2.9
	60～69歳	330	63.0	65.8	68.5	30.0	26.7	26.4	21.5	15.8	7.6	8.2	1.5	4.8
	70歳以上	438	66.0	63.9	61.0	25.6	21.5	25.8	19.6	20.5	8.0	12.8	2.1	6.2
地域	富山地域	670	64.2	59.0	56.7	28.4	29.9	27.0	20.0	19.9	9.1	8.7	2.1	4.2
	高岡地域	416	66.1	64.4	59.1	31.7	23.8	23.6	18.0	19.2	7.2	8.9	1.4	5.0
	魚津地域	311	68.2	61.4	59.2	27.3	25.1	17.0	23.5	19.6	10.3	8.0	1.0	3.2
	砺波地域	193	62.2	57.0	60.1	23.8	25.4	16.1	23.8	13.5	9.3	6.2	1.6	2.1

④省エネ等に取り組みにくい理由

問5-2 問5で「3. あまり取り組みたくない」、「4. 全く取り組みたくない」と回答した方にお尋ねします。

あなたが、省エネ等に取り組みにくい理由について、次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからないから」が44.9%で最も高く、次いで「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足しているから」が39.8%、「経済的なコストが掛かるから」が26.7%となっている。

(イ) 性別

- ・「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからないから」と「経済的なコストが掛かるから」および「地球温暖化への対策のための取り組みを行う必要性を感じないから」は、「女性」に対して「男性」が10ポイント以上高くなっている。

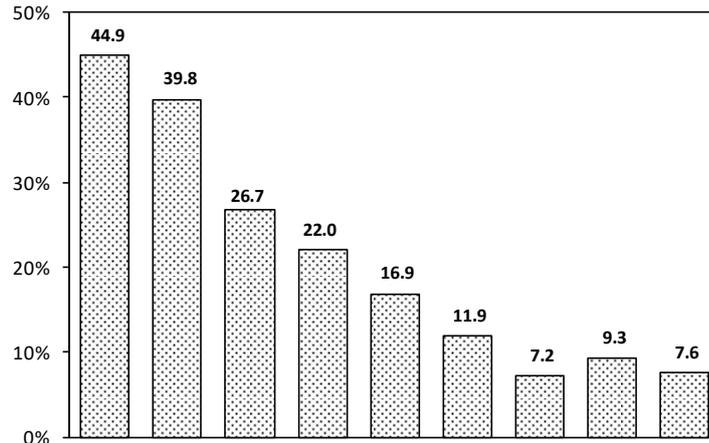
(ウ) 年齢別

- ・「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからないから」は「50～59歳」が58.3%と最も高くなっており、「70歳以上」が30.9%と最も低くなっている。
- ・「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足しているから」は「60～69歳」が56.5%と最も高くなっている。
- ・「経済的なコストが掛かるから」は「30～39歳」が46.3%と最も高く、「70歳以上」が12.7%と最も低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからないから」は「砺波地域」が50.0%と最も高くなっている。
- ・「経済的なコストが掛かるから」は、「富山地域」で32.2%と最も高く、「砺波地域」では10.7%と最も低くなっている。

図表32 省エネ等に取り組みにくい理由 (N=236、M. T.=186.4%)



	有効回答数	地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるかわからないから	どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足しているから	経済的なコストが掛かるから	日常生活の中で常に意識して行動するのが難しいから	手間が掛かるから	地球温暖化への対策のための取組みを行う必要性を感じないから	その他	特にない	無回答
全体	236	44.9	39.8	26.7	22.0	16.9	11.9	7.2	9.3	7.6
性別	男性	139	51.8	39.6	31.7	20.9	15.8	7.9	5.8	5.8
	女性	94	35.1	41.5	20.2	24.5	19.1	5.3	14.9	8.5
年齢	18、19歳	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	20～29歳	12	41.7	41.7	33.3	33.3	41.7	25.0	16.7	-
	30～39歳	41	41.5	34.1	46.3	19.5	34.1	17.1	2.4	-
	40～49歳	45	48.9	46.7	28.9	20.0	8.9	11.1	8.9	6.7
	50～59歳	36	58.3	27.8	27.8	13.9	16.7	19.4	11.1	5.6
	60～69歳	46	52.2	56.5	21.7	28.3	8.7	8.7	4.3	10.9
	70歳以上	55	30.9	32.7	12.7	23.6	12.7	9.1	-	10.9
地域	富山地域	87	43.7	39.1	32.2	26.4	23.0	12.6	8.0	5.7
	高岡地域	74	44.6	40.5	25.7	21.6	16.2	12.2	5.4	8.1
	魚津地域	47	44.7	44.7	27.7	19.1	12.8	8.5	6.4	10.6
	砺波地域	28	50.0	32.1	10.7	14.3	7.1	14.3	10.7	7.1

＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果のうち、カーボンニュートラルについての関心度では、『関心がある』と回答した割合が約6割あるが、カーボンニュートラルの実現には、各主体が「自分ごと」と認識し、県民一人ひとりができることから取り組んでいくことが重要であることから、カーボンニュートラルへの関心や意識が一層高まるよう、実現の意義などを今後も継続的に発信していく必要がある。また、年齢層別の結果では、若年層になるほど関心が低くなる傾向がある。

省エネ等に関する取組みについては、家庭内での簡易な省エネ行動や省エネ機器の購入への関心は高い一方で、省エネ住宅や太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの導入への関心は低い結果であった。また、省エネ等に取り組みにくい理由としては、取組みの効果や選択基準に関する情報の不足が回答の上位であった。

今後とも、県民が、カーボンニュートラルに取り組む意義や効果について理解を深めるよう、市町村と連携しホームページ等による効果的な情報発信を行うほか、2022年度に策定する「富山県カーボンニュートラル戦略」に基づく幅広い施策等を通じ、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいく。

(3) 少子化対策について

<いま>

令和3年の人口動態統計によれば、出生数は国全体でも過去最少となったが、本県でも6,076人と過去最少となり、少子化に歯止めがかかっていない状況にある。少子化の進行による人口減少は、企業の働き手不足や顧客減少、県民向けの様々なサービスの縮小、ひいては、地域経済の縮小や地域の魅力の減退といった悪循環につながることが懸念される。

県においては、これまでも総合計画や令和2年3月に策定した「次世代につなぐ とやまっ子 みらいプラン」に基づき、少子化対策・子育て支援施策を総合的に推進しているところであるが、コロナ禍において、デジタルを活用した働き方の広がりや地方移住への関心の高まりなど、私たちを取り巻く環境や意識は急激に変化している。このため、こうした変化に伴う新たな課題等について協議する場である富山県成長戦略会議に「少子化対策・子育て支援専門部会」を緊急的に設置し、出生数を増やすためには、①子どもを持つ基盤となる婚姻件数の増加、②夫婦間の子どもの数の維持・増加が必要なことから、若い女性の転出超過対策や、結婚、妊娠、出産、子育てまでの切れ目ない支援施策の充実等に取り組むこととしている。

【調査結果】

①少子化への危機感

問6 あなたは、こうした少子化の進行に対し、将来に危機感を感じますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『危機感を感じている(「大変危機感を感じている」と「多少危機感を感じている」を合算したもの)』は80.4%、『危機感を感じていない(「あまり危機感を感じていない」と「全く危機感を感じていない」を合算したもの)』は4.9%となっている。

(イ) 性別

- ・『危機感を感じている』は「男性」が82.3%に対して、「女性」が78.7%と、「男性」が3.6ポイント高くなっている。

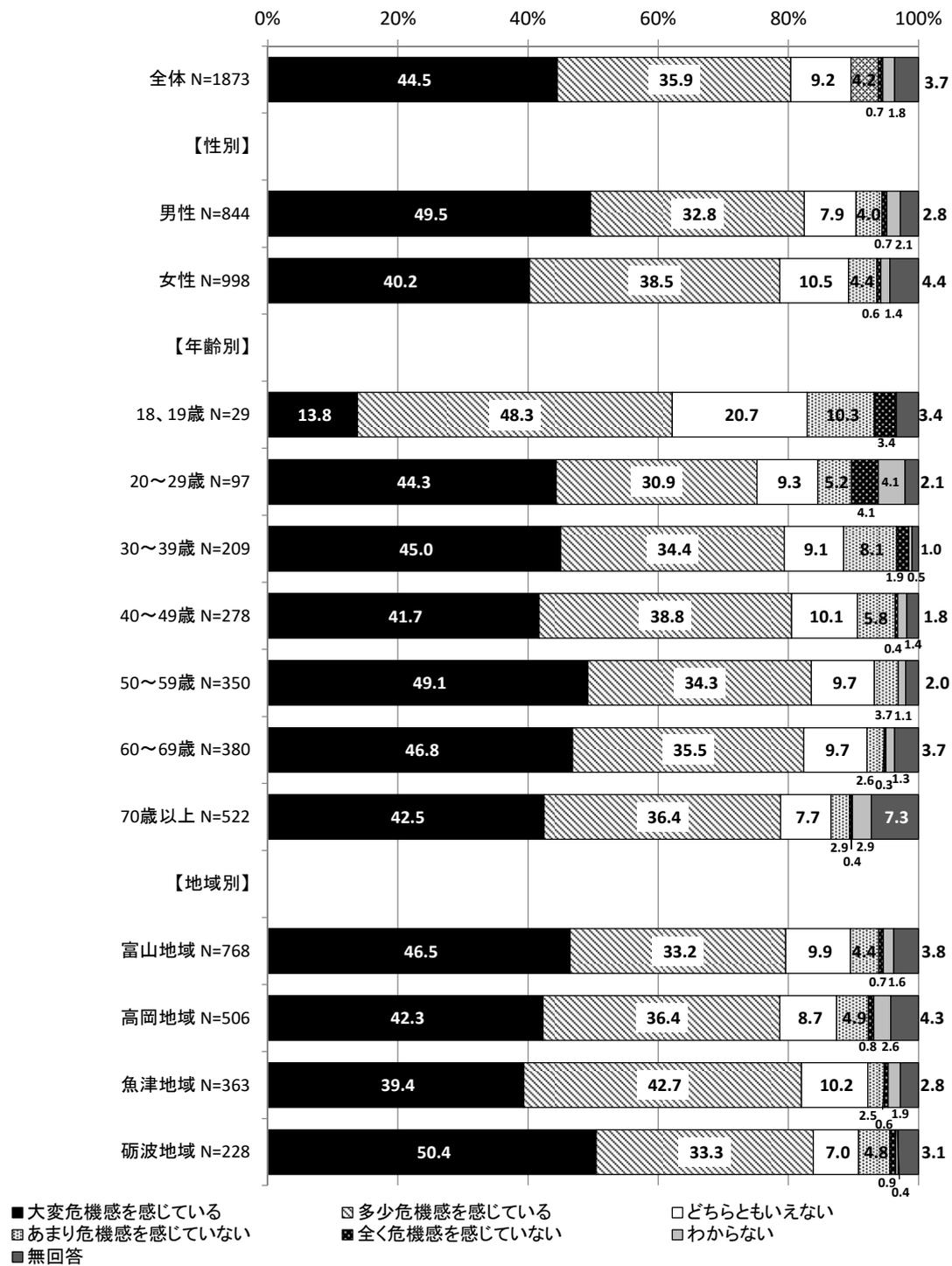
(ウ) 年齢別

- ・『危機感を感じている』は「18、19歳」が62.1%と最も低く、「50～59歳」が83.4%と最も高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「大変危機感を感じている」は「砺波地域」で50.4%と半数を超えている。

図表33 少子化への危機感



②少子化対策のための施策

問7 少子化の進行は、社会保障制度の持続可能性や労働力不足による経済成長の減速、地域コミュニティの縮小などの影響を社会にもたらすと考えられますが、あなたは、行政が、結婚・出産・少子化対策に取り組むうえで、どのような施策を拡充すべきと考えますか。

次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「若い世代の雇用や収入の安定化のための施策」が61.2%と最も高く、次いで「仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し（育児休業の取得促進や長時間労働の是正等）」が56.3%、「妊娠・出産に対する経済的支援（出産祝い金の支給、妊産婦及び乳幼児に係る医療費の軽減等）」が53.8%、「保育料・教育費等の支援、軽減」が53.3%、「子どもの預け場所・居場所の整備（保育サービスや放課後児童クラブ等）」が52.1%と5割を超えている。

(イ) 性別

- ・「女性」は、「仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し（育児休業の取得促進や長時間労働の是正等）」、「子どもの預け場所・居場所の整備（保育サービスや放課後児童クラブ等）」、「不妊や不育症に関する相談窓口の整備や治療費助成制度の充実」などで「男性」より高くなっている。
- ・「男性」は、「若い世代の雇用や収入の安定化のための施策」、「妊娠・出産に対する経済的支援（出産祝い金の支給、妊産婦及び乳幼児に係る医療費の軽減等）」、「保育料・教育費等の支援、軽減」、「新婚夫婦への経済的支援（結婚祝い金の支給、新居の家賃・引越費用・家具家電購入費の補助等）」の経済的支援施策や結婚支援（出会いの機会の創出等）施策などで「女性」より高くなっている。

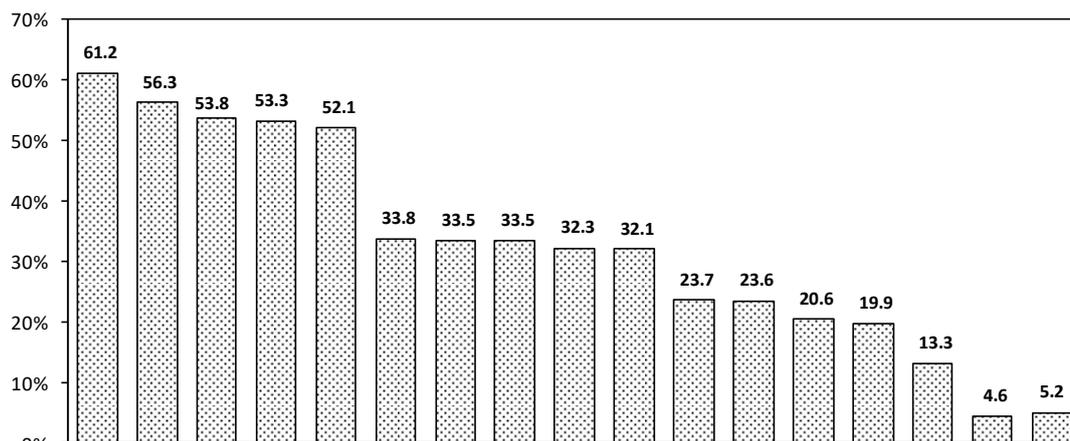
(ウ) 年齢別

- ・「20～29歳」は、「若い世代の雇用や収入の安定化のための施策」、「妊娠・出産に対する経済的支援（出産祝い金の支給、妊産婦及び乳幼児に係る医療費の軽減等）」、「保育料・教育費等の支援、軽減」、「新婚夫婦への経済的支援（結婚祝い金の支給、新居の家賃・引越費用・家具家電購入費の補助等）」の経済的支援施策が他の年代に比べて高くなっている。
- ・「30～39歳」は、「仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し（育児休業の取得促進や長時間労働の是正等）」、「子どもの預け場所・居場所の整備（保育サービスや放課後児童クラブ等）」、「乳幼児連れでも外出しやすい環境づくり」などが他の年代に比べて高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「若い世代の雇用や収入の安定化のための施策」や「若い女性の転出超過を是正する施策（若い女性が暮らしやすいまちづくりや仕事づくり）」は「砺波地域」で他の地域に比べて高くなっている。

図表34 少子化対策のための施策 (N=1,873、M.T.=553.1%)



	有効回答数	若い世代への雇用や収入の安定化のための施策	若い世代のライフプラン教育の充実(妊娠に適切な年齢の周知等)	妊娠・出産に対する経済的支援(出産祝い金の支給、妊産婦及び乳幼児に係る医療費の軽減等)	保育料・教育費等の支援、軽減	子どもの預け場所・居場所の整備(保育サービスや放課後児童クラブ等)	結婚・出産・子育てにあたりやすい環境づくり(気運の醸成)	若い女性の転出超過を是正する施策(若い女性が暮らしやすいまちづくりや仕事づくり)	不妊や不育症に関する相談窓口の整備や治療費助成制度の充実	結婚支援(出会いの機会の創出等)	新婚夫婦への経済的支援(結婚祝い金の支給、新居の家賃・引越費用・家具家電購入費の補助等)	乳幼児連れでも外出しやすい環境づくり	多子世帯(子ども3人以上)に着目した子育て支援	在宅育児への支援(ヘルパー派遣費用の補助、孤立防止対策等)	子育てに役立つ情報の充実(アプリ、サイトなど)	その他	無回答		
全体	1,873	61.2	56.3	53.8	53.3	52.1	33.8	33.5	33.5	32.3	32.1	23.7	23.6	20.6	19.9	13.3	4.6	5.2	
性別	男性	844	62.1	51.3	54.0	53.4	46.9	34.5	32.5	28.4	35.0	37.2	19.4	23.5	23.7	17.7	11.6	4.7	5.2
	女性	998	60.4	60.5	53.7	53.0	56.1	33.5	34.2	38.2	30.6	27.9	27.4	24.1	17.8	21.7	15.1	4.5	5.3
年齢	18、19歳	29	62.1	31.0	65.5	48.3	48.3	20.7	34.5	31.0	27.6	34.5	17.2	20.7	20.7	24.1	20.7	3.4	3.4
	20～29歳	97	82.5	60.8	72.2	64.9	42.3	40.2	38.1	30.9	30.9	61.9	24.7	32.0	18.6	17.5	20.6	5.2	4.1
	30～39歳	209	63.2	65.6	65.1	61.2	60.8	36.8	37.3	43.5	28.7	45.0	45.0	27.3	29.7	25.8	19.1	7.2	1.9
	40～49歳	278	62.9	61.9	54.7	57.6	51.1	30.2	29.9	41.0	30.6	31.7	25.2	25.5	23.0	18.0	11.9	6.8	1.4
	50～59歳	350	59.7	58.6	50.9	52.9	53.1	34.0	29.4	34.0	28.6	29.1	19.1	22.0	16.0	20.6	10.6	5.1	2.0
	60～69歳	380	62.4	56.8	52.9	52.4	55.8	33.7	37.1	33.4	32.6	30.5	19.2	22.4	18.9	21.8	15.0	3.9	5.5
	70歳以上	522	55.9	48.7	47.5	46.9	48.1	34.7	33.0	26.2	37.5	24.7	21.1	21.6	20.3	16.9	10.9	2.7	10.9
地域	富山地域	768	59.2	58.3	54.3	54.9	53.8	34.2	30.1	35.8	31.6	30.6	24.2	25.5	20.7	20.7	13.7	5.3	5.3
	高岡地域	506	61.9	52.8	51.2	50.0	49.4	33.0	34.4	30.4	32.6	31.4	22.9	21.7	19.4	18.6	12.3	3.4	6.1
	魚津地域	363	61.7	58.1	54.5	51.8	51.8	34.7	35.3	34.2	31.4	35.3	21.5	25.1	20.1	20.1	12.7	4.4	3.6
	砺波地域	228	66.7	54.8	57.5	57.5	53.5	33.8	40.4	32.0	35.5	34.2	27.6	18.9	23.2	19.7	16.2	5.7	5.3

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、少子化の進行について、『危機感を感じている』と回答した方の割合は8割を超えているものの、年齢別では「18、19歳」が最も低く、「20～29歳」が2番目に低くなっており、これから子どもを産み育てる世代への啓発を含め、少子化対策の推進には、すべての県民が「自分ごと」と認識し、危機感を共有し社会全体で取り組んでいく必要がある。

また、少子化対策として拡充すべき施策としては、年齢別では「20～29歳」で「若い世代の雇用や収入の安定化のための施策」、「妊娠・出産に対する経済的支援（出産祝い金の支給、妊産婦及び乳幼児に係る医療費の軽減等）」、「保育料・教育費等の支援、軽減」、「新婚夫婦への経済的支援（結婚祝い金の支給、新居の家賃・引越費用・家具家電購入費の補助等）」の経済的支援施策が他の年代に比べて高く、「30～39歳」では「仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し（育児休業の取得促進や長時間労働の是正等）」、「子どもの預け場所・居場所の整備（保育サービスや放課後児童クラブ等）」、「乳幼児連れでも外出しやすい環境づくり」などが他の年代に比べて高くなっており、結婚や子育てなどライフステージに応じた施策への関心の高さがうかがえる。

少子化の現状や子どもを取り巻く環境などについて、県民の理解・認識を深めるよう努め、結婚、妊娠、出産、子育てにあたたかい社会の実現に向けて、今回の調査結果を各種施策に反映させ、さらなる少子化対策・子育て支援に取り組んでまいりたい。

(4) 女性活躍の推進について

<いま>

本県の女性の就業をめぐる状況を見ると、就業率（15～64歳）は全国3位（R2）、平均勤続年数は5位（R3）、正社員割合は3位（H29）といずれも全国トップクラスだが、組織の意思決定に携わる役員等を含めた女性の管理職比率は13.3%、全国44位（R2）と、低い水準にとどまっている。一方で、男性の育児休業取得率や男性（夫）の家事・育児時間は全国平均を下回っており、令和3年度に実施したアンケート結果からも、女性従業員の約7割が、女性活躍のネックは家庭の負担であると認識している。

このため、県では県民のウェルビーイングや男女共同参画を実現するための大きな柱として、富山県内の企業を中心とした経済分野における女性活躍を推進することを目的として、令和4年3月、「富山県女性活躍推進戦略」を策定した。この戦略に基づき、女性の活躍推進に取り組む県内企業等を県が認定する「とやま女性活躍企業」認定制度を創設したほか、女性活躍・働き方改革専門コンサルタントの派遣、男性の育休取得の促進、従業員の家庭生活をバックアップする企業の取組みの支援、女性リーダーの養成とネットワークの構築など、民間企業における女性の活躍促進を図ってきたところである。

【調査結果】

①職場における男女の地位の平等感

問8 あなたは、職場において男女の地位は平等になっていると思いますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『男性の方が優遇されている（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算したもの）』は62.2%、『女性の方が優遇されている（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算したもの）』は4.8%となっている。
- ・「平等」は15.8%となっている。

(イ) 性別

- ・『男性の方が優遇されている』は「男性」が58.5%に対して「女性」が65.2%と、「女性」が6.7ポイント高くなっている。
- ・「平等」は「男性」が18.6%に対して「女性」が13.5%と、「男性」が5.1ポイント高くなっている。

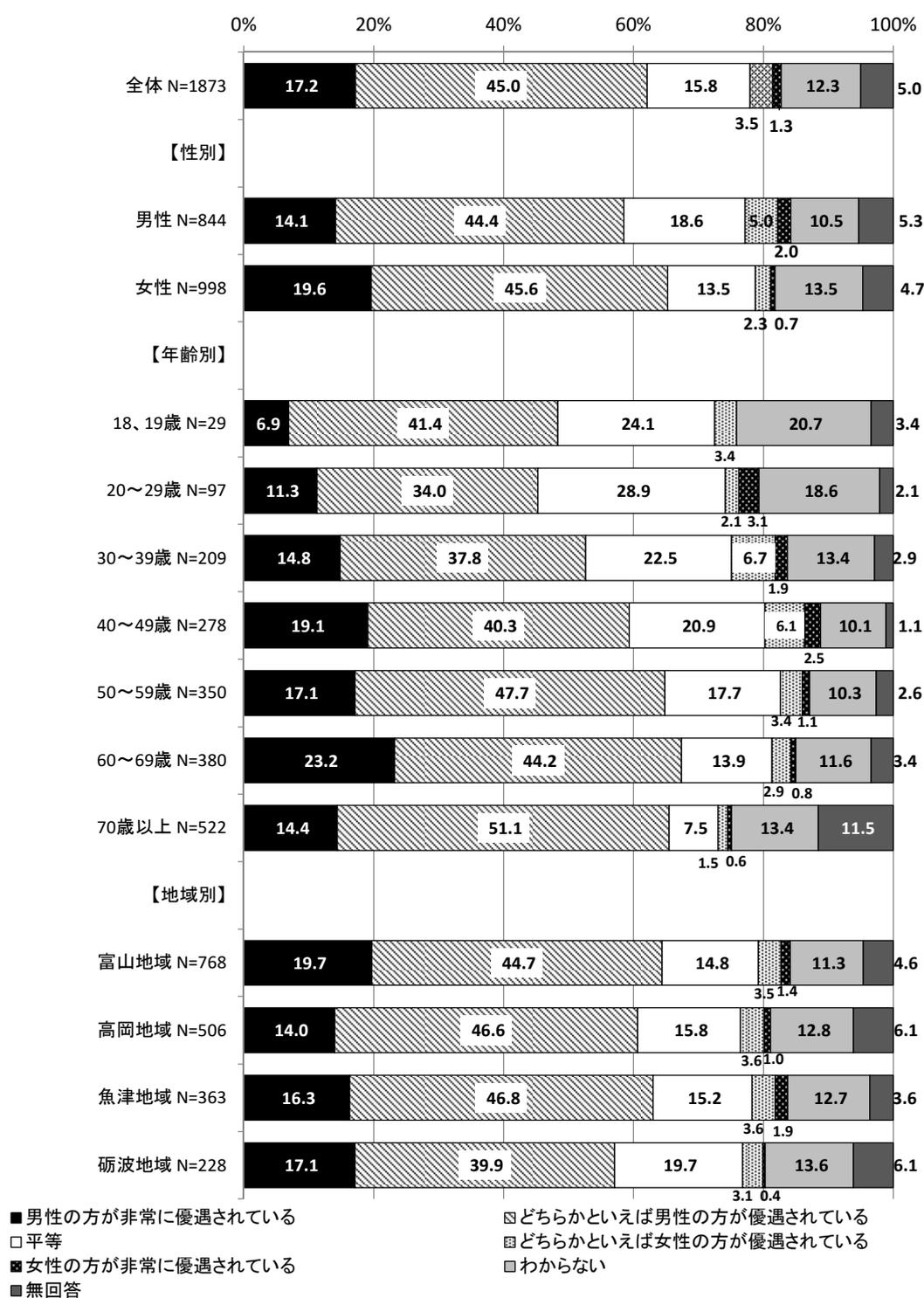
(ウ) 年齢別

- ・『男性の方が優遇されている』は「20～29歳」が45.3%と最も低く、「60～69歳」が67.4%と最も高くなっている。
- ・「平等」は「70歳以上」で7.5%、「60～69歳」で13.9%と低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「平等」は「砺波地域」が19.7%と最も高くなっている。

図表35 職場における男女の地位の平等感



<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、全体で見ると、「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は62.2%に対して「女性の方が優遇されている」は4.8%と、「男性の方が優遇されている」と感じている人が57.4ポイントも高いことが分かった。

男女別で見ると、「男性の方が優遇されている」と答えた割合は、女性の方が男性よりも6.7ポイント高く、「平等」と答えた割合は女性の方が男性よりも5.1ポイント低く、職場における男女の地位が「平等ではない」と感じている割合は、男性より女性の方が高いことが分かった。

また、年齢別で見ると、「男性の方が優遇されている」と答えた割合が最も低かったのは、「20～29歳」の45.3%で、最も高かった「60～69歳」の67.4%より22.1ポイントも低く、また、「平等」と答えた割合が最も高かったのも「20～29歳」の28.9%であった。若い世代ほど男女の職場での平等感が高く、逆に50代以降の年代では、「男性の方が優遇されている」と感じている割合が高く、職場における男女の平等感には年代のギャップがあることが見受けられた。

この結果から、女性活躍の推進には、固定化した性別役割分担を反映した制度や慣行を見直し、性別にかかわらず、誰もがやりがいをもって働くことができる環境づくりが重要と考えられる。また、「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るもの」といった性別によるアンコンシヤスバイアス（無意識の思い込み）の解消にも取り組む必要がある。今後も女性活躍推進戦略に基づき、一人ひとりが、企業においても家庭においても自分らしく、充実、活躍できる富山県を目指し、これまで以上に働き方改革と女性の活躍推進に取り組んでまいりたい。

(5) 自転車の活用について

<いま>

自転車は、子どもから高齢者まで幅広い県民が利用できる、環境にも優しい身近な交通手段であり、その活用は健康づくり、観光振興や地域活性化にも繋がるものであることから、近年、自転車を活用した取組みへの関心が高まっている。

こうしたなか、国においては、自転車活用の推進に関する施策の充実を図るため、平成29年5月に「自転車活用推進法」を施行し、平成30年6月には、法の基本方針に即した「自転車活用推進計画」が策定された。これを受けて県では、平成31年3月に「富山県自転車活用推進条例」を制定するとともに、この条例に基づき「富山県自転車活用推進計画」を策定し、これらの条例及び計画に基づき、自転車の活用に関する施策を総合的かつ計画的に推進している。

具体的には、「富山湾岸サイクリングコース」や「田園サイクリングコース」等の整備をはじめ、「富山湾岸サイクリング」や県民向けの自転車活用推進イベント、交通安全教室等の開催、さらには、令和3年5月に「富山湾岸サイクリングコース」が日本を代表する6つのナショナルサイクルルートの一つに指定されたことを受け、走行・受入環境の充実やSNS等による情報発信の強化に努めるなど、自転車を活用した観光誘客や地域活性化に向けた取組みを行っている。

【調査結果】

① 日常の自転車利用の有無

問9 あなたは、普段自転車を利用していますか。

(ア) 全体

- ・「はい」が22.3%、「いいえ」が74.9%となっている。

(イ) 性別

- ・「はい」は「男性」が27.6%に対して、「女性」が17.8%と「男性」が9.8ポイント高くなっている。

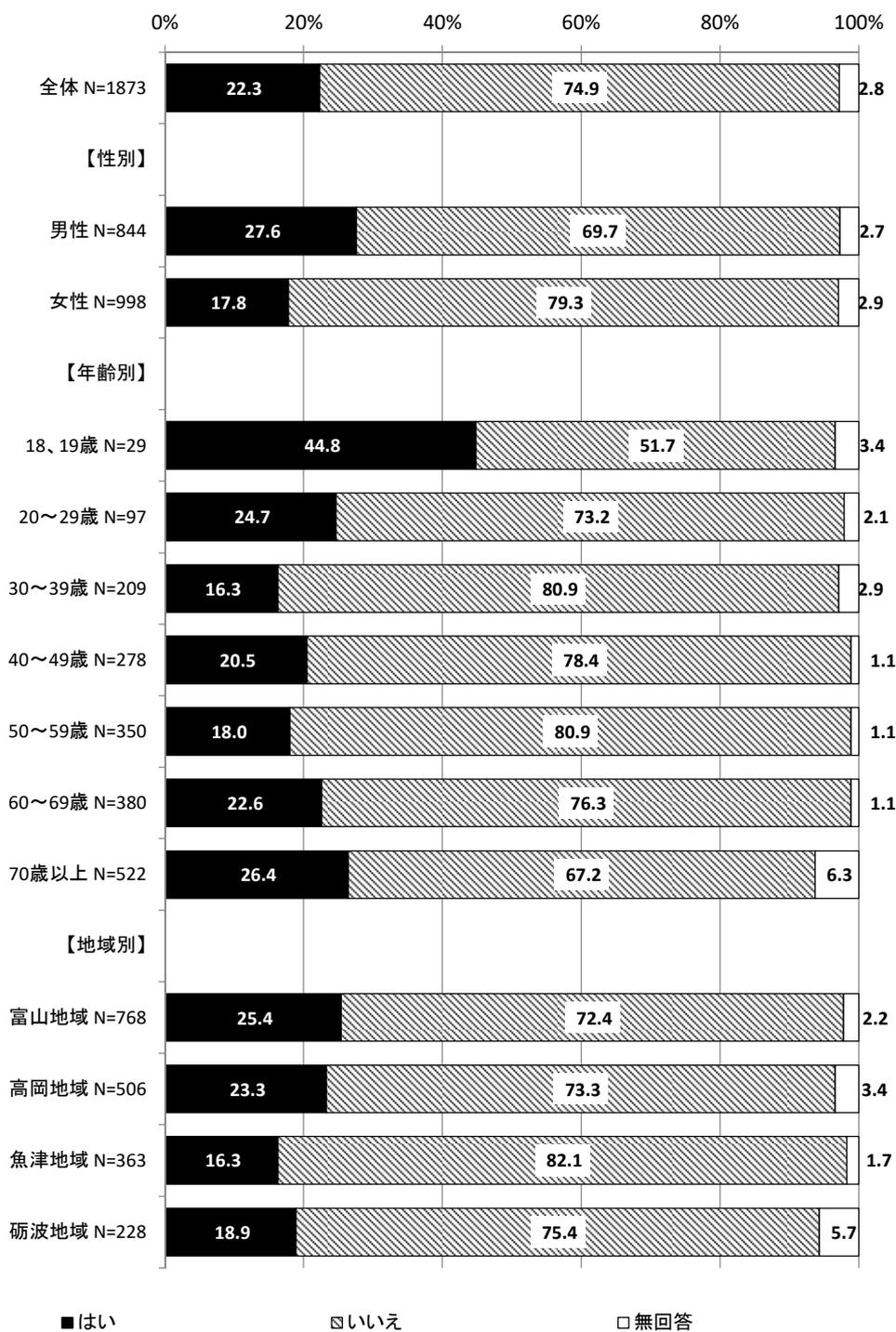
(ウ) 年齢別

- ・「18、19歳」は、「はい」が44.8%となっており、他の年代に比べて高くなっている。
- ・「はい」は「30～39歳」が16.3%、「50～59歳」が18.0%と他の年代に比べて低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」「高岡地域」で「はい」が高くなっている。

図表36 日常の自転車利用の有無



②自転車利用の理由

問9-1 問9で「1. はい」と回答した方にお尋ねします。あなたは、どのような理由で自転車を利用していますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「手軽に使える、早く移動できる」が80.4%と最も高く、次いで「健康に良い、運動不足解消」が61.5%、「ガソリン代や電車代がかからない」が42.8%となっている。

(イ) 性別

- ・「利用に適した公共交通機関がないため」は、「男性」が12.9%に対して「女性」は24.2%と、「女性」が11.3ポイント高くなっている。

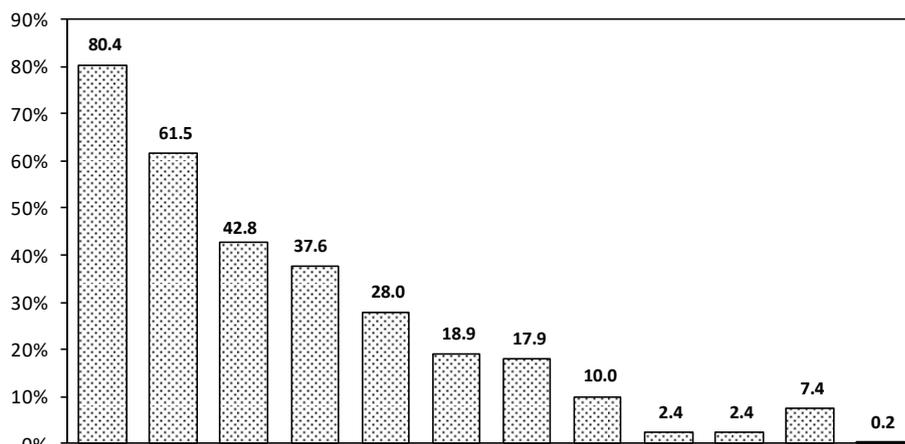
(ウ) 年齢別

- ・「30～39歳」では「クルマの渋滞や、満員電車などのストレスがない」が41.2%、「ガソリン代や電車代がかからない」が61.8%と、他の年代に比べて高くなっている。
- ・「健康によい、運動不足解消」は、概ね年齢が上がるにつれて高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」では「クルマの渋滞や、満員電車などのストレスがない」が、「高岡地域」では「利用に適した公共交通機関がないため」が他の地域に比べて高くなっている。「魚津地域」では「手軽に使える、早く移動できる」、「砺波地域」では「健康に良い、運動不足解消」が他の地域に比べて高くなっている。

図表37 自転車利用の理由 (N=418、M. T.=309.6%)



	有効回答数	手軽に使える、早く移動できる	健康に良い、運動不足解消	ガソリン代や電車代がかからない	環境にやさしい	走っていて気持ちが良い、ストレス解消	クルマの渋滞や、満員電車などのストレスがない	利用に適した公共交通機関がないため	移動時の「3密」を避け、新型コロナウイルス感染症を防止するため	かっこいい、おしゃれ	サイクリングコースが整備されているから	その他	無回答	
全体	418	80.4	61.5	42.8	37.6	28.0	18.9	17.9	10.0	2.4	2.4	7.4	0.2	
性別	男性	233	79.0	63.5	41.2	34.3	28.8	18.9	12.9	9.4	1.7	3.0	7.3	0.4
	女性	178	82.6	58.4	44.9	41.6	25.8	18.5	24.2	11.2	3.4	1.7	7.3	-
年齢	18、19歳	13	84.6	38.5	38.5	30.8	23.1	23.1	38.5	7.7	-	-	7.7	-
	20～29歳	24	70.8	37.5	50.0	20.8	25.0	16.7	29.2	-	12.5	-	4.2	-
	30～39歳	34	76.5	55.9	61.8	26.5	29.4	41.2	11.8	5.9	5.9	-	5.9	-
	40～49歳	57	71.9	61.4	38.6	31.6	33.3	22.8	10.5	14.0	3.5	1.8	14.0	-
	50～59歳	63	82.5	63.5	47.6	42.9	27.0	25.4	17.5	15.9	3.2	6.3	7.9	-
	60～69歳	86	81.4	65.1	53.5	46.5	32.6	15.1	16.3	15.1	-	4.7	7.0	-
	70歳以上	138	84.1	65.9	30.4	38.4	23.9	11.6	19.6	5.8	0.7	0.7	5.8	0.7
地域	富山地域	195	82.1	63.1	42.6	39.0	28.7	24.1	13.3	10.8	3.1	2.1	8.7	-
	高岡地域	118	75.4	57.6	43.2	32.2	23.7	16.1	24.6	11.9	0.8	2.5	6.8	0.8
	魚津地域	59	88.1	55.9	39.0	40.7	28.8	13.6	18.6	5.1	3.4	1.7	5.1	-
	砺波地域	43	74.4	72.1	48.8	41.9	34.9	11.6	20.9	9.3	2.3	4.7	7.0	-

＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、「普段自転車を利用しているか」という問いに対して、「はい」と答えた方の割合はわずか22.3%であった。また、そのうち、自転車に乗る目的について、「健康に良い、運動不足解消」と回答した人の割合は42.8%となり、半数以下であった。

平成31年3月に策定した「富山県自転車活用推進計画」においては、「自転車にやさしい都市環境の整備」、「サイクルツーリズムの推進」、「安全で安心な自転車社会の実現」とともに、県民の体力向上や余暇の充実に資するよう、「自転車を活かした健康づくりの推進」を目標の一つに掲げている。今回の調査結果も踏まえ、今後も、自転車を活用した健康増進を図るため、安全かつ快適に自転車を利用することができる環境整備等、自転車活用の推進に向けた各種施策・事業を検討してまいりたい。

(6) 富山空港の名称について

<いま>

富山空港の名称は、県民の皆様により一層愛着と親しみをもって利用していただくため、置県130年記念事業の一環として募集し、富山県ふるさと教育推進協議会における審議を経て、平成24年11月に「富山きときと空港」に決定した。

県民に愛着のある方言を使うことにより、県外や海外の人に「何だろう」と思わせ、富山の魅力を説明するきっかけとなることを期待して選定されたものであり、その後、着実にその名称が浸透してきている。

一方、令和3年度開催の「富山きときと空港運営あり方検討会議」において、近隣県民にも愛着をもって利用してもらえる名称にすることも一つの考え方であるとの意見が示されるなど、主として、県外・海外からの利用促進の観点から名称の変更を検討してはどうかとの意見もある。

【調査結果】

①「富山きときと空港」の名称の満足度

問10 「富山きときと空港」の名称は、県民に愛着を持っていただき、親しみをもって利用していただくため、公募にて平成24年11月に決定しました。
あなたは、「富山きときと空港」の名称について満足していますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「どちらともいえない」は37.8%と最も高くなっている。
- ・『満足している(「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合算したもの)』は33.3%、『不満である(「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合算したもの)』は25.0%となっている。

(イ) 性別

- ・男女間で大きな差は見られない。

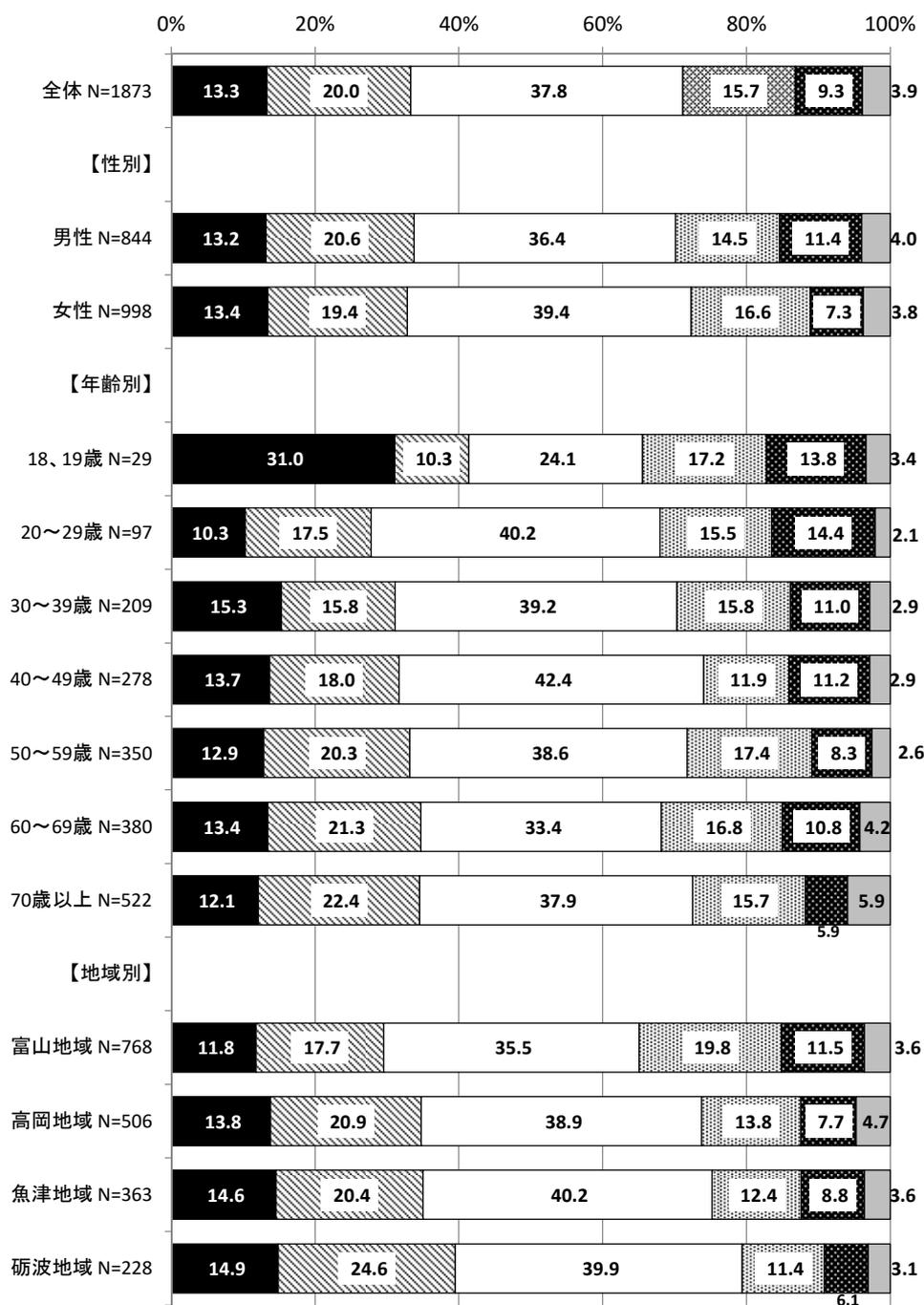
(ウ) 年齢別

- ・『満足している』は「18、19歳」が41.3%と最も高く、「20～29歳」で27.8%と最も低く、年齢が上がるにつれて、高くなっている。
- ・『不満である』は「18、19歳」で31.0%と最も高く、「70歳以上」で21.6%と最も低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」では『満足している』が29.5%と最も低く、『不満である』が31.3%と最も高くなっている。

図表38 「富山きときと空港」の名称の満足度



■満足している □どちらかといえば満足している □どちらともいえない □どちらかといえば不満である ■不満である □無回答

②「富山きときと空港」の名称を見直すべきか

問11 空港の利用促進を図るうえで「富山きときと空港」の名称を見直してはどうかとの意見がありますが、あなたは見直すべきと思いますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『そう思う(「そう思う」と「ややそう思う」を合算したもの)』は45.2%、『そう思わない(「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合算したもの)』は50.4%となっている。

(イ) 性別

- ・『そう思う』は「男性」が43.6%に対して、「女性」が46.0%と「女性」が2.4ポイント高くなっている。

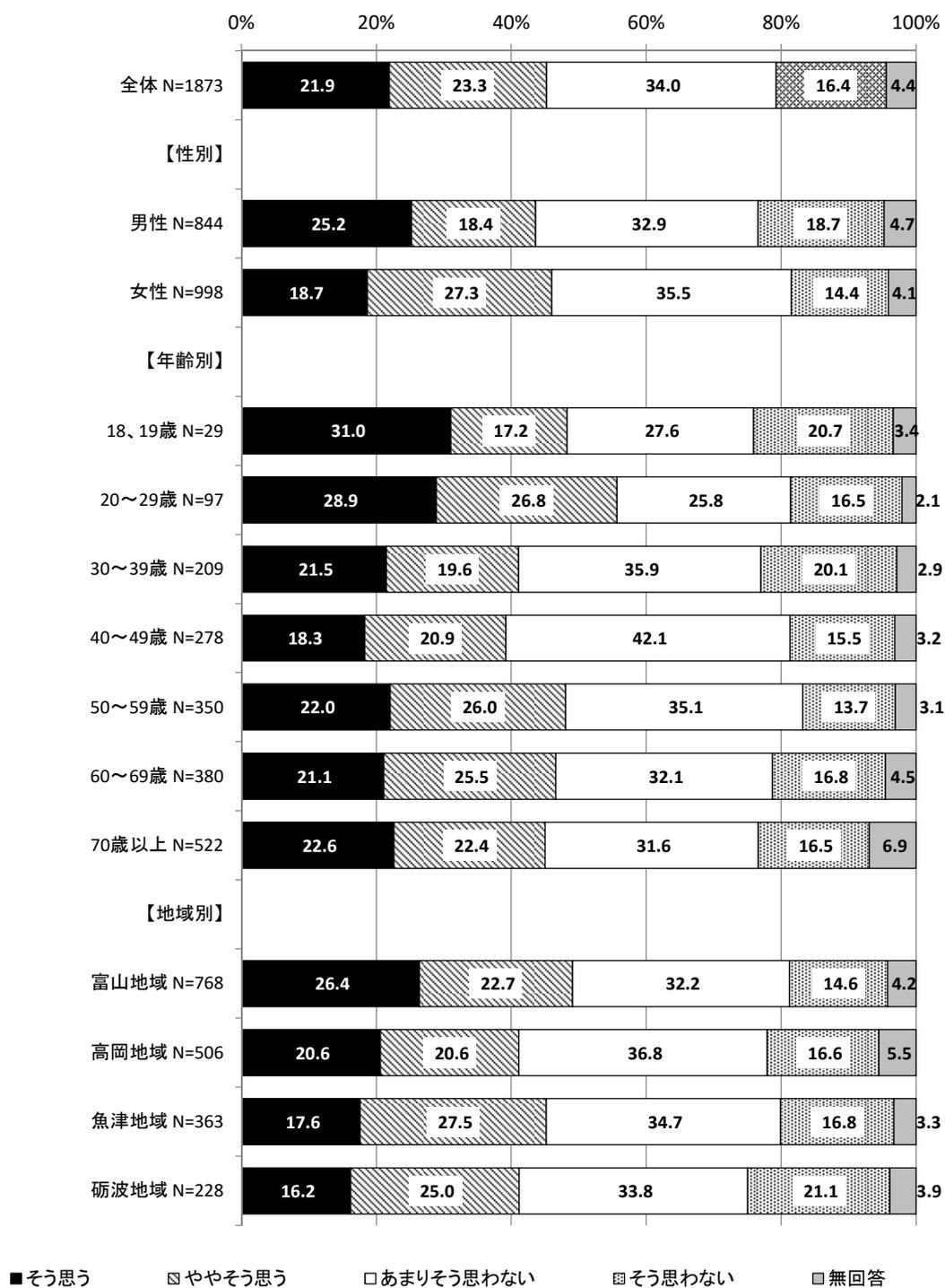
(ウ) 年齢別

- ・「20～29歳」以外では、『そう思わない』が『そう思う』より高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」では『そう思う』が49.1%に対して『そう思わない』が46.8%と、『そう思う』が2.3ポイント高くなっている。他の地域では『そう思わない』が『そう思う』よりも高くなっている。

図表39 「富山きときと空港」の名称を見直すべきか



③「富山きときと空港」の名称を見直す方法

問12 「富山きときと空港」の名称を見直すとした場合、どの方法が良いと思いますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・ 「「富山空港」のみでよい（別の名称はいらない）」は61.3%、「有識者等の意見を聞いて決めればよい」は20.8%となっている。

(イ) 性別

- ・ 「「富山空港」のみでよい（別の名称はいらない）」は「男性」が57.5%に対して「女性」が64.4%と、「女性」が6.9ポイント高くなっている。

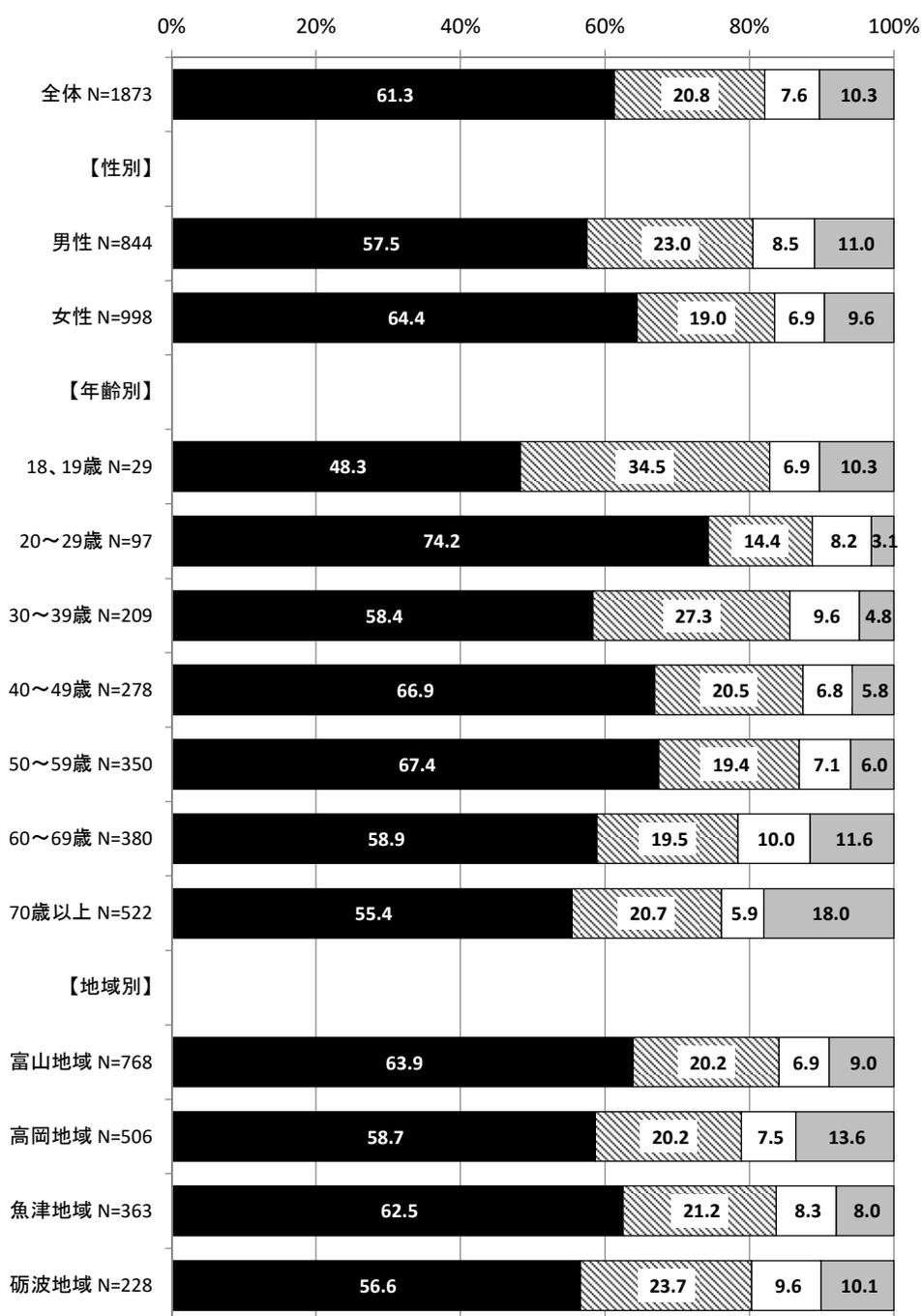
(ウ) 年齢別

- ・ 「「富山空港」のみでよい（別の名称はいらない）」は、「18、19歳」で48.3%と最も低く、「20～29歳」では74.2%と最も高くなっている。

(エ) 地域別

- ・ 「「富山空港」のみでよい（別の名称はいらない）」は「富山地域」で63.9%と最も高く、「砺波地域」で56.6%と最も低くなっている。

図表40 「富山きときと空港」の名称を見直す方法



■「富山空港」のみでよい(別の名称はいらない) ▨有識者等の意見を聞いて決めればよい □その他 □無回答

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「富山きときと空港」の名称の満足度については、「どちらともいえない」が最も多かったが、『満足している』は、『不満である』を上回った。

また、名称を見直すべきかについては、『そう思わない』が『そう思う』を上回った。なお、見直すとした場合の方法については、「「富山空港」のみでよい」が最も多かった。

こうしたことから、直ちに名称の見直しは行わないが、現在、富山きときと空港に関しては、民間活力導入の検討を進めており、こうした状況を考慮しつつ名称について検討してまいりたい。

(7) リカレント教育の取組みについて

<いま>

人生100年時代やSociety5.0*の到来を迎え、誰がいくつになっても学び直し、活躍できる社会の実現のため、産学官が連携しリカレント教育を一層推進することが求められている。

県では、「富山県人生100年時代人づくり構想会議」(H30)の提言を受け、本県において取り組むべきリカレント教育等の学習内容や実施方法等について、提供側の県内高等教育機関と職業能力訓練機関、受講者側の経済・労働者団体、そして行政の各関係機関が協議する「富山県リカレント教育等産学官連携推進会議」(R1～)を設置した。

また、職務能力の向上を図るビジネスパーソンや一旦職を離れ復職を希望する社会人の学び直しをサポートするため、県内高等教育機関が社会人を対象に職務上の知識や技術の習得に有用な学習講座「リカレント教育等産学官連携講座」を、社会人が受講しやすいCiCビル5階研修室等において開講するとともに、平日夕方、土日・祝日に開講する場合の経費の一部を支援し、県民等への普及啓発を行っている。

※ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society） 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの

【調査結果】

①就業の状況

問13 現在、お勤めですか。

(ア) 全体

- ・「勤めている」は56.7%、「現在、職についていないが、就職（再就職を含む）を目指して準備中」は2.9%、「いずれにも該当しない」は33.2%となっている。

(イ) 性別

- ・「勤めている」は「男性」が61.0%に対して「女性」は52.9%となっている。

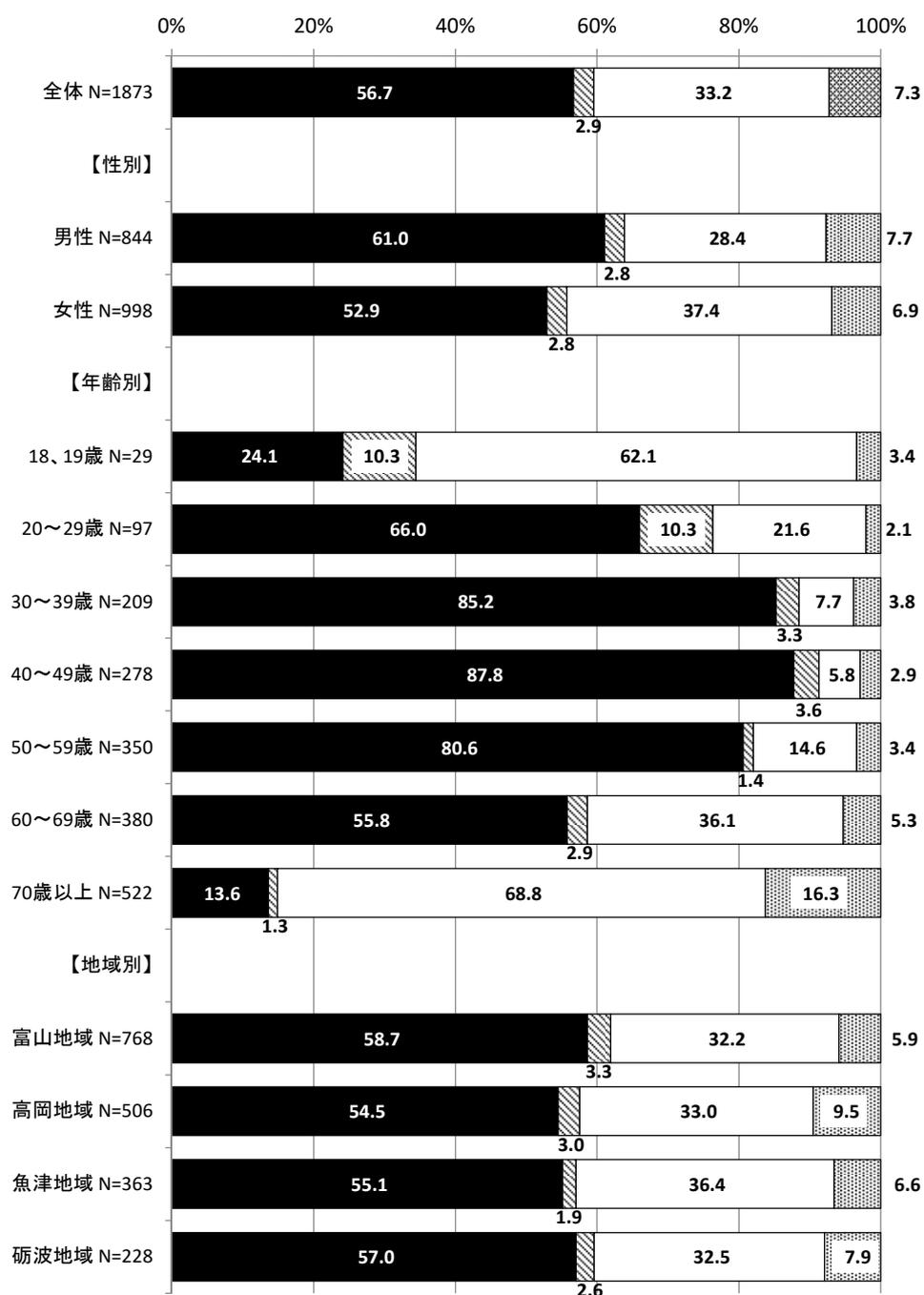
(ウ) 年齢別

- ・「勤めている」は30歳から59歳で80%を超えている。

(エ) 地域別

- ・地域間に大きな差は見られない。

図表41 就業の状況



■勤めている □現在、職についていないが、就職(再就職を含む)を目指して準備中 □いずれにも該当しない □無回答

②リカレント教育の取組み

問13-1 問13で「1. 勤めている」「2. 現在、職についていないが、就職（再就職を含む）を目指して準備中」と回答した方にお尋ねします。あなたはリカレント教育※（社会人の学び直し）として、現在、何か取り組んでいますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

（ア）全体

- ・「何もしていない」が55.9%と最も高くなっている。
- ・何らかの取組みをしている中では、「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」が27.2%と最も高く、次いで「講習会、研修会等に参加して、情報収集や学習をしている」が17.6%と高くなっている。

（イ）性別

- ・「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」は「男性」が30.6%に対して「女性」が23.9%と、「男性」が6.7ポイント高くなっている。
- ・「何もしていない」は「男性」が53.6%に対し「女性」が57.7%と、「女性」が4.1ポイント高くなっている。

（ウ）年齢別

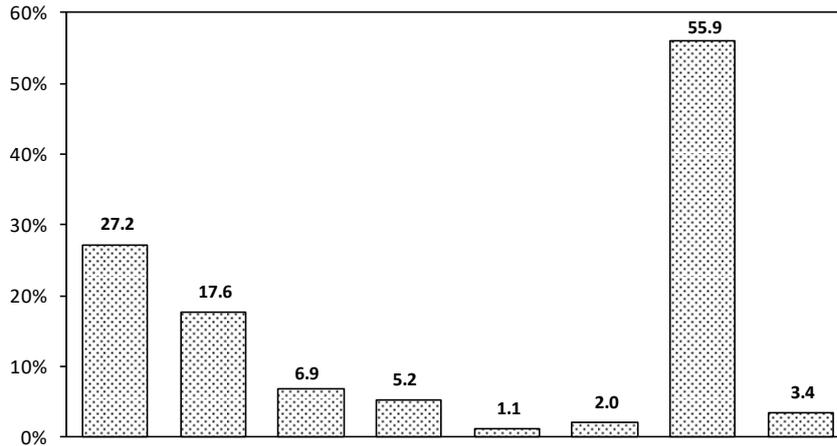
- ・「何もしていない」は「18、19歳」が60.0%と最も高く、次いで「50～59歳」が58.9%と高くなっている。
- ・「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」は「30～39歳」が31.4%、「60～69歳」で30.0%と他の年代に比べて高くなっている。

（エ）地域別

- ・「魚津地域」は「何もしていない」が60.9%と他の地域に比べて高く、「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」は23.2%と他の地域に比べて低くなっている。

※ リカレント教育（社会人の学び直し）とは人生100年時代やIoT、AIなど第四次産業革命による急速な技術革新の進展等を見据え、社会人が職業能力（技術・知識）の向上を図り、キャリアアップ（昇進・昇格、正社員登用等）、キャリアチェンジ（転職）や起業、現在従事している仕事の改革・改善、定年後の就職など、人生の様々なステージで活躍できるようにする学び直しのこと。（いわゆる生涯学習とは違うもの。）

図表42 リカレント教育の取組み (N=1,116、M. T.=119.2%)



	有効回答数	ネットの情報収集や学習等により	関係する本、雑誌、インターネット	講習会、研修会等に参加している	講習会、研修会等に参加していない	会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている	通信教育やインターネットの学習サービスにより学習している	大学、専門学校、職業訓練機関に通って学習している	その他	何もしていない	無回答
全体	1,116	27.2	17.6	6.9	5.2	1.1	2.0	55.9	3.4		
性別	男性	539	30.6	17.1	5.4	5.4	0.6	1.7	53.6	3.9	
	女性	556	23.9	18.3	8.5	5.2	1.6	2.2	57.7	3.1	
年齢	18、19歳	10	10.0	10.0	-	-	10.0	10.0	60.0	-	
	20～29歳	74	21.6	13.5	10.8	10.8	9.5	1.4	55.4	1.4	
	30～39歳	185	31.4	17.8	5.9	5.4	1.1	1.1	56.8	1.6	
	40～49歳	254	28.3	18.1	6.3	4.3	-	0.8	55.1	3.1	
	50～59歳	287	25.4	18.8	8.4	5.9	0.3	2.8	58.9	3.1	
	60～69歳	223	30.0	18.4	4.9	4.0	0.4	2.7	53.8	3.1	
	70歳以上	78	19.2	14.1	7.7	3.8	-	2.6	51.3	12.8	
地域	富山地域	476	28.8	16.8	6.7	6.1	1.1	2.1	54.2	2.9	
	高岡地域	291	27.8	18.6	7.2	4.8	1.7	0.7	54.6	4.8	
	魚津地域	207	23.2	17.4	6.8	3.4	0.5	3.4	60.9	1.9	
	砺波地域	136	26.5	19.1	6.6	5.9	0.7	2.2	56.6	4.4	

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、リカレント教育への取組みについて、半数を超える人が「何もしていない」と回答しているが、リカレント教育の普及には、企業等への情報発信や学びやすい環境づくりが不可欠であり、また、県内企業における「働き方改革」の意識を高める取組みを進めていくことも必要である。

デジタル化や技術革新の急速な進展などにより、求められる知識や技術が大きく変化し続けており、一人ひとりが長期間にわたり活躍し続け、人生をより充実したものとして過ごすためには、誰もが、何歳からでも、何回でも学び直し、能力を高める機会と環境があることが重要である。

こうしたことから、県としては、産学官連携の一層の推進を図り、リカレント教育の普及に取り組んでまいりたい。

(8) 体力づくりについて

<いま>

本県において、週1回以上運動やスポーツを実施する県民の割合は36.2%（R1）と全国平均56.4%（R3）を下回っていた。

このようなことから、「富山県スポーツフェスタ」や「富山マラソン」、「湾岸サイクリング」、「県民歩こう運動推進大会」など、県民参加型のイベントやスポーツ教室の開催などにより、県民のスポーツへの参加の機会づくりに努めている。また、子どもや若者をはじめ幅広い世代の県民がスポーツを楽しめるスポーツ施設の機能の充実や学校体育施設の開放促進など、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりにも積極的に取り組んでいる。

【調査結果】

①運動・スポーツの頻度

問14 あなたがこの1年間に行った運動やスポーツの回数は、どの程度になりますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『週に1回以上(「ほとんど毎日(週4回以上)」、「週に2～3回程度」及び「週に1回程度」を合算したもの)』は38.8%となっている。
- ・「全くしなかった」は33.4%となっている。

(イ) 性別

- ・『週に1回以上』は「男性」が40.8%に対して「女性」が36.4%と、「男性」が4.4ポイント高くなっている。
- ・「全くしなかった」は「男性」が30.5%に対して「女性」が36.6%と、「女性」が6.1ポイント高くなっている。

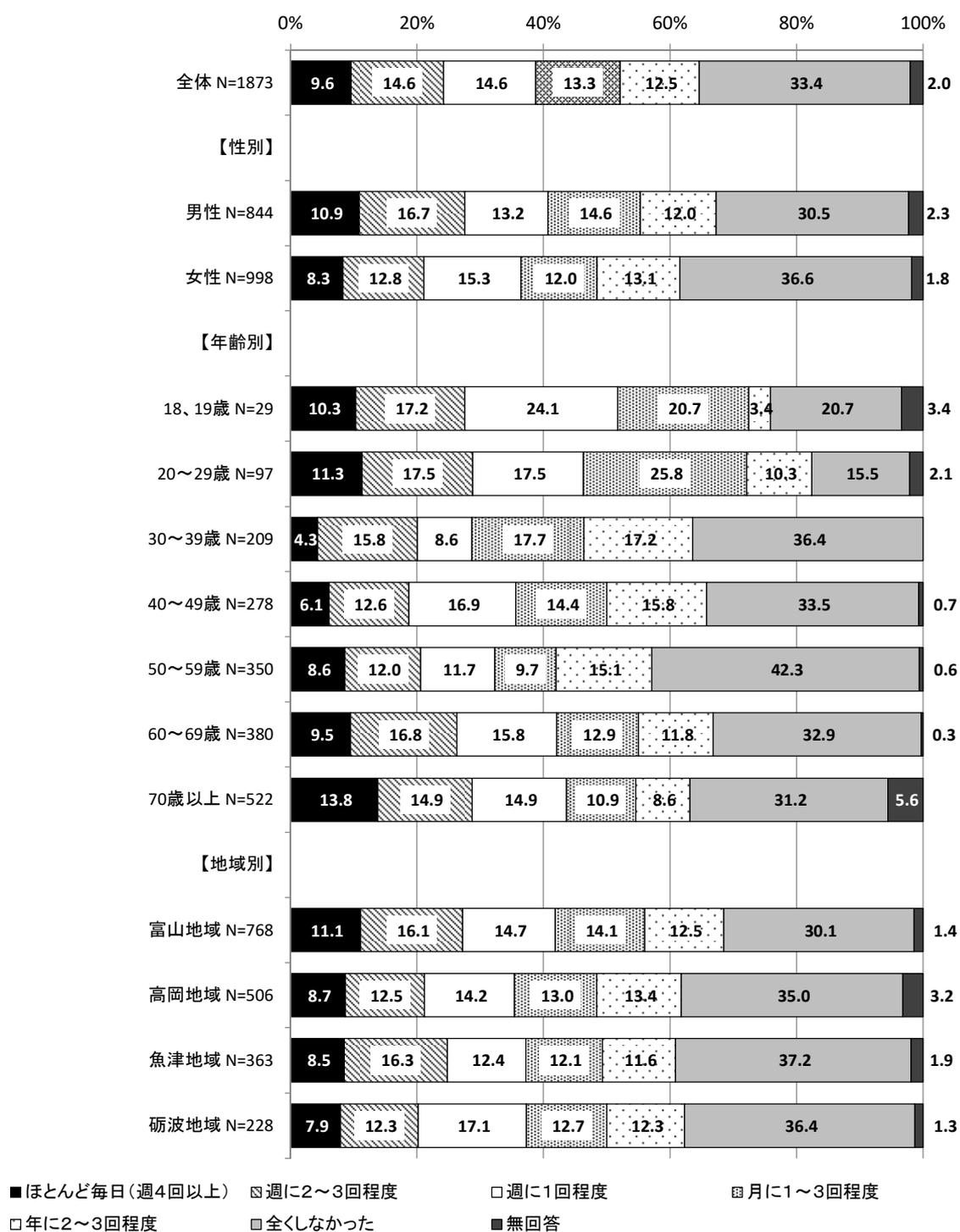
(ウ) 年齢別

- ・『週に1回以上』は「18、19歳」が51.6%と最も高く、「30～39歳」が28.7%と最も低くなっている。
- ・「全くしなかった」は「50～59歳」が42.3%と最も高くなっている。

(エ) 地域別

- ・『週に1回以上』は「富山地域」で41.9%と他の地域に比べて高くなっている。

図表43 運動・スポーツの頻度



②運動・スポーツの増減

問15 あなたは1年前に比べて運動・スポーツを実施する頻度は増えましたか、減りましたか。

次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「変わらない」が55.4%と最も高く、「減った」は31.9%、「増えた」は10.1%となっている。

(イ) 性別

- ・男女間に大きな差は見られない。

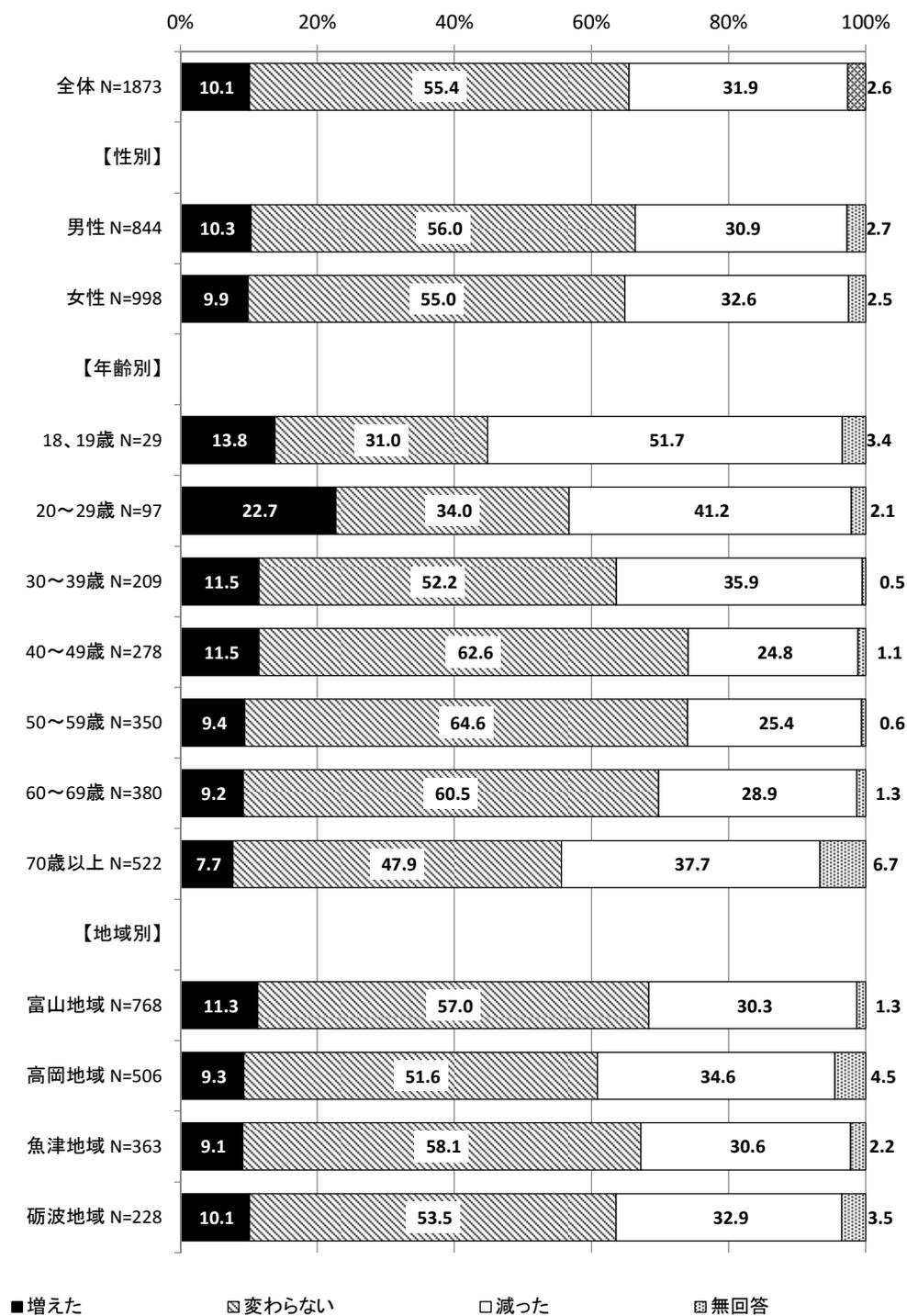
(ウ) 年齢別

- ・「増えた」は「20～29歳」が22.7%と最も高くなっており、年齢が上がるに従って低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「増えた」は「富山地域」で11.3%と他の地域に比べて高くなっている。
- ・「減った」は「高岡地域」で34.6%と他の地域に比べて高くなっている。

図表44 運動・スポーツの増減



③運動・スポーツの頻度が増加しなかった理由

問15-1 問15で「2. 変わらない」「3. 減った」と回答した方にお尋ねします。あなたが1年前と比べて運動・スポーツを実施する頻度が減った、または変わらなかった理由をすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「仕事や家事・育児が忙しい」が34.1%と最も高く、次いで「コロナウイルス感染拡大の影響」が28.8%、「病気やけがをしている・歳をとった」が26.9%となっている。

(イ) 性別

- ・「運動・スポーツが嫌い・面倒くさい」は「男性」が9.0%に対して「女性」が15.7%と、「女性」が6.7ポイント高く、「仕事や家事・育児が忙しい」は「男性」が30.9%に対して「女性」が36.7%と、「女性」が5.8ポイント高くなっている。

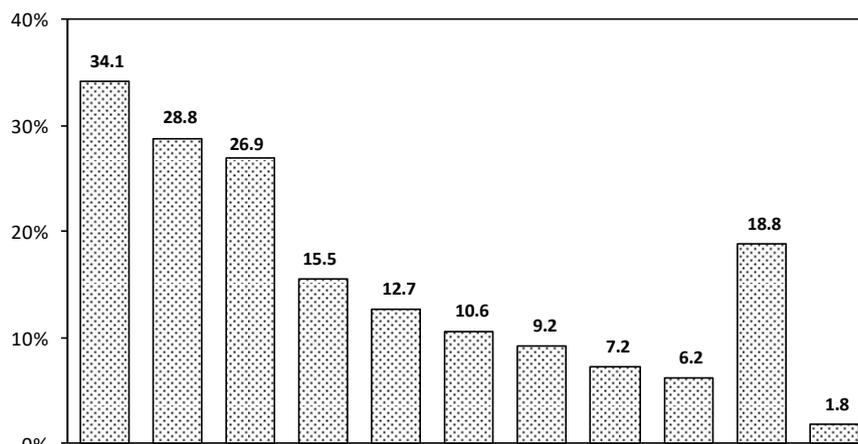
(ウ) 年齢別

- ・「仕事や家事・育児が忙しい」は「30～39歳」で76.1%、「40～49歳」で58.8%と他の年代よりも高くなっている。
- ・「60～69歳」では「コロナウイルス感染拡大の影響」が32.6%と最も高く、「70歳以上」では「病気やけがをしている・歳をとった」が47.4%と最も高くなっている。
- ・「お金に余裕がない」、「運動・スポーツが嫌い・面倒くさい」、「運動・スポーツよりやりたいことがある」は年齢が高くなるにつれて、概ね値が低くなる傾向となっている。

(エ) 地域別

- ・「魚津地域」で「病気やけがをしている・歳をとった」が31.7%と他の地域に比べて高く、「砺波地域」で「身近に場所や施設がない」「運動・スポーツよりやりたいことがある」「特に理由がない」が他の地域に比べて高くなっている。

図表45 運動・スポーツの頻度が増加しなかった理由 (N=1,634、M.T.=171.8%)



	有効回答数	仕事や家事・育児が忙しい	コロナウイルス感染拡大の影響（感染不安、イベント等の中止など）	病气やけがをしている・歳をとった	お金に余裕がない	運動・スポーツが嫌い・面倒くさい	身近に場所や施設がない	運動・スポーツよりやりたいことがある	十分に運動・スポーツを実施している	指導者や仲間がない	特に理由はない	無回答	
全体	1,634	34.1	28.8	26.9	15.5	12.7	10.6	9.2	7.2	6.2	18.8	1.8	
性別	男性	734	30.9	27.2	25.7	16.1	9.0	10.2	10.9	9.4	6.5	20.7	2.2
	女性	874	36.7	30.2	27.6	15.0	15.7	11.0	7.9	5.4	5.8	17.4	1.3
年齢	18、19歳	24	33.3	20.8	-	-	25.0	8.3	25.0	8.3	4.2	12.5	4.2
	20～29歳	73	37.0	21.9	1.4	23.3	21.9	21.9	16.4	5.5	8.2	16.4	-
	30～39歳	184	76.1	28.3	10.9	23.4	21.7	16.8	13.6	3.8	9.2	6.5	-
	40～49歳	243	58.8	29.2	16.9	21.4	15.2	7.4	8.6	7.4	6.2	14.0	0.4
	50～59歳	315	38.7	33.3	20.6	16.5	16.2	9.5	9.2	7.6	5.1	21.0	0.6
	60～69歳	340	24.4	32.6	29.4	13.2	9.4	11.8	7.4	7.6	6.8	21.8	2.1
	70歳以上	447	7.2	24.6	47.4	9.6	5.6	8.3	7.2	8.1	5.1	23.0	4.3
地域	富山地域	671	35.0	26.7	24.1	15.8	11.9	8.6	8.6	9.2	6.3	17.6	1.3
	高岡地域	436	32.6	31.0	28.4	16.7	13.1	10.8	8.5	5.5	4.6	18.3	1.1
	魚津地域	322	35.7	30.1	31.7	14.9	13.7	12.4	9.3	6.5	7.8	19.3	2.8
	砺波地域	197	31.5	29.9	25.9	12.7	13.2	14.7	12.7	5.1	7.1	23.4	3.0

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、週1回以上運動・スポーツを実施する県民の割合は38.8%と前回(R1)の36.2%より増加した。特に20代の実施率が前回(R1)の37.8%から46.3%と大幅な増となった。一方で、30代や女性の実施率が低く、運動やスポーツを全くしていない県民の割合が33.4%となっている。

この結果から、引き続き、本県のスポーツ実施率を高めるために、それぞれのライフステージに応じて気軽にスポーツに取り組める環境づくりや参加機会の拡充を図るとともに、ウォーキングやランニング、ラジオ体操など日常生活の中で手軽にできる運動やスポーツの普及・啓発に取り組み、運動の習慣化を図ることが必要である。

また、県民が気軽にスポーツ活動に取り組むことができるよう、スポーツ施設の充実や「とやまスポーツ情報ネットワーク」でのスポーツ情報の提供など、県民が日常的、主体的にスポーツ活動に取り組めるよう広報活動に努め、スポーツ環境の充実につなげてまいりたい。

(9) 障害者差別について

<いま>

障害のある人の権利擁護に向けた取組みが国際的に進展している中、国は「障害者基本法」の改正や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）の制定等を進め、平成26年1月に「障害者の権利に関する条約」を批准した。

本県においても、障害を理由とするいかなる差別もなくし、すべての障害のある人の人権が尊重されることを目指し、「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」を平成26年12月に制定し、平成28年4月1日に施行した。

障害の有無によって分け隔てられることのない社会を実現するためには、県民や事業者の方々に障害や障害のある人に対する理解を深めていただくことが重要である。

このため、県では、法及び県条例に基づき、差別に関する相談窓口や紛争解決体制を整備するとともに、障害者差別解消ガイドラインの制定や周知啓発等を行い、すべての障害のある人が安心して暮らすことができるよう障害者差別解消の取組みを推進しているところである。

【調査結果】

①障害者差別の有無の認識

問16 あなたは、日頃、生活の様々な場面において、障害がある人に対する差別があると思いますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「あると思う」が23.8%、「少しはあると思う」が51.0%で『あると思う(「あると思う」と「少しはあると思う」を合算したもの)』は74.8%である。
- ・「ないと思う」は12.1%、「わからない」は11.7%となっている。

(イ) 性別

- ・『あると思う』は、男女の差がほとんど見られない。
- ・「ないと思う」は、「男性」が13.3%に対して「女性」が10.9%と、「男性」が2.4ポイント高くなっている。

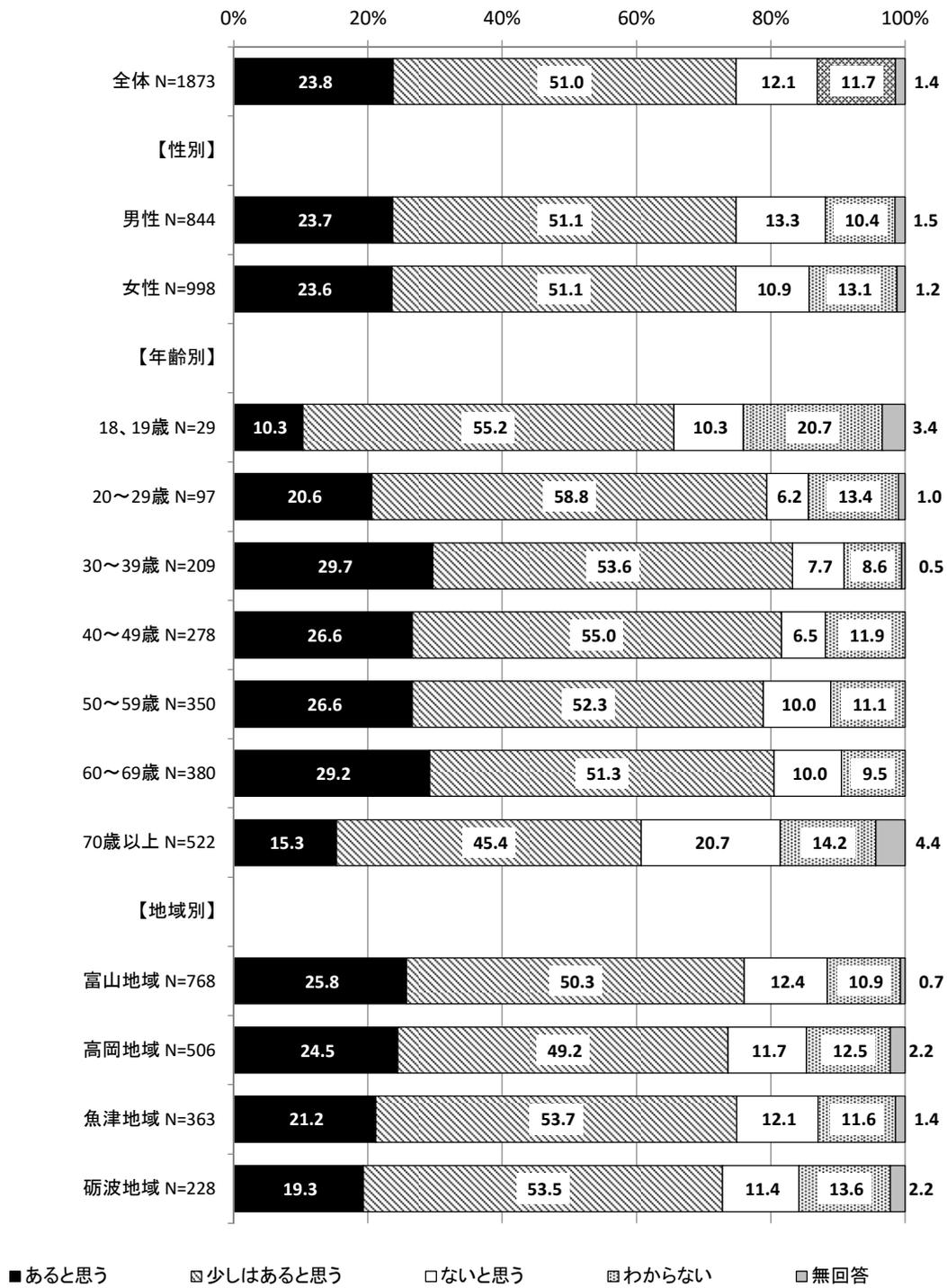
(ウ) 年齢別

- ・「あると思う」は「18、19歳」が10.3%と最も低く、「30～39歳」で29.7%と最も高くなっている。
- ・「わからない」は「18、19歳」が20.7%と最も高くなっている。
- ・「ないと思う」は「70歳以上」で20.7%と最も高く、「20～29歳」で6.2%と最も低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」は『あると思う』が76.1%と最も高く、「ないと思う」についても12.4%と最も高くなっている。

図表46 障害者差別の有無の認識



②障害者差別の改善状況

問16-1 問16で「1. あると思う」、「2. 少しはあると思う」を回答した方にお尋ねします。あなたは、5年前と比べて障害のある人に対する差別は改善されたと思いますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『改善されている(「かなり改善されている」と「ある程度改善されている」を合算したもの)』は48.7%、『改善されていない(「ほとんど改善されていない」と「あまり改善されていない」を合算したもの)』は35.6%となっている。

(イ) 性別

- ・『改善されている』は、男女の差がほとんど見られない。
- ・『改善されていない』は「男性」が39.8%に対して「女性」が32.5%と、「男性」が7.3ポイント高くなっている。

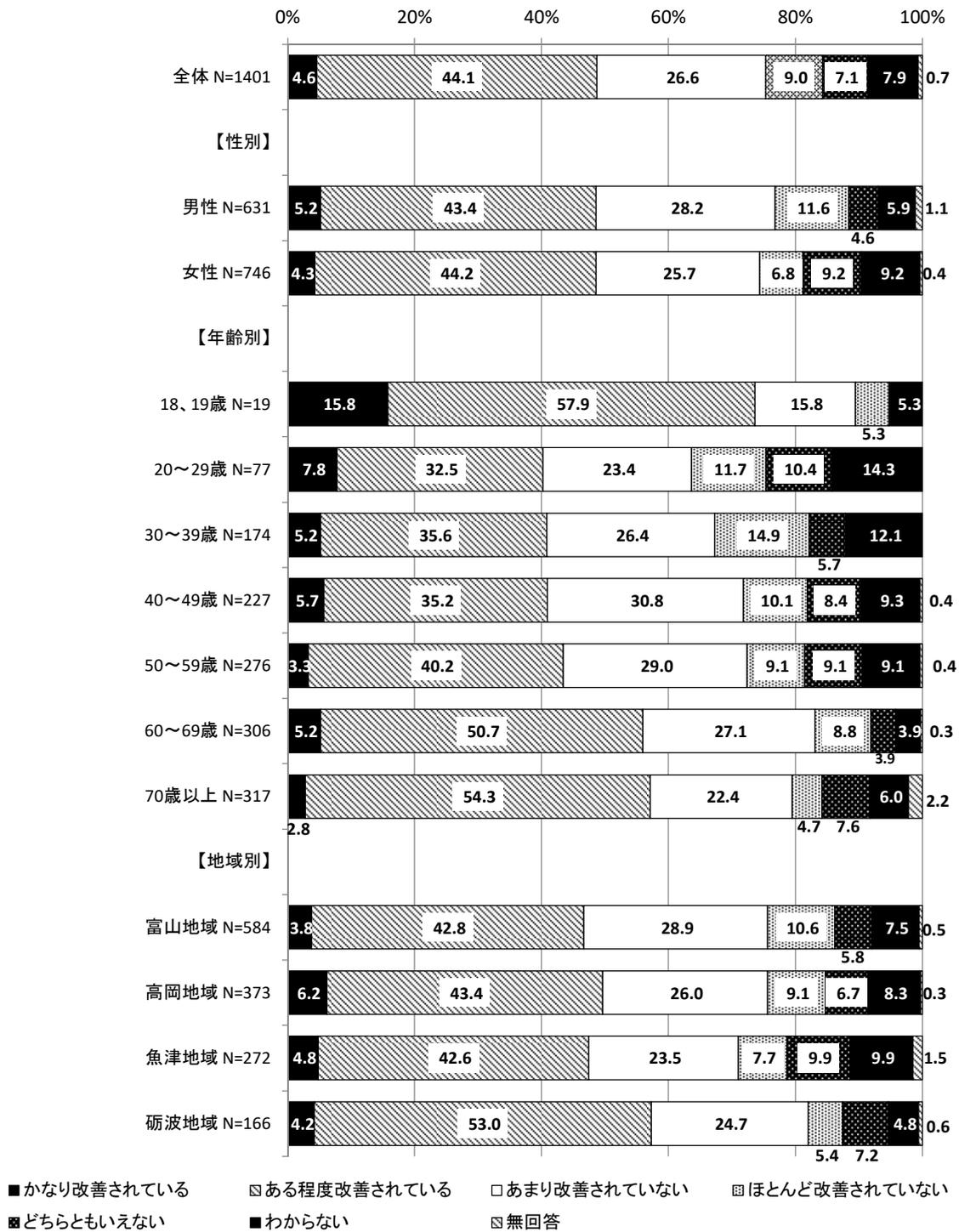
(ウ) 年齢別

- ・「18、19歳」では『改善されている』は73.7%で他の年代よりも高く、次いで60歳以上が50%台、20～59歳が40%台となっている。
- ・『改善されていない』は「18、19歳」が21.1%で最も低く、次いで「70歳以上」が27.1%と低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」では『改善されていない』が39.5%と他の地域に比べて高くなっている。
- ・「砺波地域」は『改善されている』が57.2%と他の地域に比べて高くなっている。

図表47 障害者差別の改善状況



③障害者差別をなくすために必要な取り組み

問16-2 問16で「1. あると思う」、「2. 少しはあると思う」と回答した方にお尋ねします。差別をなくすためには、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

(ア) 全体

- ・「障害者が働きやすい環境づくり」が46.5%と最も高く、次いで「学校での障害者への理解を深める教育の実施」が41.8%、「障害者が建物や施設等を利用しやすい環境づくり」が32.5%となっている。

(イ) 性別

- ・「企業や地域等での障害者への理解を深める研修等の実施」は「男性」が23.1%に対して「女性」が19.0%と、「男性」が4.1ポイント高くなっている。
- ・「学校での障害者への理解を深める教育の実施」は、「男性」が39.9%に対して「女性」が43.4%と、「女性」が3.5ポイント高くなっている。

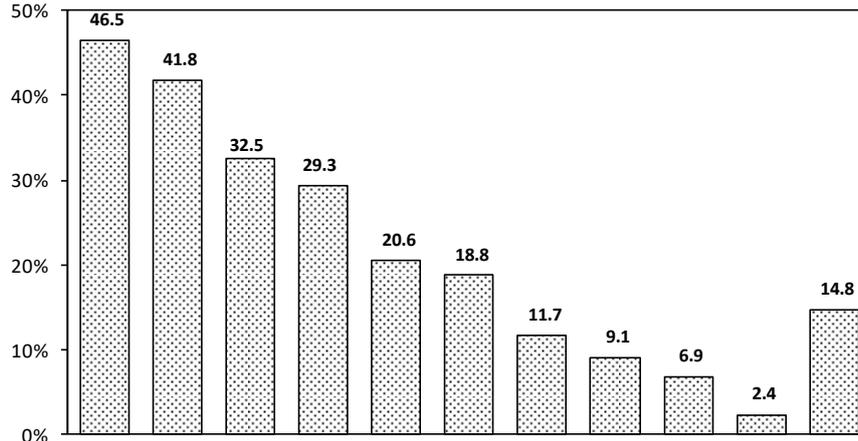
(ウ) 年齢別

- ・「学校での障害者への理解を深める教育の実施」は「18、19歳」で52.6%と最も高くなっている。
- ・「障害者が働きやすい環境づくり」は「40～49歳」で51.1%と最も高くなっている。
- ・「障害者が建物や施設等を利用しやすい環境づくり」や「障害者が交通機関等を利用しやすい環境づくり」は年齢が高くなるに従って、概ね値が高くなる傾向となっている。

(エ) 地域別

- ・「魚津地域」や「砺波地域」で「障害者が交通機関等を利用しやすい環境づくり」「企業や地域等での障害者への理解を深める研修等の実施」が他の地域に比べてやや低くなっている。
- ・「魚津地域」で「障害者福祉施設等による地域交流活動」が他の地域に比べてやや高くなっている。

図表48 障害者差別をなくすために必要な取り組み (N=1,401、M.T.=234.4%)



	有効回答数	障害者が働きやすい環境づくり	学校での障害者への理解を深める教育の実施	障害者が建物や施設等を利用しやすい環境づくり	障害者が交通機関等を利用しやすい環境づくり	企業や地域等での障害者への理解を深める研修等の実施	行政や相談機関等による障害や差別に関する情報の提供	障害者福祉施設等による地域交流活動	障害者団体等による情報発信	啓発イベントやキャンペーン等による周知	その他	無回答	
全体	1,401	46.5	41.8	32.5	29.3	20.6	18.8	11.7	9.1	6.9	2.4	14.8	
性別	男性	631	46.1	39.9	33.0	31.2	23.1	20.3	12.4	9.5	7.8	2.2	12.5
	女性	746	46.5	43.4	32.0	27.5	19.0	17.6	11.5	8.8	6.2	2.3	16.6
年齢	18、19歳	19	36.8	52.6	26.3	31.6	15.8	31.6	15.8	21.1	5.3	-	10.5
	20～29歳	77	46.8	46.8	22.1	20.8	15.6	19.5	11.7	11.7	7.8	5.2	14.3
	30～39歳	174	42.5	48.3	30.5	19.0	21.8	17.2	13.8	8.6	3.4	3.4	16.1
	40～49歳	227	51.1	49.8	30.8	27.3	22.9	18.9	7.5	6.6	9.3	4.8	11.9
	50～59歳	276	44.6	40.6	34.8	28.3	23.2	15.2	6.5	6.9	7.2	1.1	15.9
	60～69歳	306	49.3	40.2	38.9	34.3	19.6	21.6	14.4	9.8	5.6	2.0	12.7
	70歳以上	317	44.8	33.4	30.0	34.4	18.9	19.2	15.5	11.4	7.9	0.9	17.4
地域	富山地域	584	44.2	43.0	33.2	32.0	20.9	18.7	11.0	9.8	7.9	2.9	14.9
	高岡地域	373	48.5	39.9	30.8	29.5	23.3	20.6	11.0	9.1	6.2	1.9	13.9
	魚津地域	272	49.3	41.5	33.5	26.1	18.8	15.8	15.1	8.1	4.8	2.2	16.2
	砺波地域	166	45.8	42.8	33.1	24.7	17.5	20.5	10.8	9.0	8.4	1.8	13.3

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、日頃の生活の様々な場面で障害のある人に対する差別が「あると思う」又は「少しはあると思う」が7割以上を占め、依然として障害者差別が多い状況にある。また、5年前と比べ差別が「かなり改善されている」又は「ある程度改善されている」との回答は、5割弱にとどまり、従前と比べ障害者差別は減少しているとは言い難い状況であると思われる。

差別解消のための取組みとしては、「障害者が働きやすい環境づくり」や「学校での障害者への理解を深める教育の実施」、「障害者が建物や施設等、交通機関等を利用しやすい環境づくり」が必要であるとする回答が多く、県民の意識の向上に加え、障害に配慮した環境整備も求められている。

今回の調査結果を踏まえ、障害のある人に対する「不利益な取扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」の普及啓発など、各種施策に反映し、障害者差別解消に積極的に取り組んでまいりたい。

(10) 病院や診療所の運営や対応に対する要望について

<いま>

少子・高齢化が急速に進展する中で、新型コロナウイルス感染症など新興感染症への対応や、生活習慣病など慢性疾患の増加にみられる疾病構造の変化、医療技術の専門化・高度化、患者のニーズの多様化など医療を取り巻く環境は大きく変化してきている。

本県では、医療提供体制の整備充実が図られ、また、患者等への医療機関に関する情報の提供により、県民が身近なところで、質の高い医療が受けられる体制が概ね整備されている。

また、介護保険制度の定着や地域包括ケア体制の整備により医療、保健、福祉の連携が一層推進されているところである。

【調査結果】

①病院や診療所の運営や対応に対して望むこと

問17 あなた、または家族がかかっている病院や診療所（医院、歯科医院）の運営や対応に対して何を望みますか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

（ア）全体

- ・「待ち時間の短縮」が49.2%と最も高く、次いで「病気や治療・検査方法、薬の処方に関する医師、歯科医師等からの詳しい説明を受けるインフォームド・コンセントの推進」が37.0%、「診断や治療方法について主治医以外の意見を聞くセカンド・オピニオンの推進」が29.0%、「病状に応じた他の病院や診療所（医院、歯科医院）への紹介」が28.0%となっている。

（イ）性別

- ・「医師、歯科医師の親切な対応」は「男性」が18.8%に対して「女性」が25.1%と、「女性」が6.3ポイント高く、「看護師等の親切な対応」は、「男性」が9.2%に対して、「女性」が15.3%と「女性」が6.1ポイント高くなっている。

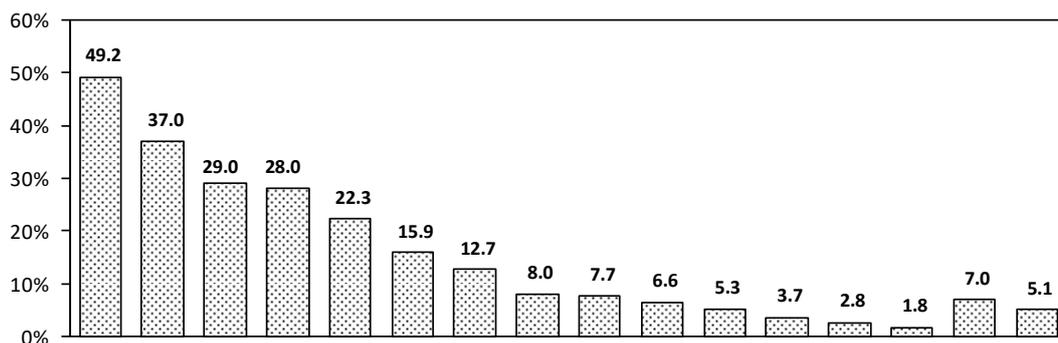
（ウ）年齢別

- ・「病気や治療・検査方法、薬の処方に関する医師、歯科医師等からの詳しい説明を受けるインフォームド・コンセントの推進」は「20～29歳」で43.3%と他の年代に比べて高くなっている。
- ・「診断や治療方法について主治医以外の意見を聞くセカンド・オピニオンの推進」は「18、19歳」は13.8%と他の年代に比べて低く、「60～69歳」は39.5%と他の年代に比べて高くなっている。

（エ）地域別

- ・「砺波地域」で「待ち時間の短縮」が43.9%と他の地域に比べて低く、「診療時間帯の拡大」は19.7%と他の地域に比べて高くなっている。

図表49 病院や診療所の運営や対応に対して望むこと (N=1,873、M.T.=242.0%)



		有効回答数	待ち時間の短縮	病気の詳しい説明を受けるインフォームド・コンセント※1の推進	診断や治療方法について主治医以外の意見を聞くセカンド・オピニオン※2の推進	病状に応じた他の病院や診療所（医院、歯科医院）への紹介	医師、歯科医師の親切な対応	診療時間帯の拡大	看護師等の親切な対応	医療事故の防止対策	1回あたりの診察時間の十分な確保	院内感染の防止対策	医療費に関する説明	往診	診療記録（カルテなど）の開示	その他	特になし	無回答
全体		1,873	49.2	37.0	29.0	28.0	22.3	15.9	12.7	8.0	7.7	6.6	5.3	3.7	2.8	1.8	7.0	5.1
性別	男性	844	51.2	34.1	28.4	29.1	18.8	17.9	9.2	7.3	7.0	5.9	5.2	2.7	2.8	1.9	7.8	5.1
	女性	998	47.9	38.8	29.4	27.5	25.1	14.5	15.3	8.3	8.3	7.1	5.1	4.6	2.8	1.8	6.5	5.0
年齢	18、19歳	29	31.0	37.9	13.8	20.7	27.6	13.8	10.3	10.3	-	6.9	6.9	-	-	3.4	10.3	10.3
	20～29歳	97	52.6	43.3	20.6	21.6	29.9	15.5	10.3	15.5	9.3	5.2	12.4	-	3.1	3.1	3.1	3.1
	30～39歳	209	53.1	33.0	21.5	22.5	31.6	21.5	18.7	11.5	7.2	6.7	4.8	1.4	3.8	2.4	6.7	4.3
	40～49歳	278	52.2	40.6	29.9	28.4	31.3	23.7	15.1	5.4	5.8	4.0	6.1	2.9	4.3	1.4	4.7	1.4
	50～59歳	350	49.4	40.3	27.4	32.6	20.9	19.1	12.0	8.3	8.0	7.7	4.6	5.1	1.7	2.3	6.0	3.4
	60～69歳	380	47.1	36.8	39.5	29.2	20.0	14.5	10.0	8.7	7.1	5.5	5.3	3.2	2.4	2.1	5.3	4.7
	70歳以上	522	48.3	33.1	27.6	27.6	14.9	8.6	11.9	5.6	9.4	8.4	4.2	5.4	2.7	1.0	10.7	8.8
地域	富山地域	768	48.7	40.0	29.9	29.8	23.0	16.1	12.0	8.7	8.1	5.5	4.8	3.5	2.5	1.8	6.1	4.2
	高岡地域	506	51.0	35.2	27.3	26.5	21.1	15.4	13.2	6.9	7.3	7.1	5.9	3.0	3.8	1.8	8.3	5.9
	魚津地域	363	51.8	33.9	29.5	26.4	23.1	13.8	12.4	6.6	8.3	8.0	5.2	4.1	2.5	2.5	6.3	5.0
	砺波地域	228	43.9	36.0	29.4	27.6	21.5	19.7	13.6	9.6	6.6	7.5	5.7	5.3	2.2	0.9	8.3	6.1

※1 インフォームド・コンセント 医療の提供に当たり、疾病の状況、治療目的、治療内容、処置に内在する危険性、別の治療法の可能性、経費などについて、医師等が、患者が理解できるような十分な説明を行い、患者の同意のもとに治療を行なうこと。

※2 セカンド・オピニオン 診断や治療方法について主治医以外の意見を聞くこと。セカンド・オピニオンを希望する患者を受入れ、又は患者に対して適切な医師を紹介すること。

②地域医療サービス向上のために行政が取り組むこと

問18 地域の医療サービスを向上させるため、あなたが行政に望む取組みはなんですか。
次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

(ア) 全体

- ・「医療従事者の確保」が38.4%と最も高く、次いで「医療従事者の資質の向上」が32.2%、「地域の中核となる高度医療を行う病院の整備」が21.1%となっている。

(イ) 性別

- ・「女性専門外来（女性の医師が女性の患者を診療）の整備」は、「男性」が4.5%に対して「女性」が20.5%と、「女性」が16.0ポイント高く、「医療相談、健康相談などの充実」は「男性」が7.1%に対して、「女性」が11.5%と、「女性」が4.4ポイント高くなっている。

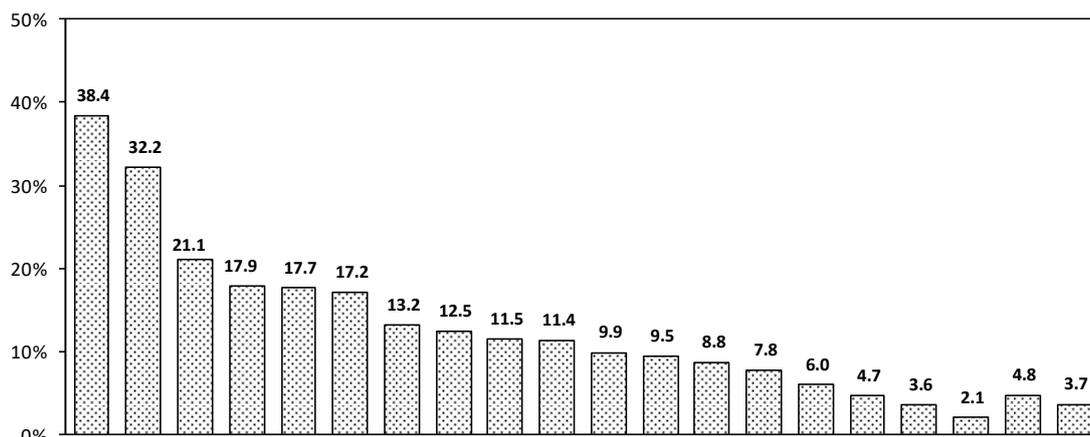
(ウ) 年齢別

- ・「医療従事者の確保」は「20～29歳」で55.7%と最も高く、また「30～39歳」、「40～49歳」で約50%と他の年代に比べて高くなっている。
- ・「高齢者に対する医療の充実」は「70歳以上」で30.7%と最も高くなっている。
- ・「産科医療の充実」は「30～39歳」で23.9%と最も高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「医療従事者の確保」は「富山地域」で42.1%と最も高く、「高岡地域」で32.8%と最も低くなっている。
- ・「産科医療の充実」は「魚津地域」で20.1%と、他の地域に比べて高くなっている。
- ・「高齢者に対する医療の充実」は「高岡地域」で21.3%と、他の地域に比べて高くなっている。

図表50 地域医療サービス向上のために行政が取り組むこと (N=1,873、M.T.=254.3%)



	有効回答数	医療従事者の確保	医療従事者の資質の向上	地域の中核となる高度医療を行う病院の整備	高齢者に対する医療の充実	救急医療体制の充実・強化	かかりつけ医の確保	女性専門外来（女性の医師が女性の患者を診療）の整備	認知症高齢者に対する医療の充実	訪問診療、訪問看護などによる在宅医療の充実	産科医療の充実	病院、診療所（医院、歯科医院）に関する情報の提供	医療相談、健康相談などの充実	がん対策の充実	リハビリテーション医療の充実	緩和ケア病棟（ホスピス）の整備	和漢診療（東洋医学）の充実	新生児医療の充実	その他	特になし	無回答	
全体	1,873	38.4	32.2	21.1	17.9	17.7	17.2	13.2	12.5	11.5	11.4	9.9	9.5	8.8	7.8	6.0	4.7	3.6	2.1	4.8	3.7	
性別	男性	844	40.3	32.8	22.7	18.6	19.4	17.7	4.5	11.1	10.9	10.8	9.7	7.1	9.7	7.0	4.6	2.7	4.1	1.7	5.9	4.1
	女性	998	36.9	31.8	19.4	17.2	16.0	17.0	20.5	13.8	12.3	11.9	10.0	11.5	8.2	8.4	7.3	6.4	3.1	2.5	3.8	3.4
年齢	18、19歳	29	41.4	27.6	24.1	-	13.8	10.3	6.9	6.9	3.4	6.9	6.9	13.8	6.9	-	-	3.4	3.4	-	13.8	3.4
	20～29歳	97	55.7	27.8	17.5	9.3	18.6	17.5	15.5	9.3	7.2	6.2	12.4	7.2	11.3	2.1	2.1	3.1	7.2	1.0	6.2	2.1
	30～39歳	209	48.3	38.3	13.9	4.3	17.2	16.3	14.4	7.7	7.2	23.9	12.4	12.0	8.6	4.3	3.8	4.3	9.1	3.3	6.2	-
	40～49歳	278	50.4	35.3	19.8	10.8	16.5	14.4	19.8	8.6	7.2	12.6	13.3	11.2	7.9	5.8	6.1	6.8	4.0	5.4	3.2	1.4
	50～59歳	350	39.4	33.1	23.1	13.4	20.9	19.7	12.9	14.9	10.6	11.7	9.7	8.0	10.3	7.4	6.9	6.9	3.4	1.7	3.4	2.0
	60～69歳	380	36.1	32.4	22.6	20.3	20.0	20.0	12.9	16.1	14.5	9.5	7.6	9.7	7.6	8.7	6.8	3.7	2.1	2.6	3.7	2.9
	70歳以上	522	26.1	28.9	22.2	30.7	14.9	16.1	9.6	13.6	15.5	7.9	8.4	8.8	8.8	11.5	6.7	3.4	1.7	0.2	5.9	8.6
地域	富山地域	768	42.1	32.7	18.4	16.3	17.1	18.8	12.4	12.0	10.3	8.6	11.1	10.2	9.4	7.3	5.7	3.6	3.6	2.5	5.1	3.3
	高岡地域	506	32.8	32.6	22.3	21.3	19.2	15.8	15.4	12.1	11.7	6.3	7.9	8.3	9.9	8.1	6.3	5.1	3.0	1.8	5.5	4.7
	魚津地域	363	38.0	30.3	22.3	18.2	17.9	16.5	11.3	14.0	14.0	20.1	10.5	7.7	8.0	8.5	6.1	5.5	3.9	2.2	3.3	2.8
	砺波地域	228	40.4	33.8	24.6	14.9	16.7	17.1	13.6	13.2	11.8	17.5	9.2	13.2	5.7	7.9	6.1	6.1	4.4	1.8	4.8	4.4

＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、前回（H29）調査と同様、病院や診療所に対する「待ち時間の短縮」や「病気や治療・検査方法、薬の処方に関する医師、歯科医師等からの詳しい説明」、行政に対する「医療従事者の確保、資質の向上」の要望が多く選択されており、医療従事者による医療サービスの質的向上が求められている。

また、「地域の中核となる高度医療を行う病院の整備」や「救急医療体制」など医療提供体制の充実も求められている。

このことから、県では、富山県医療計画に基づき、医療従事者の確保・資質の向上や救急医療体制の充実を図るとともに、機能の分担と連携を進め、患者本位の安心で質の高い医療提供体制の充実に努めてまいりたい。

(11) 食品ロスの削減について

<いま>

食品ロス削減は、国連のSDGs(持続可能な開発目標)で「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料の廃棄を半減する」という目標が設定されており、世界的な課題となっている。

我が国では、本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」の排出量は、年間約522万トン(令和2年度農林水産省及び環境省推計)と計算されており、資源・環境等の観点から大きな問題となっている。

平成28年5月のG7富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」を踏まえ、県では、食品ロス・食品廃棄物の削減を進めるため、平成29年5月に有識者や事業者・消費者の関係団体などで構成する「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置した。平成30年11月には同会議のもとに「商慣習検討専門部会」を設置し、平成31年3月には、食品ロス発生の大きな要因とされている「1/3ルール」などの商慣習の見直しに向けて、全国に先駆けて食品関連事業者、消費者、行政による共同宣言を行うなど、県民総参加の運動として取り組んでいる。

国においては、「食品ロス削減推進法」のもと、国民運動としての食品ロスの削減が推進されるとともに、令和2年3月には、「食品ロス削減の推進に関する基本方針」が策定されるなど、取組みが一層強化されている。

本県においても、食品ロス削減の取組みを総合的に推進するため、令和2年4月には、「富山県食品ロス削減推進計画」を策定するとともに、令和2年12月には、「食品ロス削減全国大会」を本県で開催するなどした。

さらに、「富山県食品ロス削減推進計画」に基づき、

- ①食品ロス削減の取組みの情報発信
 - ②食材の使いきりや飲食店等での食べ残しを削減する食べきりの推進
 - ③フードバンク活動やフードドライブ等未利用食品の有効活用
- など、食品ロス削減の取組みの加速化を図っている。

また、人や社会、環境に配慮された商品やサービスを選択する「エシカル消費(倫理的消費)」の認識を高めるため、令和4年度は、昨年度モデル的に実施した「とやまエシカルフェア」の取組みを拡大して実施した。その他、富山県消費者大会においてエシカルファッションに関する基調講演や、事業者及び専門家等によるエシカルセッションを開催し、普及啓発に努めた。

【調査結果】

①食品ロスが問題になっていることの認知度

問19 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「よく知っていた」は40.3%、「ある程度知っていた」は50.9%であり、『知っていた（「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合算したもの）』は91.2%と90%を超えている。
- ・『知らなかった（「あまり知らなかった」と「ほとんど・全く知らなかった」を合算したもの）』は5.7%となっている。

(イ) 性別

- ・『知っていた』は「男性」が89.6%に対して、「女性」が92.3%と、「女性」の方が2.7ポイント高くなっている。

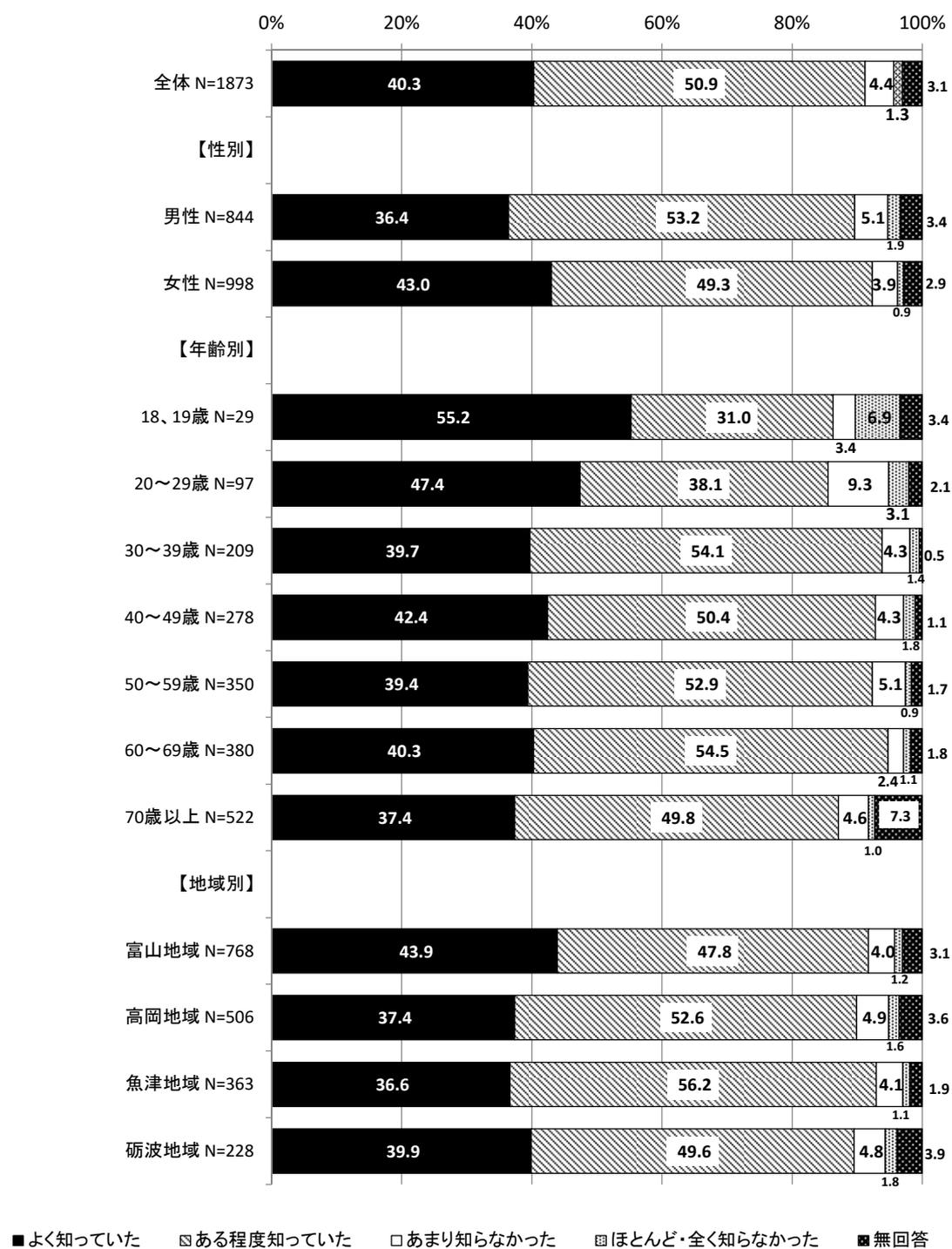
(ウ) 年齢別

- ・『知っていた』は「60～69歳」が94.8%と最も高く、「20～29歳」が85.5%で最も低くなっている。
- ・『知らなかった』は「20～29歳」が12.4%と最も高く、「60～69歳」が3.5%と最も低くなっている。

(エ) 地域別

- ・地域間に大きな差は見られない。

図表51 食品ロスが問題になっていることの認知度



②「食品ロス」軽減のために取り組んでいること

問20 「食品ロス」の軽減につながる以下の工夫の中で、あなたが取り組んでいることはありますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が67.2%と最も高く、次いで「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」が59.3%、「残さず食べる」が58.4%となっている。

(イ) 性別

- ・「宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後30分と終了前15分に食事を楽しむ時間を設定する「3015運動」を実践する」と「取り組んでいることはない」以外の選択肢で「女性」が「男性」よりも高くなっている。
- ・「取り組んでいることはない」は「男性」が3.1%に対して「女性」は1.2%と、「男性」が1.9ポイント高くなっている。

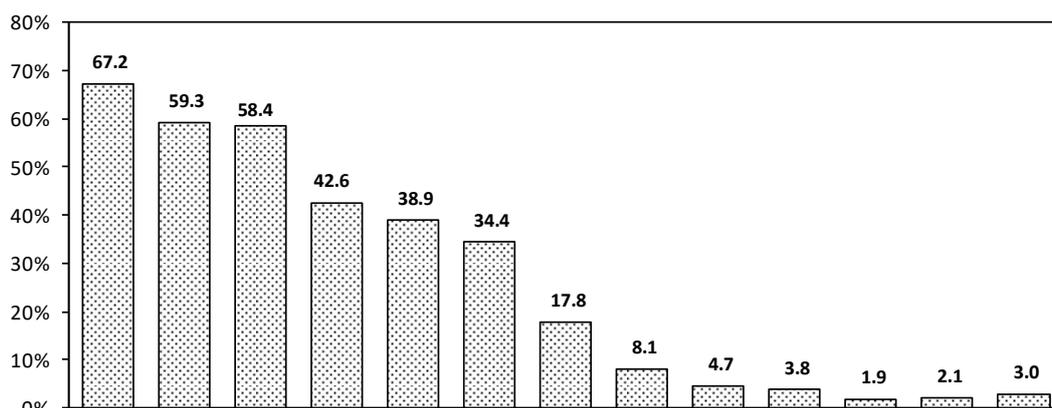
(ウ) 年齢別

- ・「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」は「18、19歳」で48.3%と最も低く、年齢が高くなるに従って概ね値が高くなる傾向となっている。
- ・「商慣習の見直し（納品期限の緩和）を先行して進めている「飲料及び賞味期間180日以上」の菓子」について賞味期限の近いものから購入する」は「60～69歳」が10.8%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」は「魚津地域」で73.0%と最も高く、「高岡地域」で62.6%と最も低くなっている。

図表52 「食品ロス」軽減のために取り組んでいること (N=1,873、M.T.=342.2%)



	有効回答数	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれず残さず食べる	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	飲食店等で注文し過ぎない	すぐに食べるものは、消費期限※1・賞味期限※1の近いものから購入する	店舗でのある程度の欠品を許容する	商慣習の見直し(納品期限の緩和)を先行して進めている「飲料及び賞味期間180日以上菓子」について賞味期限の近いものから購入する	宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後30分と終了前15分に食事を楽しむ時間を設定する	フードドライブ※3に協力する	その他	取り組んでいることはない	無回答		
全体	1,873	67.2	59.3	58.4	42.6	38.9	34.4	17.8	8.1	4.7	3.8	1.9	2.1	3.0	
性別	男性	844	60.4	53.1	57.5	32.7	35.4	30.2	17.8	7.7	5.2	1.8	1.1	3.1	3.6
	女性	998	73.2	64.7	59.3	50.9	41.7	38.0	18.2	8.2	4.1	5.5	2.7	1.2	2.6
年齢	18、19歳	29	48.3	51.7	48.3	24.1	24.1	31.0	10.3	3.4	-	-	-	6.9	3.4
	20～29歳	97	54.6	46.4	61.9	18.6	34.0	45.4	19.6	7.2	1.0	3.1	2.1	4.1	2.1
	30～39歳	209	63.6	57.4	65.1	33.0	45.5	47.8	23.9	9.6	4.8	4.8	1.4	2.9	-
	40～49歳	278	68.0	55.0	61.5	37.1	41.4	43.9	22.3	6.5	5.0	2.9	1.4	1.4	1.1
	50～59歳	350	70.0	60.9	60.9	45.4	40.0	34.3	22.9	7.1	3.4	5.7	2.0	2.0	1.4
	60～69歳	380	70.3	63.7	58.9	49.2	38.4	29.7	16.6	10.8	5.3	3.7	2.4	1.6	1.8
	70歳以上	522	67.6	60.7	51.7	48.1	36.4	26.1	10.9	7.3	5.7	3.3	2.1	1.9	7.3
地域	富山地域	768	66.8	60.7	58.3	43.5	40.0	37.2	19.7	8.5	3.9	4.6	2.0	1.4	2.6
	高岡地域	506	62.6	59.3	56.5	40.7	38.9	31.4	18.8	8.3	4.3	4.0	1.2	2.8	3.8
	魚津地域	363	73.0	58.4	58.4	43.3	37.2	33.3	16.0	7.7	6.1	2.5	2.8	2.5	1.9
	砺波地域	228	70.2	55.7	62.3	43.0	38.6	34.2	13.2	7.0	6.1	3.5	2.2	2.2	4.4

※1 「消費期限」は、開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、表示の年月日まで、安全に食べられる期限のことで、この期限を過ぎたら食べないほうが良いとされている。

「賞味期限」は、開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、おいしく食べることができる期限のことで、この期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるということではない。

※2 「3015 (さんまるいちご) 運動」とは、立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動。

※3 「フードドライブ」とは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体や子ども食堂などに寄付する活動。

③日常の買物で意識していること(エシカル消費)

問21 以下の選択肢は、「エシカル消費」の一例です。あなたは、日頃の買物で以下のことを意識していますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア) 全体

- ・「レジ袋をもらわない」が76.8%と最も高く、次いで「弁当・惣菜などを購入するときに不要なフォーク・スプーンをもらわない」が54.9%、「容器や包装の少ないものを選び、詰め替え用を購入して使っている」が38.3%となっている。

(イ) 性別

- ・「意識している」選択肢の中では「社会貢献活動に熱心な企業のものを選ぶ」以外の項目で、「男性」よりも「女性」が高くなっている。
- ・「弁当・惣菜などを購入するときに不要なフォーク・スプーンをもらわない」は「男性」が46.6%に対して「女性」が62.1%と「女性」が15.5ポイント高くなっている。
- ・「容器や包装の少ないものを選び、詰め替え用を購入して使っている」は「男性」が31.0%に対して「女性」が44.9%と、「女性」が13.9ポイント高くなっている。
- ・「ほとんど・全く意識していない」は「男性」が11.4%に対して「女性」が3.8%と、「男性」が7.6ポイント高くなっている。

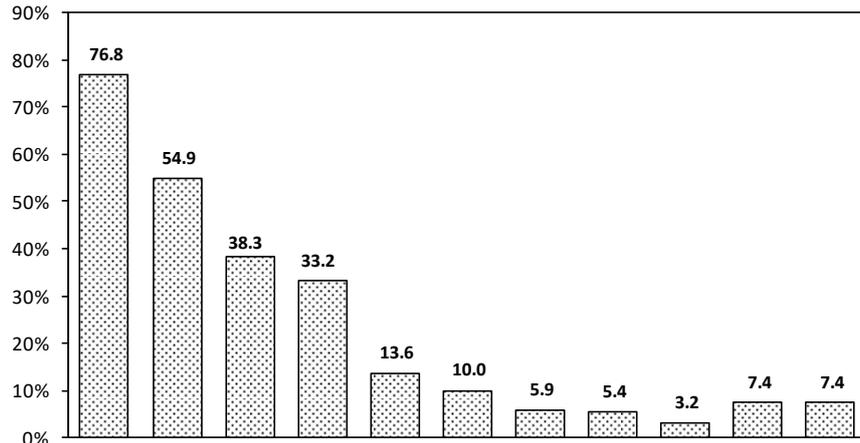
(ウ) 年齢別

- ・「意識している」選択肢は全体的に年齢が若くなるほど、概ね値が低くなる傾向となっている。
- ・「レジ袋をもらわない」は最も高い「60～69歳」が81.8%に対して、「18、19歳」は55.2%、「弁当・惣菜などを購入するときに不要なフォーク・スプーンをもらわない」は「60～69歳」が59.5%に対して、「18、19歳」は24.1%と低くなっている。
- ・一方で、「ほとんど・全く意識していない」は「18、19歳」で24.1%、「20～29歳」で18.6%と高くなっており、「60～69歳」では4.7%と最も低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「ほとんど・全く意識していない」は「高岡地域」が8.5%と、他の地域に比べてやや高くなっている。
- ・「地元産品を購入して地産地消を实践する」は「砺波地域」が37.7%と最も高く、「魚津地域」が28.9%と最も低くなっている。

図表53 日常の買物で意識していること(エシカル消費) (N=1,873、M.T.=256.1%)



	有効回答数	レジ袋をもらわない	弁当・惣菜などを購入するときに不要なフオーク・スプーンをもらわない	容器や包装の少ないものを選び、詰め替え用を購入して使っている	地元産品を購入して地産地消を実践する	リサイクル素材でできた商品(再生紙等)を選ぶ	環境に配慮されたマークのある食品・商品を選ぶ	社会貢献活動に熱心な企業のものを選ぶ	フェアトレード※商品を選ぶ	服を買うときには、使わなくなった衣料の回収をしている企業のものを選ぶ	ほとんど・全く意識していない	無回答	
全体	1,873	76.8	54.9	38.3	33.2	13.6	10.0	5.9	5.4	3.2	7.4	7.4	
性別	男性	844	70.5	46.6	31.0	26.1	11.6	8.1	7.6	3.8	2.3	11.4	7.9
	女性	998	82.9	62.1	44.9	39.1	15.5	11.9	4.7	6.9	4.0	3.8	6.8
年齢	18、19歳	29	55.2	24.1	20.7	10.3	6.9	3.4	3.4	-	-	24.1	6.9
	20～29歳	97	68.0	39.2	30.9	17.5	7.2	6.2	1.0	4.1	3.1	18.6	3.1
	30～39歳	209	72.2	47.8	34.4	27.8	8.6	7.2	5.7	5.3	2.4	9.6	6.2
	40～49歳	278	71.9	55.8	39.2	29.5	8.3	7.2	6.1	7.2	2.5	7.6	3.6
	50～59歳	350	80.6	59.1	42.0	32.6	9.7	8.0	6.9	7.1	4.0	6.0	5.1
	60～69歳	380	81.8	59.5	45.3	38.9	14.7	11.6	6.1	4.7	2.6	4.7	7.4
	70歳以上	522	78.4	55.7	34.5	37.4	22.0	14.2	6.3	4.4	3.8	6.1	12.3
地域	富山地域	768	77.9	54.9	38.0	33.6	13.8	10.3	4.7	6.0	3.1	6.9	6.0
	高岡地域	506	74.5	53.6	36.6	33.2	11.9	9.1	7.1	6.3	2.4	8.5	7.7
	魚津地域	363	78.5	57.0	39.9	28.9	16.3	12.1	7.2	3.9	4.1	6.6	9.1
	砺波地域	228	77.6	54.8	41.2	37.7	13.2	8.3	5.7	3.9	3.5	7.5	8.3

※「フェアトレード」とは、開発途上国の原料や製品を、生産者の生活に配慮した公正な価格で継続的に買い取る取引のこと。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせた「食品ロスが問題となっていることを知っていた」人の割合は、全体が91.2%に対して、18、19歳の割合は86.2%、20歳代の割合は85.5%であったことから、今後、特に若い世代の認知度の向上を図るため、働きかけを行ってまいりたい。

「エンカル消費」についても、日頃の買物で意識している割合が若い世代ほど低くなる傾向があることから、今後とも様々な広報媒体等を活用し、普及啓発に取り組みたい。

食品ロスの軽減につながる取組みの中で、「店舗でのある程度の欠品を許容する」、「商慣習の見直し（納品期限の緩和）を先行して進めている『飲料及び賞味期間180日以上菓子』について賞味期限の近いものから購入する」、「宴会時の食べ残しを減らすため、『3015運動』などの取組みを実践する」、「フードドライブに協力する」と回答した人の割合が低いことから、期限の近接した商品の優先購入や未利用食品の有効活用の促進、宴会時等の食べきり運動の一層の推進に取り組んでまいりたい。

(12) 犯罪の予防について

<いま>

県警察では、「日本一安全で安心して暮らせるとやまの実現」をめざして、県民の安心感が得られる効果的な警察活動に努めるとともに、犯罪検挙、犯罪抑止等の各種活動を推進している。

県内の刑法犯認知件数は、平成13年のピーク時から約4分の1に減少しており、とりわけ自転車盗、車上ねらい、器物損壊等の主要街頭犯罪は大きく減少している。

一方で、情報技術の発展や社会情勢の変化に伴い、被疑者と被害者が対面せずに敢行される特殊詐欺やサイバー犯罪、家族等私的な関係の中で発生することが多いストーカー・DV事案、児童虐待のほか、子供・女性に対する声掛け事案など、犯罪の態様や手口は複雑化しており、予断を許さない情勢にある。

【調査結果】

①犯罪被害に対する不安

問22 あなたは、自分や家族が、犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『ある(「よくある」と「たまにある」を合算したもの)』は53.7%に対して『ない(「まったくなく」と「ほとんどない」を合算したもの)』は38.6%と、『ある』が15.1ポイント高くなっている。

(イ) 性別

- ・『ある』は「男性」が51.4%に対して「女性」が55.7%と、「女性」が4.3ポイント高くなっている。

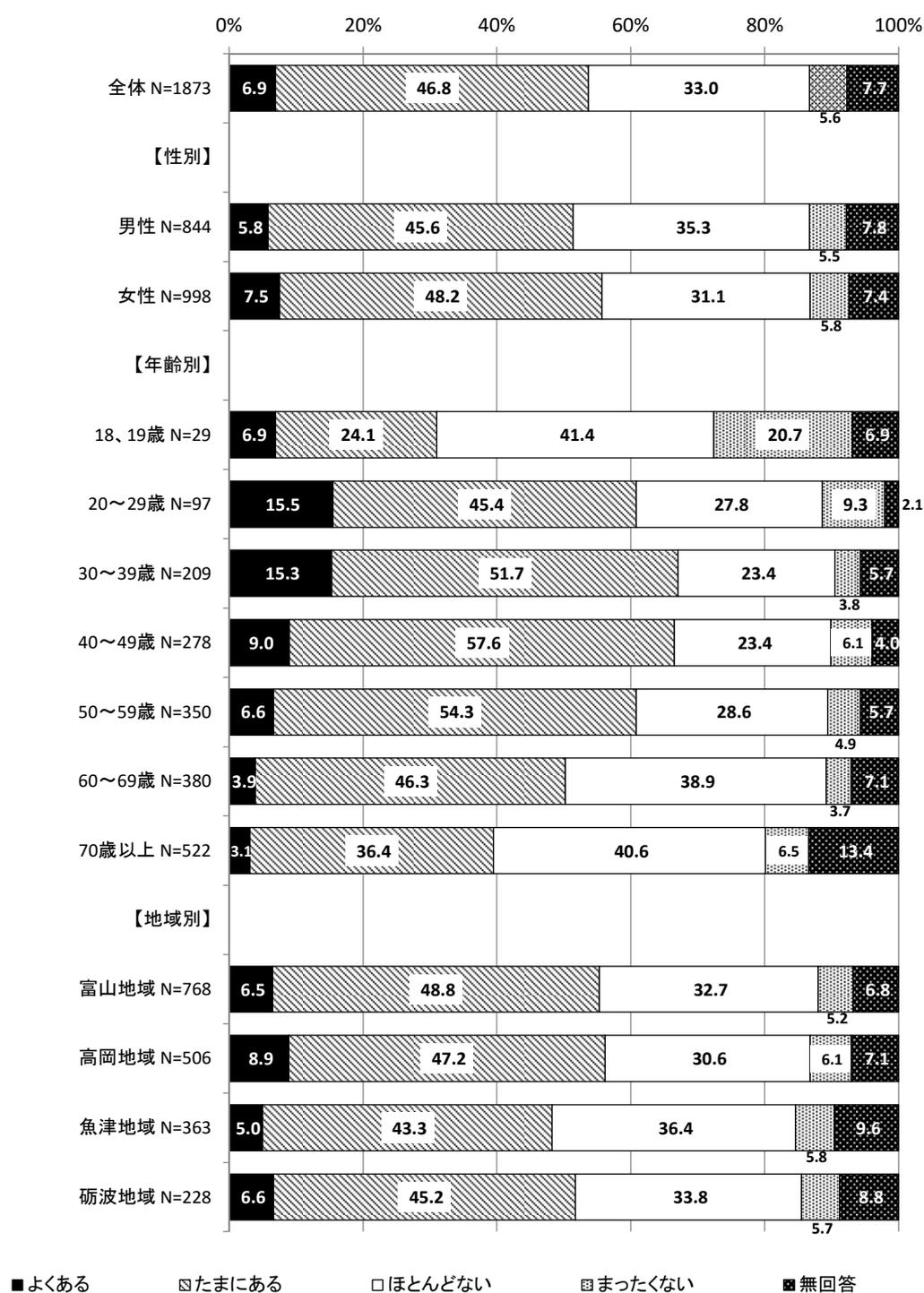
(ウ) 年齢別

- ・『ある』は「30～39歳」が67.0%、「40～49歳」が66.6%と高く、「18、19歳」で31.0%、「70歳以上」で39.5%と低くなっている。

(エ) 地域別

- ・『ある』は「高岡地域」で56.1%、「富山地域」で55.3%と高く、「魚津地域」で48.3%、「砺波地域」で51.8%と低くなっている。

図表54 犯罪被害に対する不安



②不安に感じる犯罪

問22-1 問22で「1. よくある」「2. たまにある」と回答した方にお聞きします。どのような犯罪に不安を感じますか。
次の中から当てはまるものを5つ以内で選んでください。

(ア) 全体

- ・「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が50.5%と最も高く、次いで「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」が41.9%、「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等」が41.8%となっている。

(イ) 性別

- ・「ごみの不法投棄等の環境犯罪」は「男性」が20.7%に対して「女性」が9.5%と、「男性」が11.2ポイント高くなっている。また「暴行、傷害等の粗暴な犯罪」は「男性」が25.1%に対して「女性」が17.6%と、「男性」が7.5ポイント高くなっている。
- ・「不審な声掛けやつきまとい事案」は「男性」が13.8%に対して「女性」が21.2%と、「女性」が7.4ポイント高くなっている。

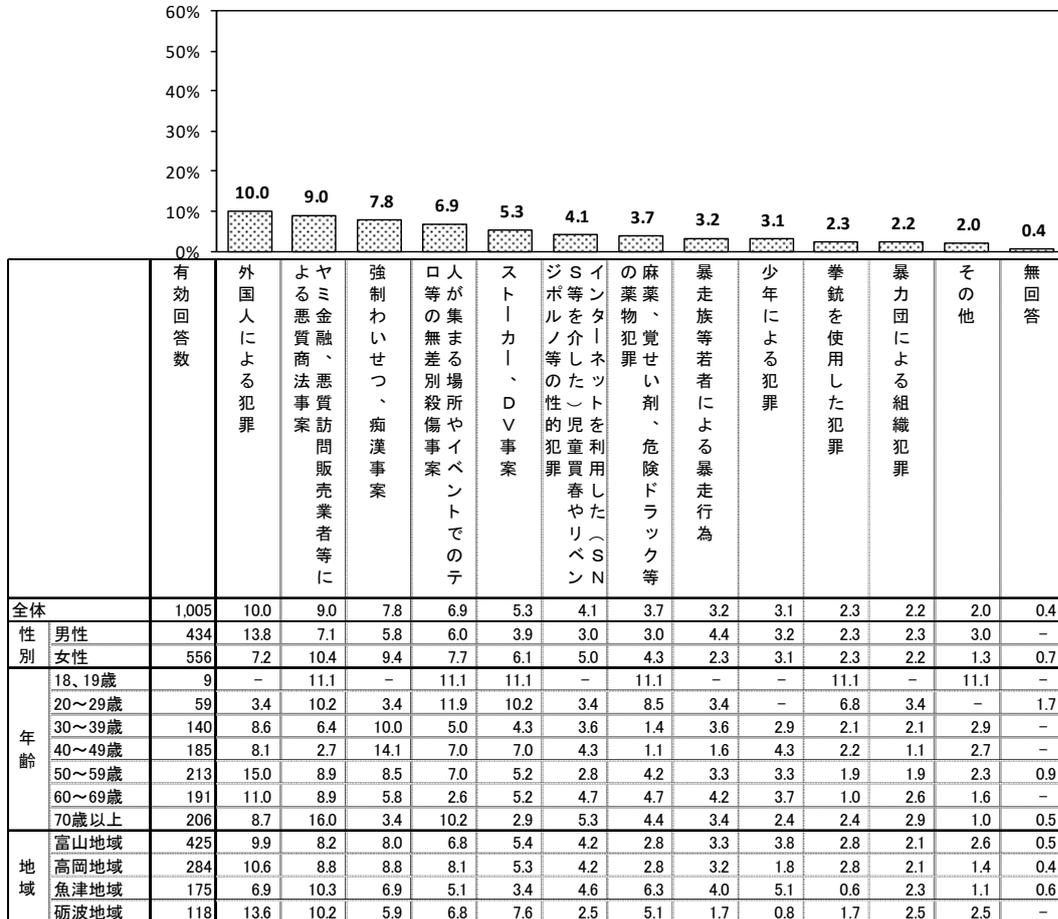
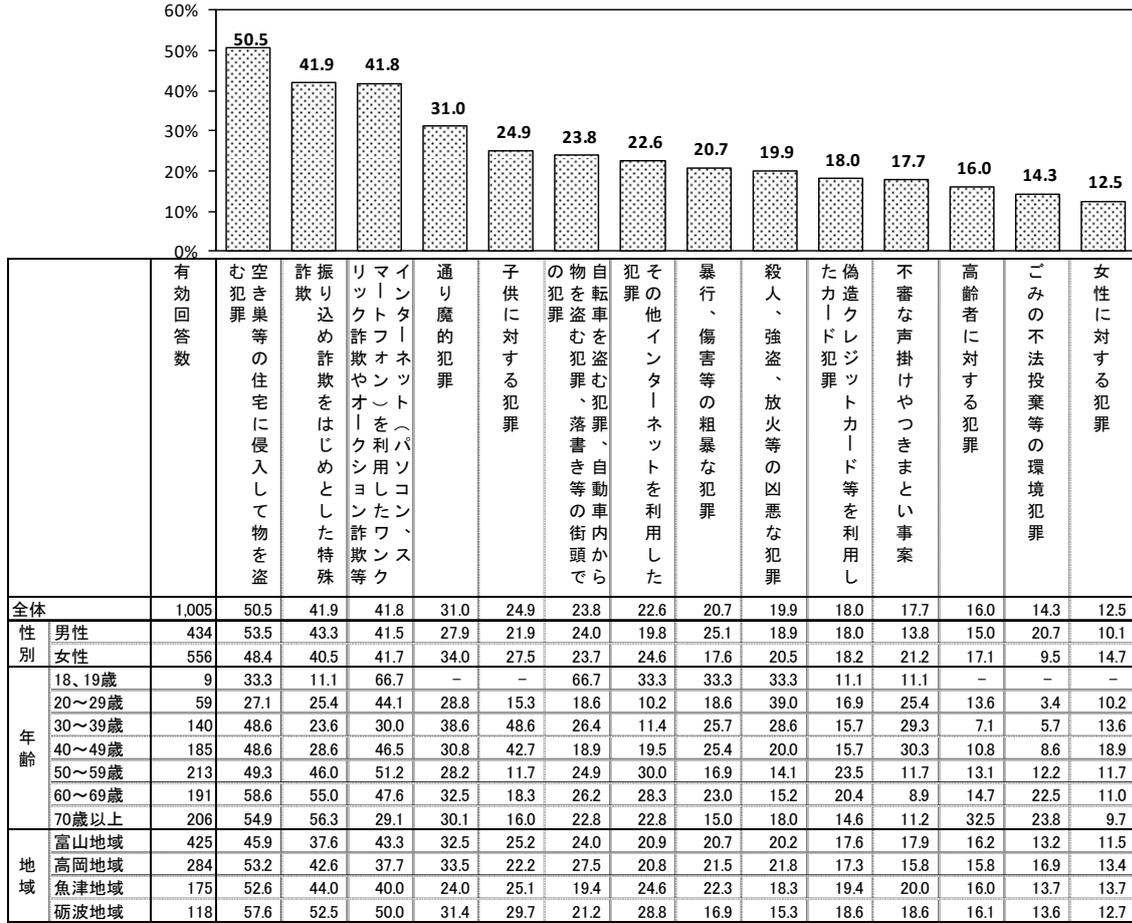
(ウ) 年齢別

- ・「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」は「20～29歳」で27.1%と低く、30～59歳では40%台、60歳以上では50%台と年齢が高くなるに従って高くなっている。
- ・「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」は「70歳以上」で56.3%と最も高くなっている。
- ・「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等」は「50～59歳」で51.2%と最も高くなっている。
- ・「子どもに対する犯罪」は、「30～39歳」で48.6%、「40～49歳」で42.7%と高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」は「富山地域」で45.9%と最も低く、「砺波地域」で57.6%と最も高くなっている。
- ・「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」は「富山地域」で37.6%と最も低く、「砺波地域」で52.5%と最も高くなっている。
- ・「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等」は「高岡地域」が37.7%と最も低くなっている。

図表55 不安に感じる犯罪 (N=1,005、M.T.=415.4%)



＜調査結果を受けて＞

犯罪被害に不安を感じる人の割合が、前回（R3）より3.6ポイント減少するとともに、不安を感じる犯罪26種のうち、14種について前回より不安を感じる人の割合が減少した。

一方、前回同様に「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」「インターネット（パソコン、スマートフォン）を利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等」が不安を感じる犯罪の上位を占めている。

県警察では、引き続き、犯罪に対する検挙活動を徹底するとともに、県や関係機関・団体と連携し、犯罪発生実態を踏まえたパトロールや地域安全メールを活用した情報発信のほか、施錠の呼び掛けや防犯カメラの設置促進、特殊詐欺に対する広報啓発活動や被害の未然防止対策、産学官連携によるサイバーセキュリティ対策など、総合的な犯罪抑止対策を推進し、県民の不安感の解消に努めてまいりたい。

3 意識調査

(1) 富山県の住みよさ

問23 次の設問について、あなたが普段どのように感じられたり、どのように思ったりされているかお聞かせください。

(1) あなたは、富山県は住みよい県だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「非常に住みよい」は26.1%、「まあまあ住みよい」は63.7%で『住みよい(「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合算したもの)』は89.8%となっている。
- ・『住みにくい(「住みにくい」と「やや住みにくい」を合算したもの)』は7.2%となっている。

(イ) 性別

- ・男女差はほとんど見られない。

(ウ) 年齢別

- ・『住みよい』は「18、19歳」で82.8%と最も低く、「20～29歳」で84.5%、「30～39歳」で84.7%となっている。
- ・一方、「40～49歳」では『住みよい』は93.5%、「60～69歳」では93.1%と高くなっている。

(エ) 地域別

- ・『住みよい』は「高岡地域」で86.6%とやや低くなっている。

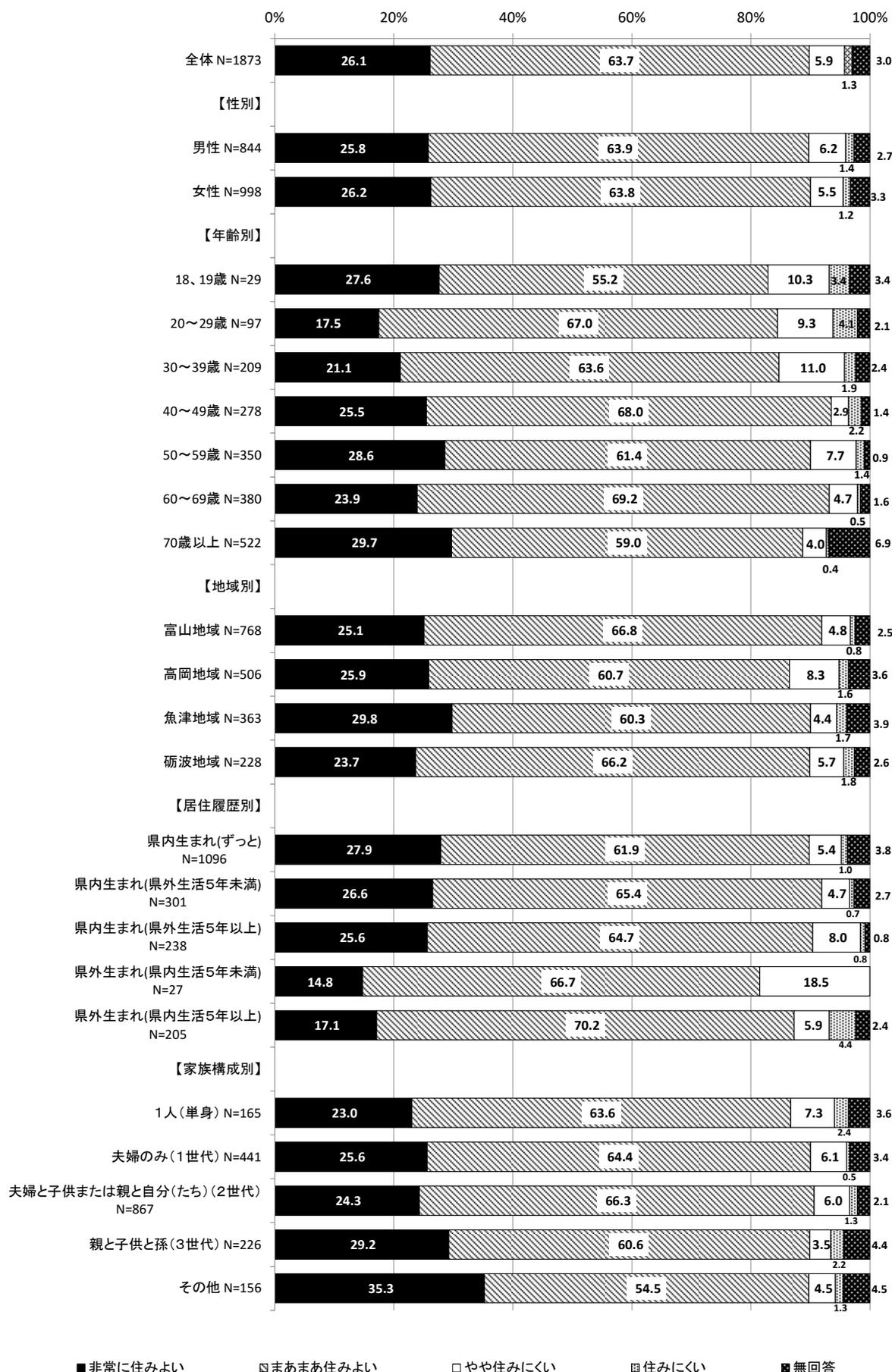
(オ) 居住履歴別

- ・「県内生まれ(県外生活5年未満)」は『住みよい』が92.0%で最も高くなっている。「県内生まれ」は「県外生まれ」よりも『住みよい』はいずれも高くなっている。
- ・「県外生まれ(県内生活5年未満)」は『住みよい』が81.5%と最も低くなっている。

(カ) 家族構成別

- ・「1人(単身)」で『住みよい』が86.6%と、他の家族構成よりもやや低くなっている。
- ・「非常に住みよい」は、「親と子供と孫(3世代)」で29.2%とやや高くなっている。

図表56 富山県の住みよさ



(2) 富山県への継続した居留意向

(2) これからも富山県に住みたいと思われませんか。次の中から1つ選んでください。
(通学、転勤等により県外に転出される予定がある方についても、ご自身の意識としてお答えください。)

(ア) 全体

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は79.6%、「県外に転出したいと思う」は4.9%となっている。

(イ) 性別

- ・男女間で大きな差は見られない。

(ウ) 年齢別

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は「18、19歳」で48.3%と最も低く、年齢が高くなるに従って概ね値が高くなっている。

(エ) 地域別

- ・地域間で大きな差は見られない。

(オ) 職業別

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は「学生」が54.5%と低くなっている。

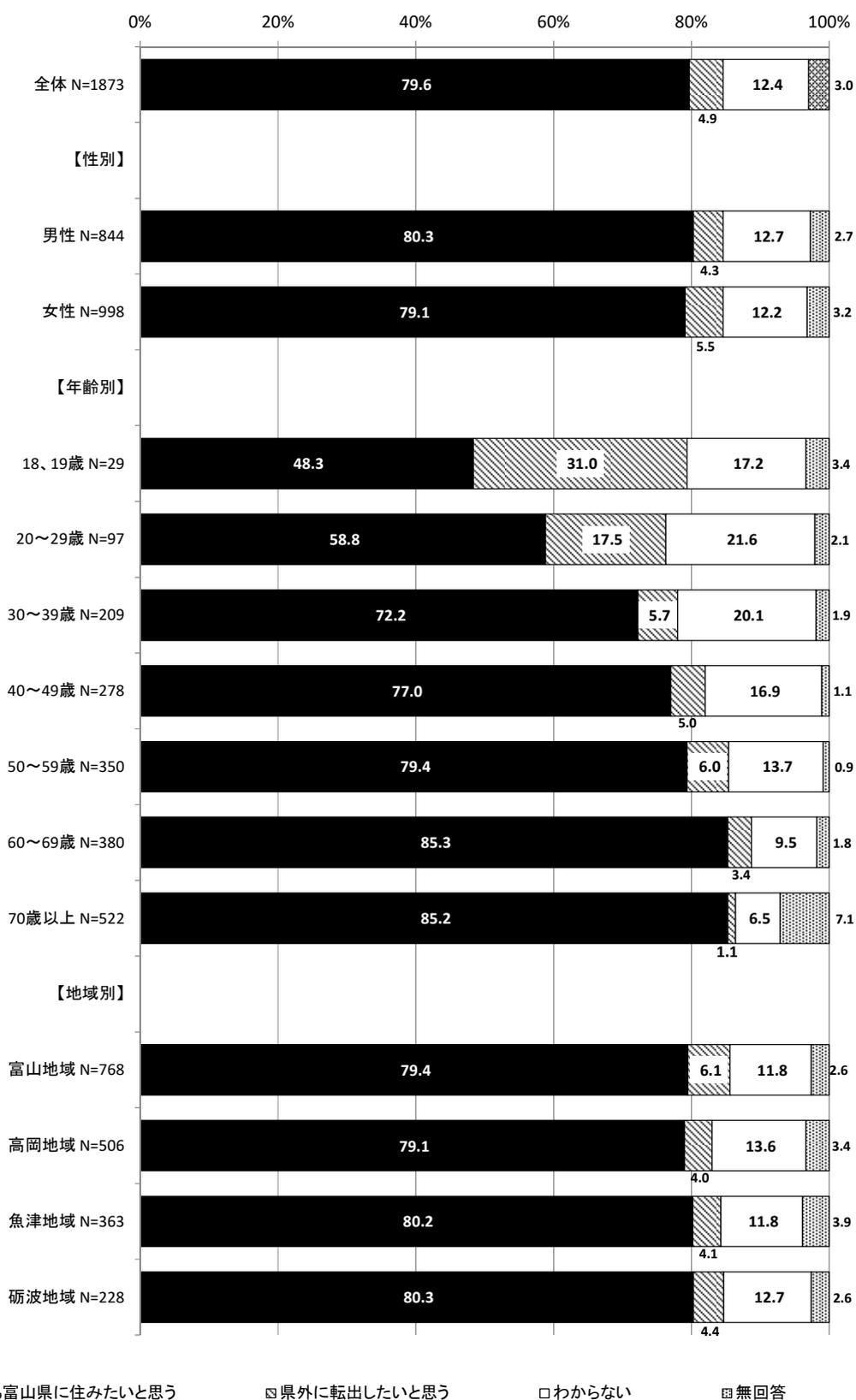
(カ) 居住履歴別

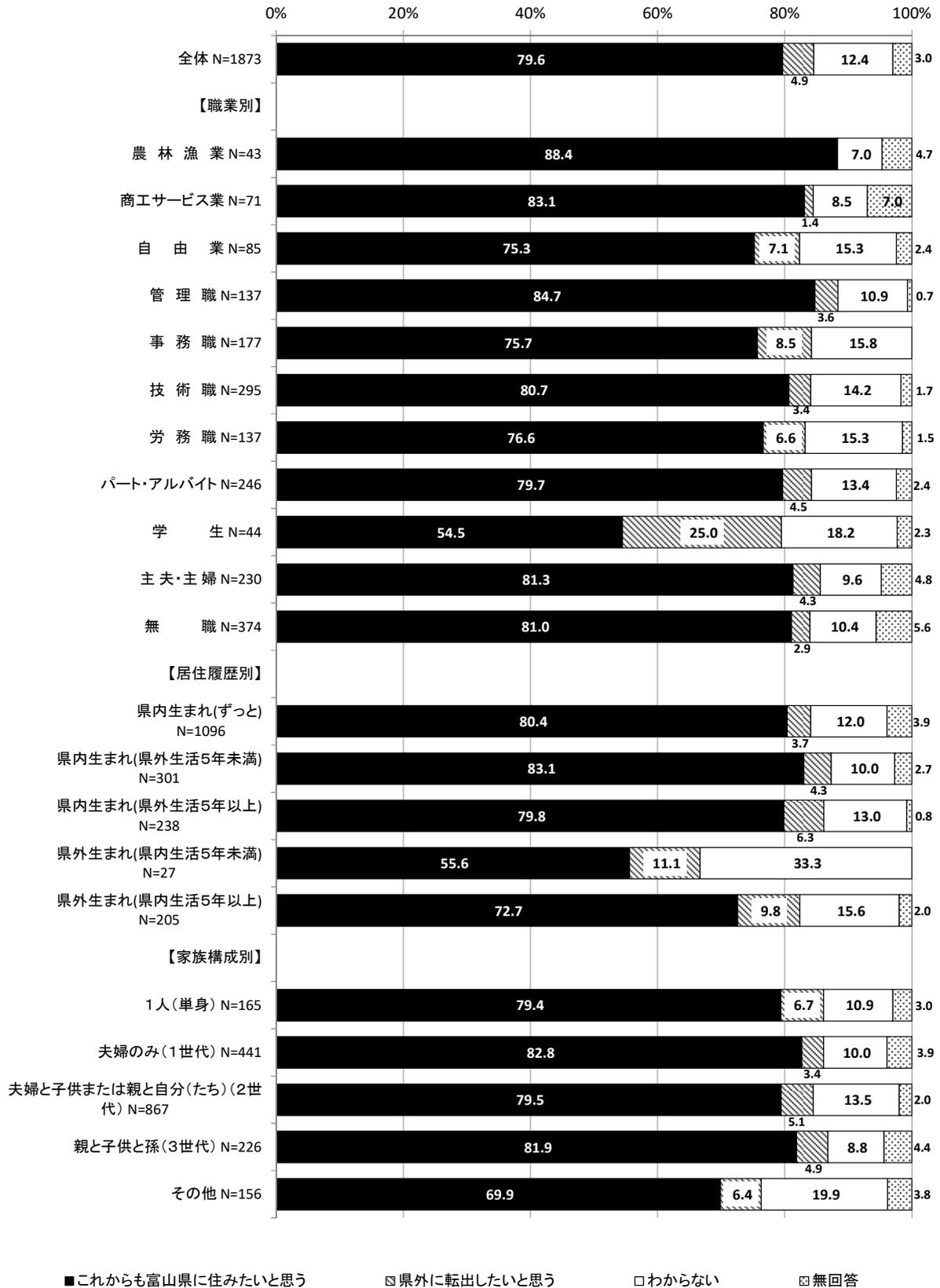
- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は「県外生まれ(県内生活5年未満)」では55.6%と最も低くなっている。「県内生まれ(県外生活5年未満)」は最も高く83.1%となっている。

(キ) 家族構成別

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は「夫婦のみ」で82.8%と最も高くなっている。

図表57 富山県への継続した居住意向





(3) 仕事の充実感

(3) あなたは、仕事に充実感（満足感）を感じていますか。次の中から1つを選んでください。

(ア) 全体

- ・『充実している（「非常に充実している」と「まあまあ充実している」を合算したもの）』は41.5%、『充実していない（「まったく充実していない」と「あまり充実していない」を合算したもの）』は10.6%となっている。

(イ) 性別

- ・『充実している』は「男性」が44.1%に対して「女性」は39.1%で、「男性」が5.0ポイント高くなっている。

(ウ) 年齢別

- ・『充実している』は「30～39歳」が最も高く51.2%、次いで「50～59歳」が50.3%となっている。
- ・『充実していない』は「20～29歳」が21.6%と最も高く、「18、19歳」、「70歳以上」を除き、年齢が高くなるに従って低くなっている。

(エ) 地域別

- ・『充実している』は「魚津地域」で37.8%と、他の地域に比べてやや低くなっている。

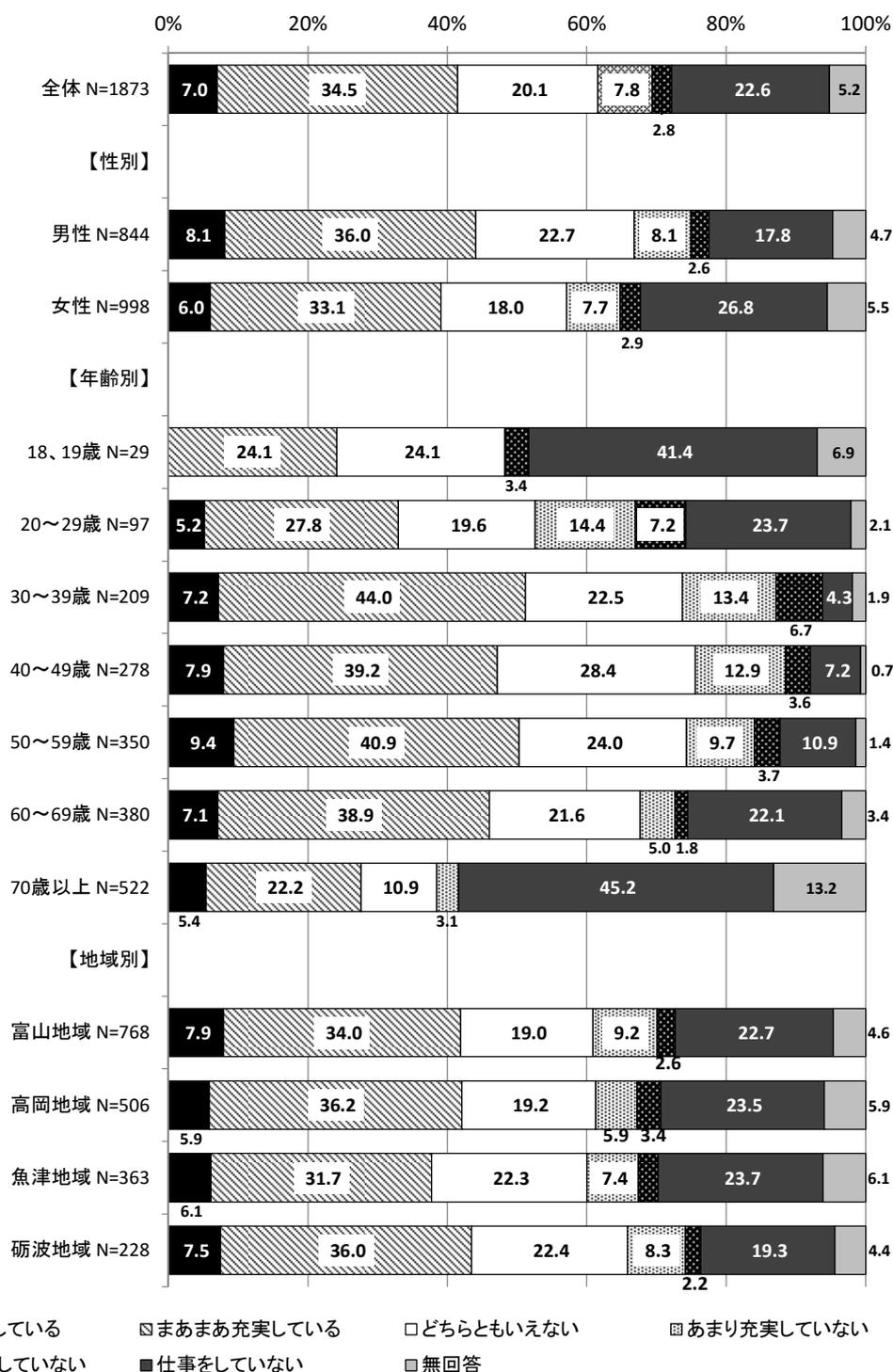
(オ) 職業別

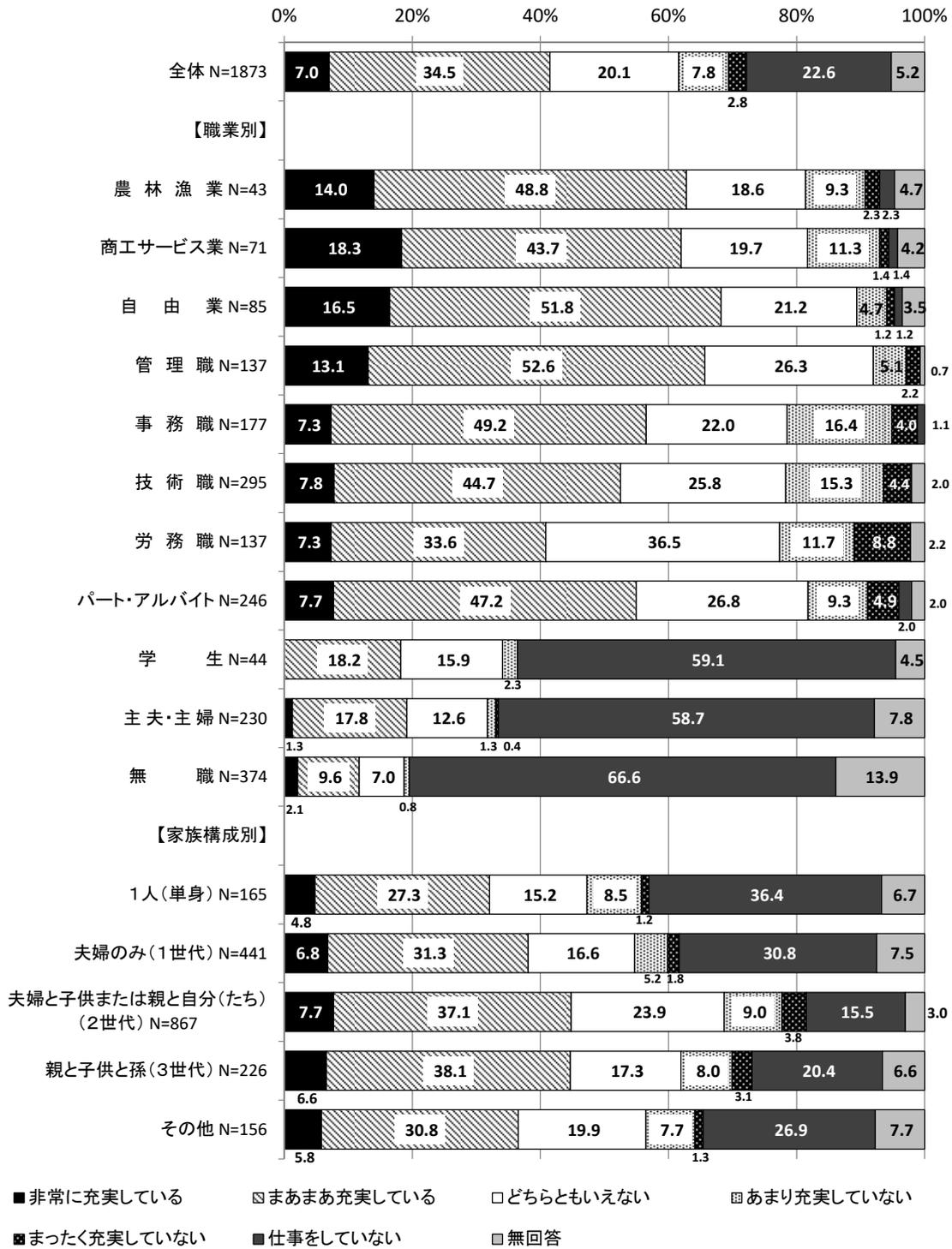
- ・『充実している』は「自由業」で68.3%と最も高く、次いで「管理職」が65.7%と高くなっている。

(カ) 家族構成別

- ・『充実している』は「夫婦と子供または親と自分（たち）（2世代）」で44.8%、「親と子供と孫（3世代）」で44.7%と高くなっている。

図表58 仕事の充実感(満足感)





(4) 富山県への愛着

(4) あなたは「富山県」に対して、どの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『愛着がある(「とても愛着がある」と「やや愛着がある」を合算したもの)』は79.5%、
『愛着がない(「まったく愛着がない」と「あまり愛着がない」を合算したもの)』は4.2%
となっている。

(イ) 性別

- ・『愛着がある』は「男性」が78.8%、「女性」は80.8%となっている。

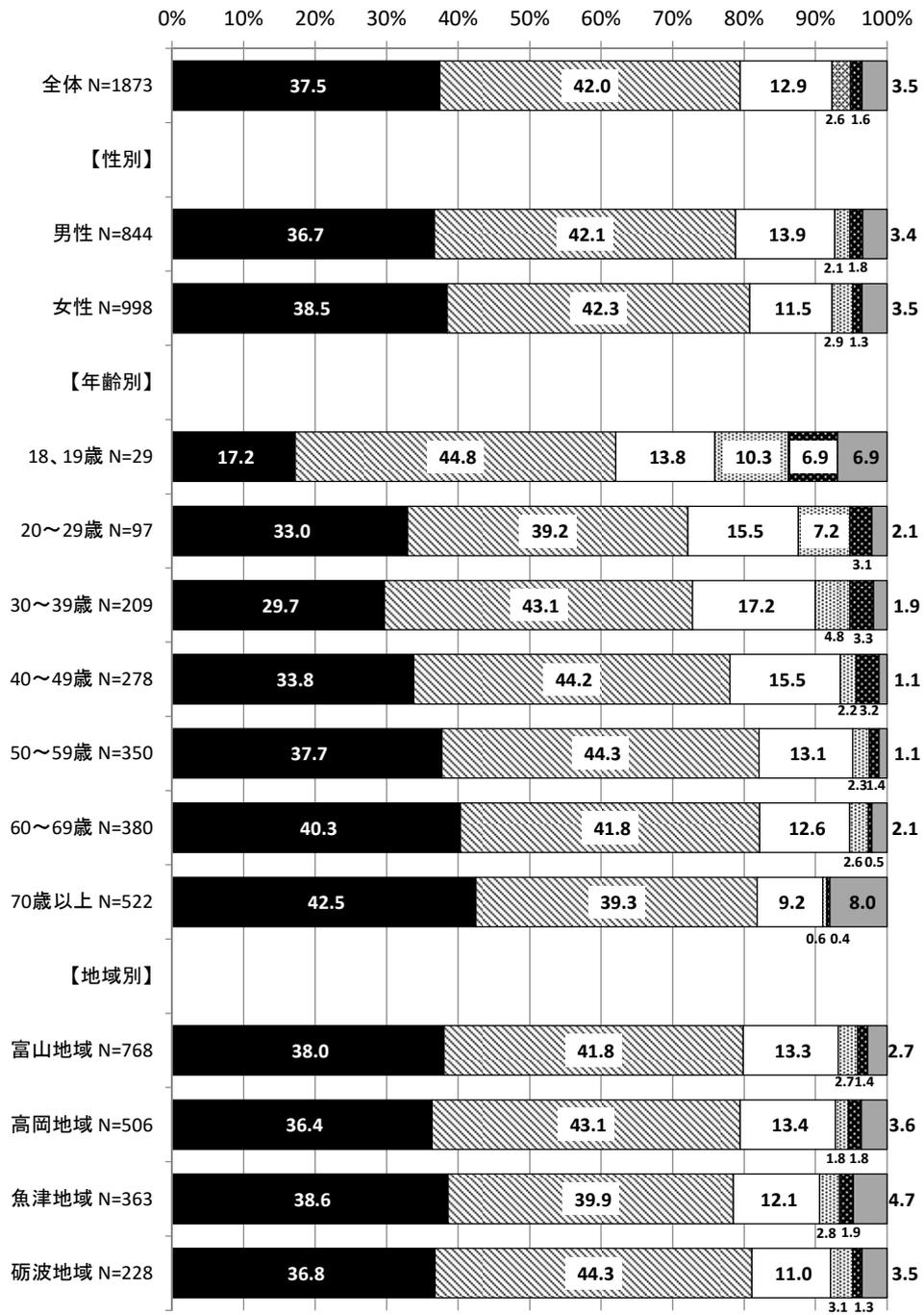
(ウ) 年齢別

- ・『愛着がある』は「18、19歳」が62.0%と最も低くなっており、年齢が高くなるに従って
『愛着がある』は、概ね高くなっている。

(エ) 地域別

- ・『愛着がある』は「砺波地域」が81.1%と他の地域に比べてやや高くなっている。

図表59 富山県への愛着



■とても愛着がある □やや愛着がある □どちらでもない □あまり愛着がない ■まったく愛着がない □無回答

(5) 富山県の誇りに思う点

(5) あなたは富山県のどのような点を誇りに思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

(ア) 全体

- ・「海・山・川・湖などの自然が豊かなこと」が85.8%と最も高く、次いで「食事がおいしいこと」が63.2%、「災害が少ない、治安や防災がしっかりしていること」が57.9%と続いている。

(イ) 性別

- ・「誇れる街並みや歴史建造物があること」は「男性」が9.5%に対して「女性」が16.4%で、「女性」が6.9ポイント高くなっている。また、「子育てがしやすい環境なこと」は「男性」が10.5%に対して「女性」が16.3%で、「女性」が5.8ポイント高くなっている。

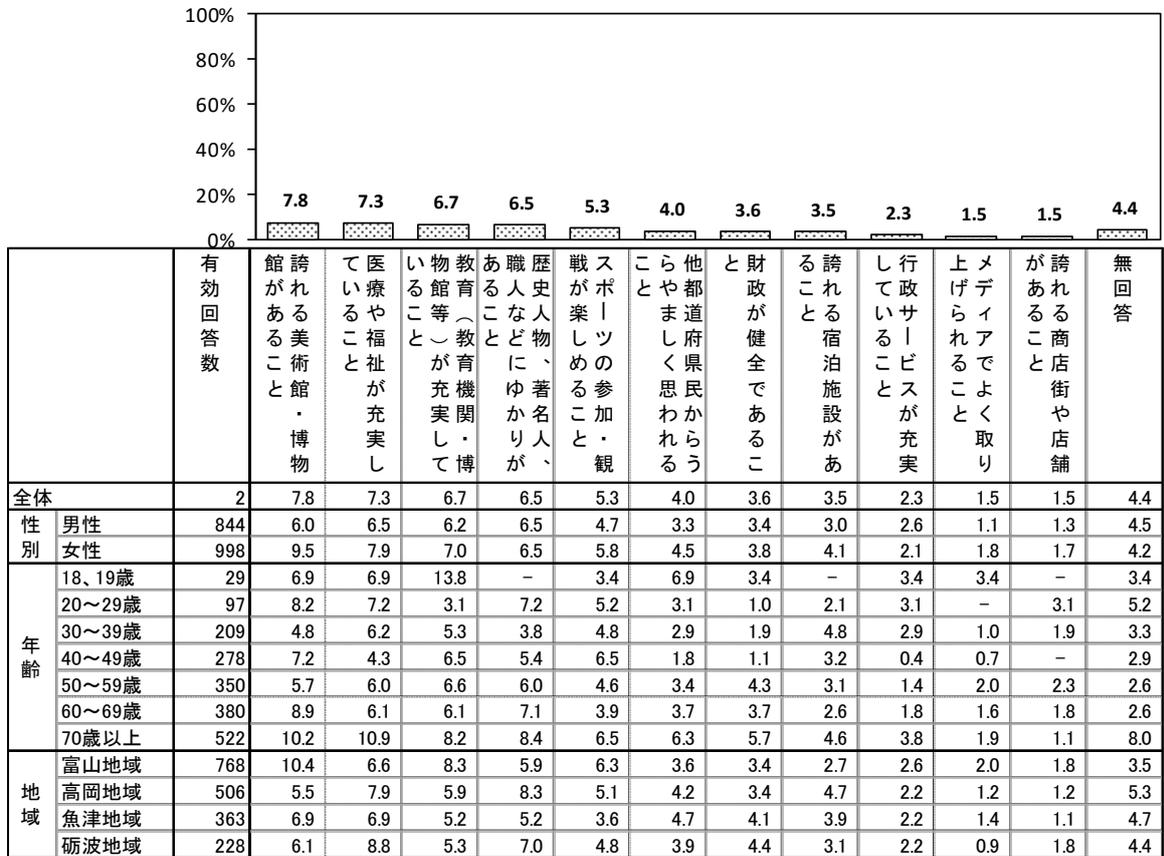
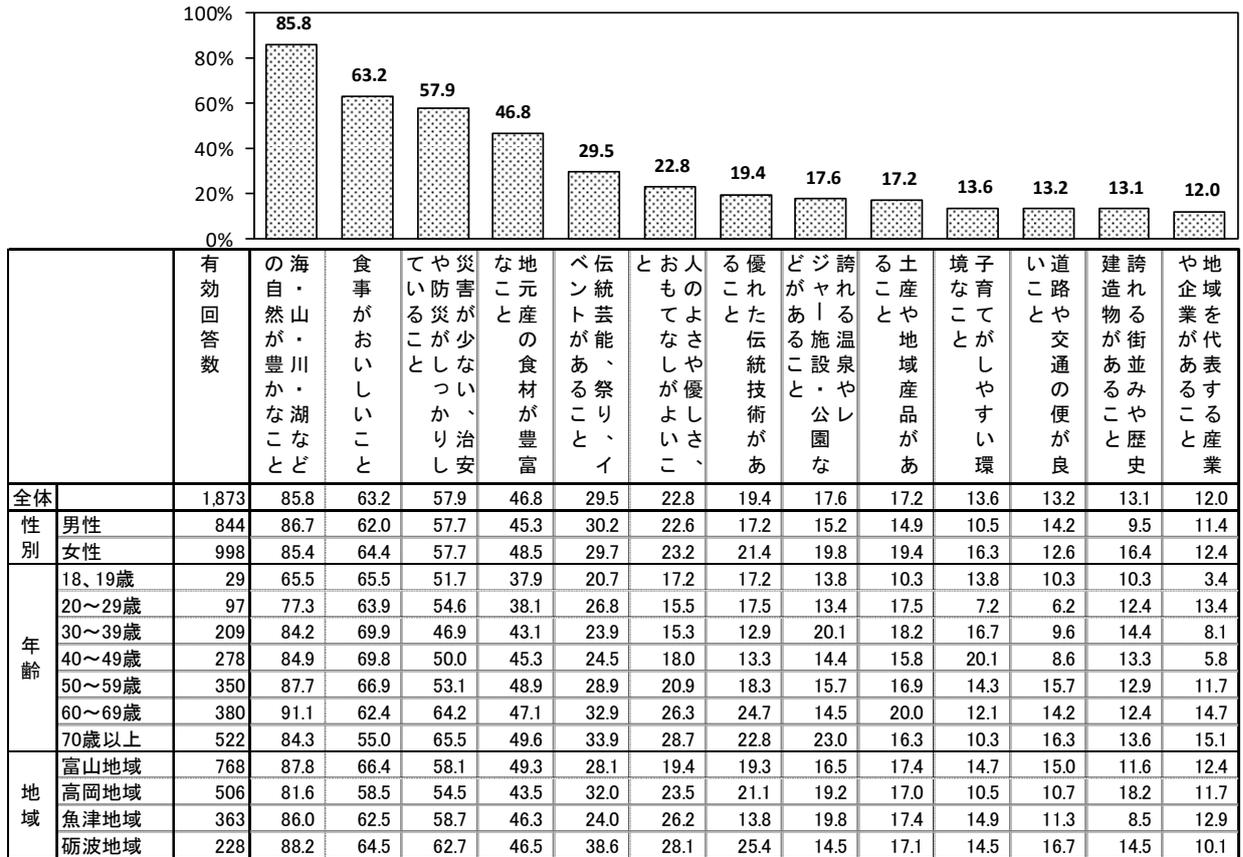
(ウ) 年齢別

- ・「海・山・川・湖などの自然が豊かなこと」は「60～69歳」で91.1%と9割を超えて高くなっている。
- ・「子育てがしやすい環境なこと」は「40～49歳」で20.1%と他の年代に比べて高くなっている。
- ・「教育（教育機関・博物館等）が充実していること」は「18、19歳」で13.8%と他の年代に比べて高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「砺波地域」では「伝統芸能、祭り、イベントがあること」が38.6%と高くなっている。また「優れた伝統技術があること」も25.4%と他の地域に比べて高くなっている。

図表60 富山県の誇りに思う点 (N=1,873、M. T.=466.6%)



(6) 県外へ奨めることができるもの

(6) 県内には、自然、歴史、文化、特産品など多くの魅力や地域資源がありますが、県外の知人、友人等に自信をもって紹介したり、奨めたりできるものがありますか。次の中から1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「たくさんある」は20.6%、「少しはある」が67.9%、「ない」は7.8%となっている。
- ・『ある(「たくさんある」と「少しはある」を合算したもの)』が88.5%となっている。

(イ) 性別

- ・『ある』は「女性」が89.9%に対して「男性」が86.9%で、「女性」が3.0ポイント高くなっている。

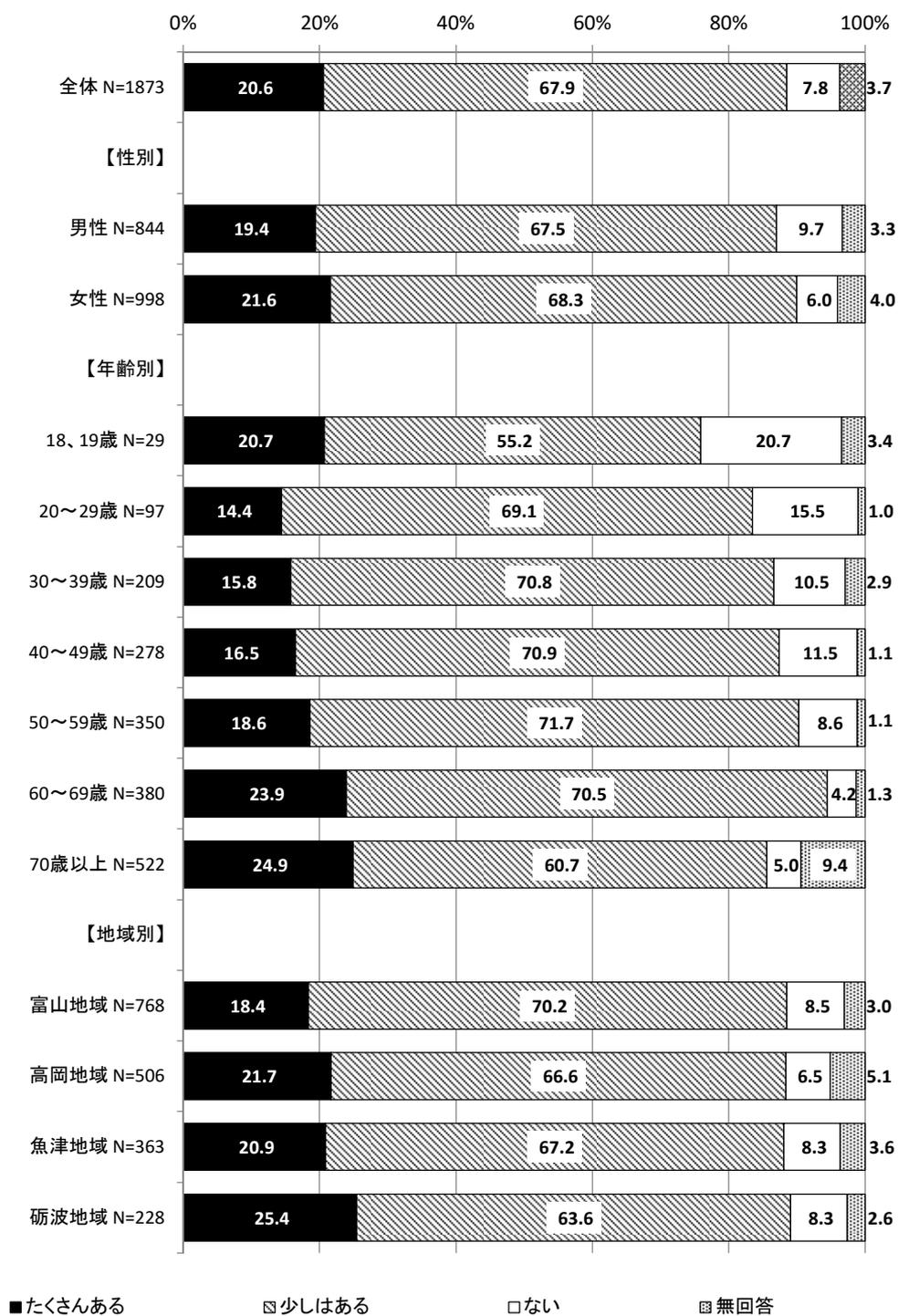
(ウ) 年齢別

- ・『ある』は「18、19歳」が75.9%で最も低く、「60～69歳」が94.4%と最も高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「砺波地域」では「たくさんある」が25.4%と他の地域に比べて高くなっている。

図表61 県外へ紹介できるもの



(7) 芸術文化に親しむ機会

(7) あなたは、県内において、音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会が充足されていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『充足されている(「十分に充足されている」と「ある程度充足されている」を合算したもの)は41.3%、『充足されていない(「まったく充足されていない」と「あまり充足されていない」を合算したもの)は43.2%となっている。

(イ) 性別

- ・『充足されている』は「男性」が39.4%に対して「女性」が42.8%で、「女性」が3.4ポイント高くなっている。

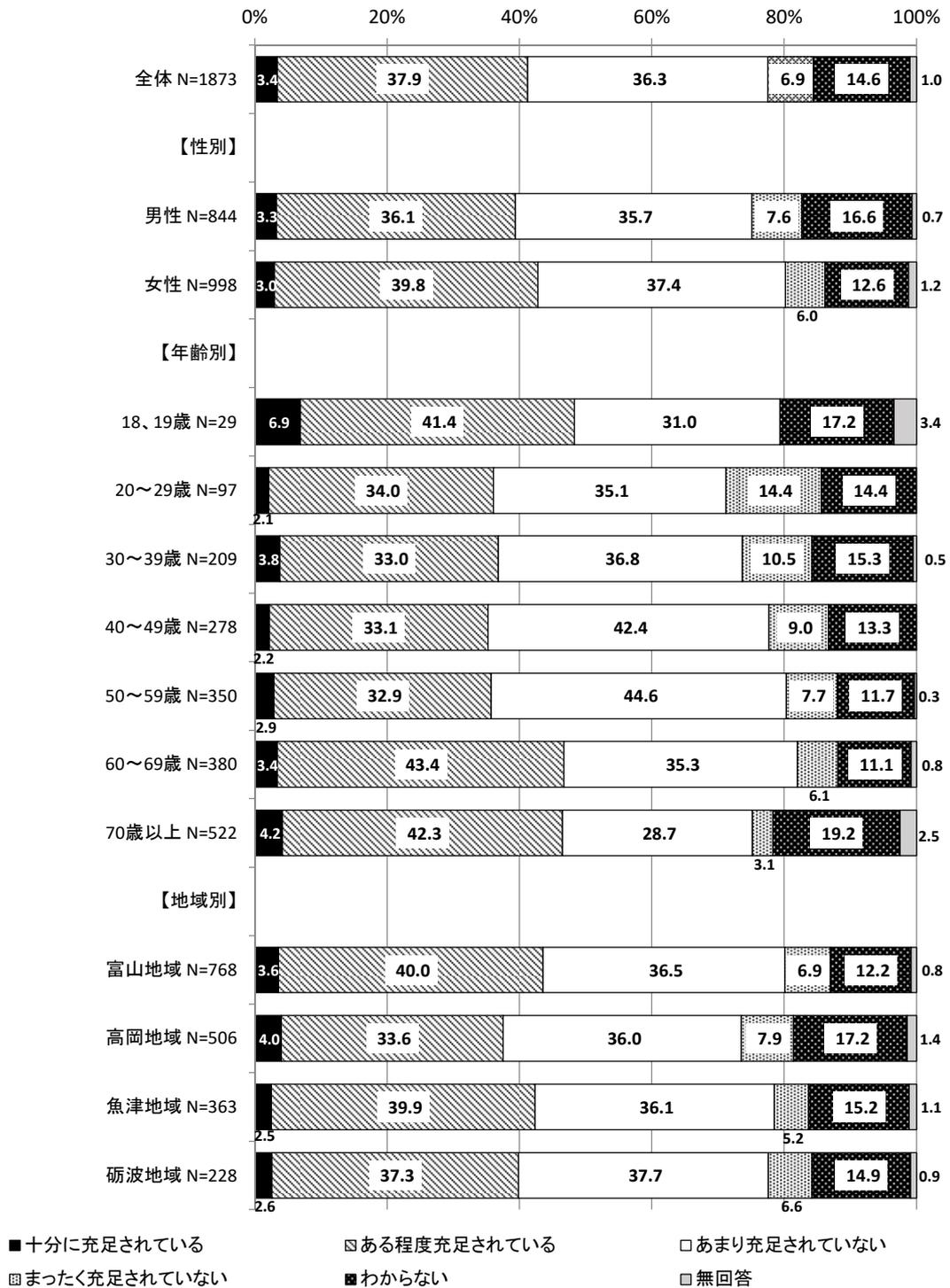
(ウ) 年齢別

- ・「18、19歳」は『充足されている』が48.3%と最も高くなっている。「18、19歳」、「60～69歳」及び「70歳以上」では、『充足されている』が40%を超え、また『充足されていない』よりも高くなっている。

(エ) 地域別

- ・「富山地域」では『充足されている』が43.6%で他の地域に比べて最も高くなっている。
- ・「高岡地域」では『充足されている』が37.6%で他の地域に比べて最も低くなっている。

図表62 芸術文化に親しむ機会



(8) 子どもの教育における家庭の役割

(8) 最近の家庭は、しつけや望ましい生活習慣づくりなど、子どもの教育において、役割を果たしていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『果たしている(「十分に果たしている」と「ある程度果たしている」を合算したもの)』が44.5%、『果たしていない(「まったく果たしていない」と「あまり果たしていない」を合算したもの)』が39.2%となっている。

(イ) 性別

- ・『果たしている』は「男性」が39.7%に対して「女性」が48.5%で、「女性」が8.8ポイント高くなっている。

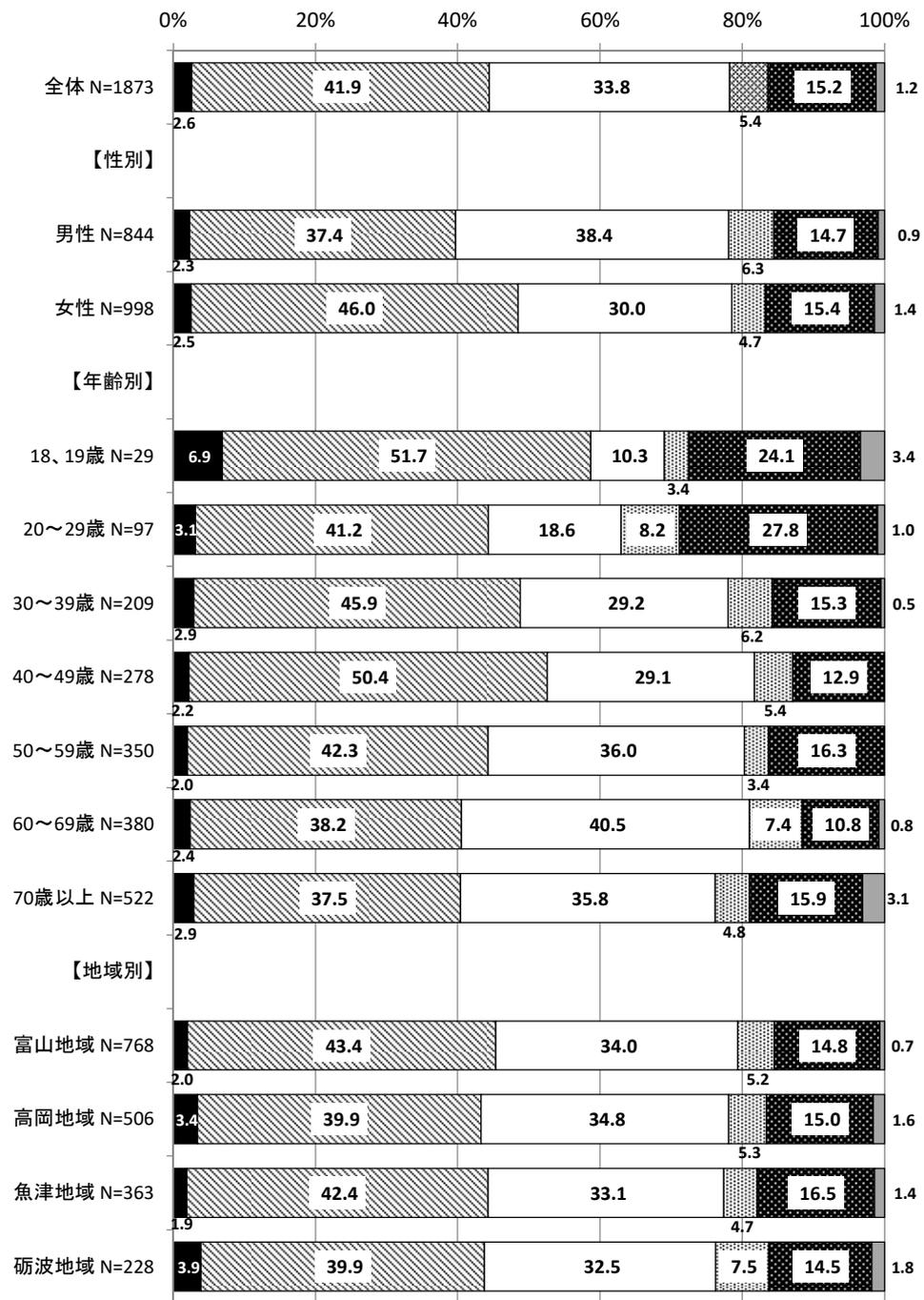
(ウ) 年齢別

- ・『果たしている』は「70歳以上」で40.4%と最も低く、次いで「60～69歳」で40.6%と低くなっている。

(エ) 地域別

- ・各地域で大きな差は見られない。

図表63 子どもの教育における家庭の役割



■十分に果たしている □ある程度果たしている □あまり果たしていない ▨まったく果たしていない ■わからない ■無回答

(9) 過去1年の生涯学習への取り組み

(9) あなたは、過去1年間に、生涯学習[※]を行ったことがありますか。次の中から1つを選んでください。

(ア) 全体

- ・「ある」が28.3%、「ない」が69.8%となっている。

(イ) 性別

- ・「ある」は「男性」が25.7%に対して「女性」が31.1%と、「女性」が5.4ポイント高くなっている。

(ウ) 年齢別

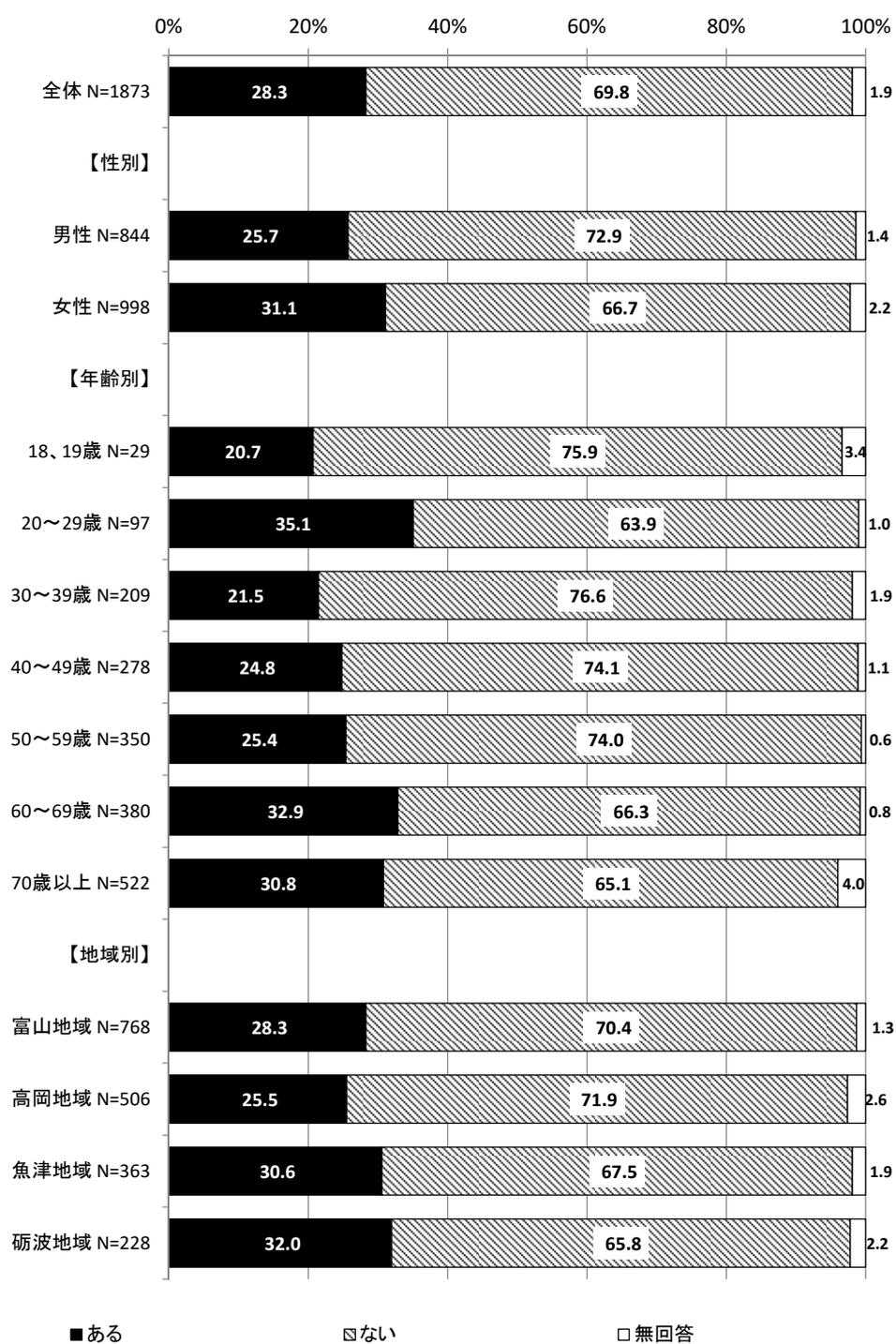
- ・「ある」は「20～29歳」が35.1%、「60～69歳」が32.9%と高くなっている。一方で、「18、19歳」が20.7%、「30～39歳」が21.5%と低くなっている。

(エ) 地域別

- ・「ある」は「砺波地域」が32.0%と高く、「高岡地域」が25.5%と低くなっている。

※ 生涯学習とは、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や公民館における社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のこと。

図表64 過去1年間における生涯学習の経験



(10) 地域活動への参加

(10) あなたが住んでいる地域の活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・『参加している(「積極的に参加している」と「ときどき参加している」を合算したもの)』が58.6%、「参加していないが、今後は参加したい」が19.9%、「参加していないし、今後も参加したくない」が20.3%となっている。

(イ) 性別

- ・『参加している』は、「男性」が64.5%に対して「女性」が53.7%と、「男性」が10.8ポイント高くなっている。
- ・「参加していないが、今後は参加したい」は「女性」が22.9%に対して「男性」が16.2%と、「女性」が6.7ポイント高くなっている。

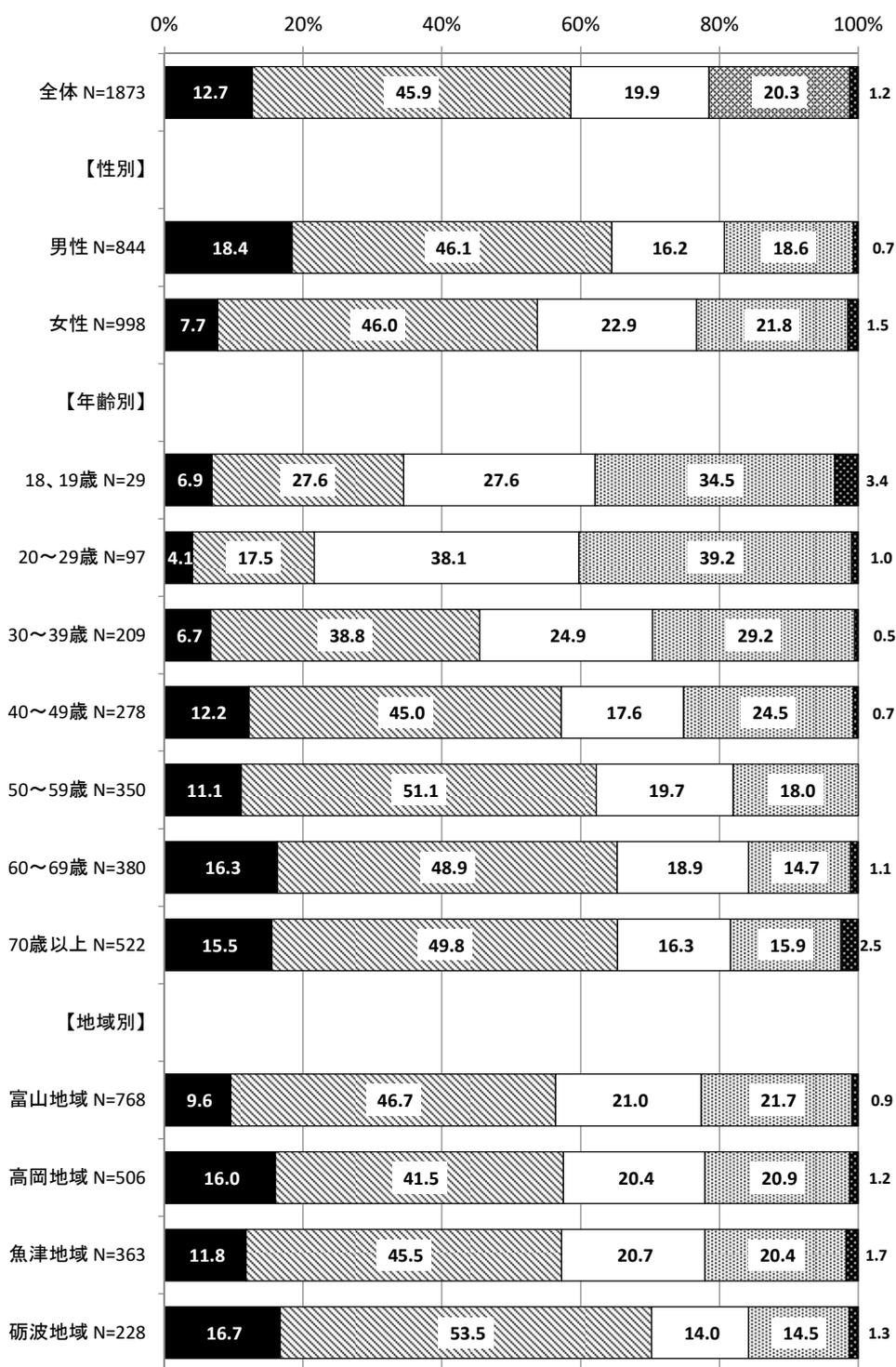
(ウ) 年齢別

- ・『参加している』は「20～29歳」が21.6%で最も低いが、「参加していないが、今後は参加したい」は38.1%で他の年齢に比べて最も高くなっている。
- ・50歳以上では『参加している』が6割を超えている。

(エ) 地域別

- ・「砺波地域」では『参加している』が70.2%と他の地域に比べて高くなっている。

図表65 地域活動への参加



■ 積極的に参加している
 □ 参加していないが、今後は参加したい
 ▨ ときどき参加している
 ▩ 参加していないし、今後も参加したくない
 ■ 無回答